REPORTS OF SUMMER EXCHANGE PROGRAM AT 3 VETERINARY SCHOOLS IN THE USA, 2014

米国三大学獣医学部夏期研修レポート　２０１４

PURDUE UNIVERSITY®

THE UNIVERSITY OF GEORGIA
THE UNIVERSITY OF GEORGIA®
College of Veterinary Medicine

THE UNIVERSITY of TENNESSEE
KNOXVILLE

Kitasato University, School of Veterinary Medicine

はじめに

1993年、獣医学科における教育研究への効果を期待して国際交流の活性化のために国際交流検討委員会が設立された。その後2年の間に米国6大学を現地訪問する等、交渉を重ね検討を行った。最終的には米国三大学（パデュー大学､テネシー大学、ジョージア大学）と学術交流協定を締結し、1995年8月に1回目の学生・教員の派遣が行われた。協定には1）獣医学科の学生に米国の臨床教育を体験する機会を設ける（参加学生には単位認定が与えられる）。2）教員を招聘し､学生･教員に講義やセミナーをして頂く。3）北里大学の教員の海外研修の機会を増やす。の主たる目的がある。5年毎に協定が更新され、今年度は4回目の交流協定更新が調印なされようとしている。特筆すべきことは米国三大学夏期研修が毎年継続されていることである。その間には9･11アメリカ同時多発テロ（2001年）もあり、日程的に研修が全く影響を受けなかったという幸運もあった。

20年目という節目の研修も無事に終わり、同行された先生（パデュー大学：岩井先生、テネシー大学：近澤先生、ジョージア大学:夏堀先生）には大変感謝している。また､各大学に研修された15人の学生（パデュー大学：6名、テネシー大学：5名、ジョージア大学：4名）には例年通り数々の貴重な体験を重ねることが出来たものと思っている。

歴史を振り返るとパデュー大学の研修生は151名（男62女89)、テネシー大学は154名（男57女97)、ジョージア大学は132名（男47女85）で、合計すると437名となる。これらの実現には米国三大学の国際交流のためにご尽力された教職員を始め、延べ60名の同行教員並びに国際交流委員会の先生方々の協力の賜物であると言えよう。招聘教員においてはパデュー大学からは19名（今年度は11月にTomohiko Inoue先生、麻酔科医が来里予定)、テネシー大学12名、ジョージア大学15名の先生が来られている。また、今年度は3.11東北大震災･原発事故後ジョージア大から、4年振りにMary Hondalus先生（感染学）を迎えることが出来た。

ジョージア大学の夏期研修当初から、鹿児島大学も参加しており、大学間の交流にもなっている。また、海外の研修制度を利用してパデュー大学の4年生3名、ジョージア大学の4年生1名を受け入れた。研修生の中には2名の学生が卒業後研修先であった大学で大学院博士課程を終了し、活躍しておられます。

この報告書も20回目となり、一人ひとりの研修内容は異なるが、それぞれが新たな歴史を作るという切っ掛けになり得たと思う。学生諸君の今後の発展の一助としてまとめられたものを皆様にも是非一読して頂きたい。

2014年11月1日

獣医学科国際交流委員長　折野宏一

これまでの米国３大学からの招聘教員および交換留学生

Purdue University

招聘年・月	氏名 Name	職位 Status	専門 Specialty
1996. 6	Dr. Ralph Richardson	Professor	Veterinary Internal Medicine
1997. 6	Dr. John Van Vleet	Associate Dean and Professor	Veterinary Pathology
1998. 6	Dr. James P. Toombs	Professor	Small Animal Orthopedics and Neurosurgery
1999. 9	Dr. Alan H. Rebar	Dean	Veterinary Clinical Pathology
2000. 6	Dr. Paul Robinson	Professor	Immunopharmacology and Biomedical Engineering
2001. 10	Dr. David J. Waters	Professor	Oncology
	(Cancelled due to 9.11 terror)		
2002. 11	Dr. David J. Waters	Professor	Oncology
2003. 11	Dr. Allan Beck	Professor	Animal Ecology
2004. 6	Dr. Harm Hogen Esch	Professor	Head of Department of Veterinary Pathobiology
2005. 11	Dr. Sophie A. Lelièvre	Associate Professor (2010)	Basic Medical Sciences
	Amanda Cole(2005.7)	Student	
2006.5	Maria Littles	Student	
2007. 10	Dr. Henry W. Green	Associate Professor	Cardiology
2008. 11	Dr. Abdelfattah Nour	Professor	Basic Medical Sciences Director of International Program
	Dr. Shulma I Mohammed	Associate Professor	Cancer Biology
2009. 5	Dr. Willie Reed	Dean and Professor	Veterinary Pathology
2009. 10	Dr. Steve Thompson	Associate Professor	Pet Primary Care
2010. 7	Dr. Brenda Austin	Assistant Professor	Small Animal Surgery
2011.11	Dr. Sophie Lelievre	Associate Director	Discovery Groups
	Joshua Taylor(2011.7)	Student	
2012. 10	Dr. Daniel Hogan	Associate Professor	Cardiology
2012. 10	Dr. Norie Parnell	Clinical Associate Professor	Small Animal Internal Medicine
2013. 11	Dr. Annette Lister	Associate Professor	Veterinary Clinical Science
2014. 11	Dr. Tomohito Inoue	Clinical Associate Professor	Anesthesiology

The University of Tennessee

招聘年・月	氏名 Name	職位 Status	専門 Specialty
1995. 9	Dr. Michael Shires	Dean and Professor	Veterinary Surgery
1996. 11	Dr. Robert Toal	Associate Professor	Veterinary Radiology
1997. 11	Dr. Robert C. DeNovo	Associate Professor	Veterinary Internal Medicine
1998. 6	Dr. Dan Ward	Associate Professor	Veterinary Ophthalmology
1999. 6	Dr. Michael Shires	Dean and Professor	Veterinary Surgery
2000. 6	Dr. James Brace	Associate Dean and Professor	Internal Medicine
2001. 6	Dr. Karen Tobias	Associate Professor	Veterinary Surgery
2003. 1	Dr. Frank Andrews	Professor	Large Animal Medicine
2003. 4	Dr. Michael J. Blackwell	Dean	Public Health and Epidemiology
	(Cancelled due to Iraq war)		
2004. 4	Dr. Michael J. Blackwell	Dean	Public Health and Epidemiology
2005.11	Dr. Sarel R Van Amstel	Professor	
2010. 6	Dr. Michael M. Fry	Associate Professor	Clinical Pathology
2011.10	Dr. Edward Ramsay	Professor	Avian & Zoological Medicine

The University of Georgia

招聘年・月	氏名 Name	職位 Status	専門 Specialty
1996. 6	Dr. Charles Martin	Professor	Veterinary Ophthalmology
1997. 5	Dr. Jean Sander	Associate Professor	Poultry Disease
1999. 1	Dr. Corrie Brown	Professor	Head of Department of Pathology
2000. 11	Dr. Margarethe Hoenig	Professor	Physiology and Pharmacology
2001. 12	Dr. Raghubir Shama	Professor	Physiology and Pharmacology
2003. 1	Dr. Duncan Ferguson	Professor	Physiology/Pharmacology and Small Animal Medicine
2004. 1	Dr. Thomas F. Murray	Distinguished Professor	Head of Physiology and Pharmacology
2005. 1	Dr. Mary Ann Radlinsky	Assistant Professor	General Surgery
2006. 6	Dr. Patrick Hensel	Assistant Professor	Dermatology
2006. 6	Dr. Ursula Dietrich	Associate Professor	Small Animal Medicine and Surgery
2007. 9	Dr. Suzan White	Professor	Large Animal Medicine
2008. 9	Dr. Amie Koenig	Associate Professor	General Internal Medicine +CE
2008. 11	Dr. Patrick Hensel	Assistant Professor	Dermatology
2009. 10	Dr. Simon Platt	Associate Professor	Neurology +CE
2010. 2	Mrs. Malorie D. Franks	Student	Class of 2011 +CE: Continuing Education (卒後教育セミナー含む)
2014. 7	Dr. Mary Hondalus	Associate Professor	Infectious Disease

米国三大学研修参加者および同行教員

年度	Purdue			Tennessee			Georgia		
	Students		Faculty	Students		Faculty	Students		Faculty
	男 M	女 F		男 M	女 F		男 M	女 F	
1995	2	3	I. Hashimoto	5	5	K. Watanabe	3	0	K. Temma
1996	0	6	T. Ogasawara	3	11	Y. Hikasa	0	5	K. Takehara
1997	1	4	To. Oyamada	0	7	Y. Ohnami	3	2	H. Madarame
1998	2	4	S. Ueno	2	6	Nobu. Itoh	2	4	S. Okano
1999	2	5	H. Itoh	1	7	S. Kawamura	3	4	S. Kurusu
2000	1	8	Y. Hara	3	5	M. Uechi	3	4	N. Maehara
2001	7	5	F. Hoshi	4	4	N. Susa	2	5	K. Mutoh
2002	2	8	I. Sakonju	2	2	S. Takai	2	5	K. Orino
2003	3	6	N. Hoshi	2	5	S. Higuchi	1	4	M. Kawaminami
2004	3	5	U. Fukushima	3	4	M. Natsuhori	2	5	H. Ikadai
2005	6	3	K. Taniguchi	4	5	T. Sano	2	5	O. Hashimoto
2006	6	3	K. Watanabe	1	6	C. Baku	3	5	T. Andoh
2007	3	4	M. Oikawa	0	8	T. Kakuda	0	8	M. Okamura
2008	3	4	Nao. Itoh	2	4	Y. Hara	3	3	K. Takehara
2009	4	3	T. Yonezawa	5	3	To. Oyamada	3	5	Y. Ohnami
2010	2	4	Y. Yoshikawa	4	3	T. Kashimoto	0	8	T. Kakizaki
2011	3	4	T. Taoda	3	5	T. Takano	4	4	T. Tanabe
2012	5	3	Y. Shimamoto	5	2	Y. Hori	6	2	K. Yoshioka
2013	4	5	M. Okada	4	3	S. Kurusu	3	5	K. Orino
2014	3	2	S. Iwai	2	4	S. Chikazawa	2	2	M. Natsuhori

The Purdue University!!

2014.8.2-17

Dr. Satomi Iwai,

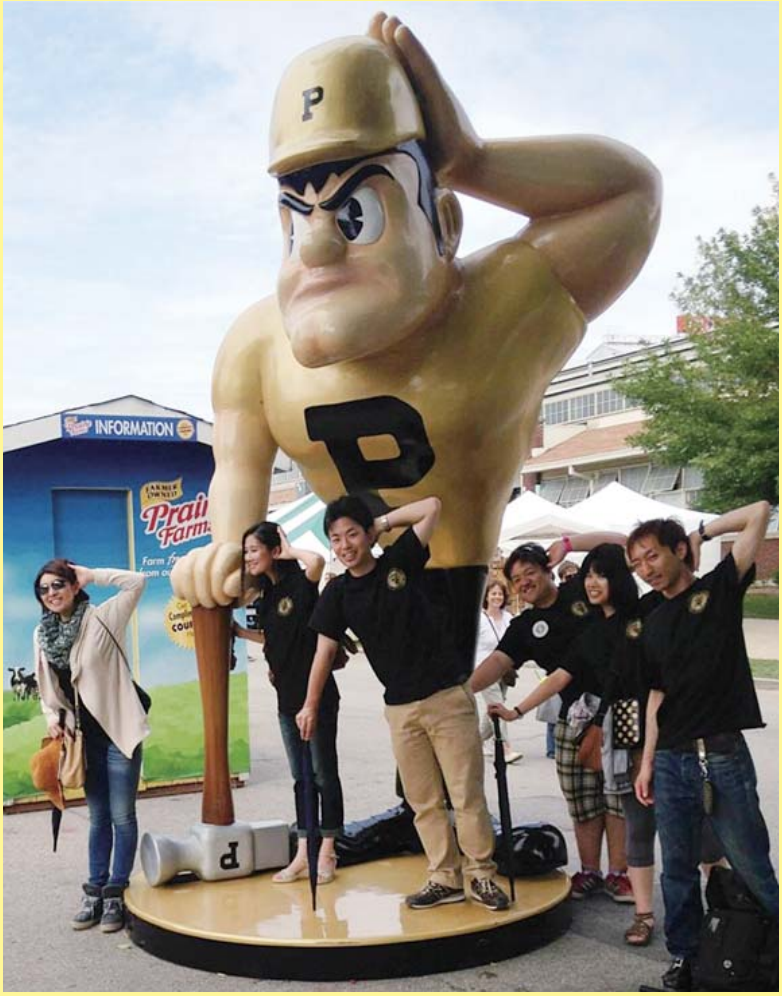
Yurika Tachibana,

Kousuke Toyohara,

Hiroya Kato,

Saori Okutomi,

Keisuke Imoto



参加者一覧

同行教員：岩井　聡美　Dr. Satomi IWAI

氏名	Name	所属研究室
井本　圭亮	Keisuke IMOTO	獣医薬理学
奥冨　紗織	Saori OKUTOMI	小動物第１外科学
加藤　寛也	Hiroya KATO	獣医病理学
立花　由莉加	Yurika TACHIBANA	獣医病理学
豊原　光佑	Kousuke TOYOHARA	獣医放射線学

井本　圭亮

8月2日（土）

出発の朝は眠い。経緯は覚えていないが僕達パデュー大学行きの5人は十和田から成田空港まで一緒に行くことになっていた。七戸十和田駅で待ち合わせ、はやぶさで上野まで行き、そこからは成田スカイライナーに乗り換え成田空港に向かう。到着すると、すでに引率の岩井先生が着いていた。合流し飛行機に搭乗する。海外旅行など慣れない僕にとっては飛行機に乗り込むまでがすでに大冒険であった。が、これはまだ旅の始まりの始まりにすぎない。飛行機とはそういうものなのかもしれないが窮屈なことこの上ない。平均的な体格の日本人男性がそう思うのだ。日本人感覚ではラージサイズの物を一般的なサイズとして普段から使用するアメリカ人が、よくユナイテッド航空のこの提案を受け入れているものだと感心してしまう。居心地の悪さを誤魔化さんがため、機内ではとにかく眠ることに集中した。機内食が出される度にムクと起き、眠り眼のまま口に放り込み再び目を閉じることを繰り返す。まるで家畜だ。だが、そのおかげでシカゴまでは早かった。シカゴで飛行機を乗り換え1時間ほどでインディアナポリスの空港に到着する。ゲートを出た途端背後から声をかけられた。これがDr井上とDrスコット・モンクリーフとの出会いであった。まるでアメフト選手のような体格をしたアジア人男性と、顔面に刻まれるシワがDrの雰囲気を醸し出す白人のマダム。旅の栞でこの二人の出迎えを知っていたためすぐに2人であると分かったが、そうでなかったら全くもって奇異な組み合わせの2人である。大学専用のバンで学園都市のあるウエストラファイエットまで運んでもらう。車窓から見る景色は一面のとうもろこし畑だ。最初は壮観であったが次第に飽きてきた。ちょうどそんな頃合いにアパートに到着した。今日から二週間を過ごす宿は日本のそこらにあるビジネスホテルよりも遥かに綺麗で広い。ビールを買いに早速皆で夜のウエストラファイエットに繰り出したのだが生憎この日は日曜日であった。アメリカでは日曜は酒類は買えないのである。帰宅し用意されたサンドウィッチを皆で食べながらひとまずはここまでの長い旅路を終えたことに安堵し合うのであった。

8月3日（日）

朝からDr井上の訪問があり街案内と称し皆で街に出る。昨日は気が付かなかったがDr井上は左耳にピアスをしている。こういう所はアメリカらしいなと思う。自由だ。昨夜一度歩いたルートではあるが夜とはまた別の表情を見せていた。インディアナ州では朝の10時ともなると日差しがかなり強く暑い。内陸であるからか空に雲はなく日本のような湿気のないカラッとした暑さである。日差しの強さは日本のそれより強く紫外線が皮膚を刺している様子が目に見えるかのようである。後になって思うのだがアメリカ人女性の肌にはシミが多い。この日感じた紫外線のイメージは強ち間違いではないのかもしれない。昼食は学生5人でハンバーガーを食べた。「FIVE GUYS」。アメリカでは誰もが知るハンバーガーチェーンのようである。バンズに挟むトッピングを自分で選択できるのが面白い。これならピクルスが駄目な人でもいちいちバンズを開けピクルスつまみ出すという手間が省けてよい。英語がほとんど理解できない僕は危うく肉のみのハンバーガーを注文するところであった。ドリンクはドリンクバー形式。大量の落花生が置いてあり無料で自由にとって食べられる。が、少し塩辛かった。

その後、アパートに戻ってからはDrスコットの車でスーパーマーケット「Wal Mart」

へ連れて行ってもらう。この時、車内にはDrスコットの息子ピーターもいた。14歳だという。体格はデカイがその顔貌には歳相応の幼さが残るシャイな男の子である…この時はまだシャイだと思っていた。ここでは食料と各自忘れたものなどを調達した。僕はここで腕時計、上履き用のスニーカー、ヘアブラシなどを購入。日本ではショーケースに陳列されているTIMEXがアメリカでは安物のサングラスなどと同じように回転式の棚に置かれているのが驚きだ。どれも30ドルほど。いい買い物をしたと思う。

夕食はレストラン「Rogan's Steak」でDr井上夫妻、Drスコット夫妻、Drタミー夫妻、学部長夫妻などと会食した。Drタミーは恰幅のいいふくよかな女性だ。その表情までもふくよかで優しそうである。旦那さんも体型でいえば少々肥満ぎみである。だが、その顔貌だけ見れば昔はかなりモテただろうと容易に想像できるナイスガイだ。隣の席が学部長の奥様で少し緊張した。注文したサーロインステーキはカスカスであまり美味しくなかった。ウエイトレスの女の子が天真爛漫といった感じでかあいい☆アイスコーヒーを注文しようと思い「ICE COFFEE!」と連呼したがなかなか伝わらない。正しくは「ICEDCOFFEE」らいし。困らせてしまったことが心苦しかった。

8月4日（月）

この日から本格的に病院での実習が始まる。朝8時に集合し皆でアパートから病院まで歩く。着いてまず応接室へ案内された。まずは学部長の挨拶があり誓約書を書かされた後はこちら側からの英語での挨拶だ。そのことを知らなかったため自己紹介と興味のある分野のみの単調な挨拶になってしまった。が、なんとか切り抜けられた。同じ研究室に昨年パデュー大学へ行った先輩が二人いるのだがこの二人からの情報にはこういった重要な事柄が欠けているので困る。その後、控え室に荷物を置き各自予定されていたローテーションに入る。今回の旅で一番緊張した瞬間かもしれない。僕はこの日から4日間Cardiologyで過ごすことになっていた。ここに来て気付くのであるがアメリカの獣医学生は9割以上が女の子である。Cardiologyも例外なく全員女の子であった。Dr井上に案内され部屋へ入ると、ちょうどエコー検査の最中であった。そのため挨拶もしないまま一緒になって心臓のエコーグラフを見ながらDrの説明に耳を傾ける。意外にあっさりとした初対面であった。一段落してからDrに自己紹介される。彼はDrイーソン。この日は症例が少なく3時には全ての症例が終わってしまいDrイーソンも帰宅するという。別れ際「See you tomorrow.」と言うと「absolutely!」と返ってきた。そのまま部屋に残っていると学生たちの雑談が始まった。居心地が悪くなった僕は病院を出て昨日Dr井上の街案内で教えてもらったユニオンで過ごすことにした（学生会館であるユニオンには色んなチェーンが入っており、ゆっくり食事も出来るようになっている）。この病院の作りは入り組んでいる。まさに迷路だ。出口を探し廊下を彷徨っていると不意に日本語で声をかけられた。この方が村上景子先生である。レジデントとしてこの病院に来ているとても優秀な方である。聞くところによるとパデューに来てまだ3週間足らずとのこと。昔、自分が上司に受けた恩を別の人に返したいという思いから困ったことがあったら何でも言ってくれと言う。そのことを岩井先生に伝えることを約束しその場は別れた。

ユニオンに着きスタバでフラペチーノを注文しパーフェクト獣医学英語を開きながら過ごす。初日からこんなんでいいのか…と自問自答しながら。17時に実習を終え集まる

ことになっていたため僕はあたかも今まで Cardiology にいましたよという態で控え室に戻った。この日はその後、パデュー名物の機関車に乗り街中を見て回ることになっていた。機関車は通行中の車を汽笛で止め暴走、いや疾走する。最初は人目が恥ずかしくて仕方がなかったが徐々にこれには慣れてきた。この日も快晴で黒い車体の上はとにかく熱かったが、車両が木陰に入ると風まで冷気を帯び心地よい。そのままアパートまで運んでもらい 1 日を終える。

8 月 5 日（火）

この日の Cardiology は朝からミーティングがあった。Dr の講義も兼ねているようで所々で学生に問いをかけるというもの。この日は心雑音についてと右心負荷について。どうやらその日くる症例についての予習も兼ねているようである。その後いつもの診療に入る。この日最初はビーグル犬。聴診させてもらっていいか？と Dr イーソンに訊ねると快諾してくれた。雑音は判別できなかったがカラードプラーは拡張期に逆流を描いているのが分かる。その次に来た猫では心拍数が異常に高く、エコー検査で病態を鑑別できなかったらしい。頚静脈採血が行われた。頚部の毛を剃ると拍動している頚静脈が見えた。右心の房室弁に異常があるのだろうと思い質問すると、これはエキサイティングによるものだという返答が返ってきた。興奮状態でこのような拍動がみられるものなのだろうか…判然としなかったが詳しく議論するための語学力が僕にはないので仕方がない。この日は少し強引なくらいに自分から質問することを心掛けた。が、やはりうまくコミュニケーションできない。せめてもう少し相手の言っていることが聴き取れればなと思う。受験の時からそうであるのだが僕は人一倍英語のリスニングが出来ないのだ。夕食は皆でメキシコ料理屋へ行った。

8 月 6 日（水）

この日は朝からオペ。水曜はオペ日のようである。肺動脈狭窄に対してのバルーン拡張術。助手はエリカ。頚静脈からワイヤーを入れそれに沿ってチューブを心臓まで入れる。造影剤を流すと右心－肺動脈－肺－肺静脈－左心－大動脈までの血液循環がよく分かる。この造影にて肺動脈弁の狭窄部位の幅を測り使用するバルーンの大きさを選択するのだという。バルーンチューブを入れ膨らまそうとするのだが、狭窄部位で膨らまそうとするとバルーンが逃げてしまい四苦八苦していた。

昼休みには僕等によるプレゼンテーションが待っていた。スライドはすでに日本にいるうちに完成していたので最後の詰めにと昨夜説明を大幅に訂正していた。そのことが仇と成る結果となる。ノートにある訂正を加えすぎた英文は、どこを読み次にどの文につながるのかがカオスなものとなっていたのだ。スライドをめくるタイミングとの不一致も出てしまっている。撃沈である。他の 4 人のプレゼンがとてもうまく出来たものであっただけに自分が恥ずかしい。気を取り直し午後の実習へと行く。午後もオペ。同じくバルーン拡張術である。今度は岩井先生と奥富も見に来ていた。術中、終始 2 人が日本語でぺちゃくちゃと会話していたためか、Dr イーソンの様子は普段と違い機嫌か悪いのがなんとなく分かった。

夕食はレストラン「TEPPANYAKI」でバイキング。この日は Dr 井上の双子のお子さんカイとナオミも一緒。どちらかと言えばカイは控えめな性格でナオミの方がおてんばだ。子供は気持ちに素直である。初対面なので恥ずかしいのだろう。気持ちのままに車の陰に隠れこちらの様子を伺い、目が合うと首を引っ込めるということお遊びを繰り返す。

天使のようだと思った。Drスコット、ピーター、Drタミー夫妻とその娘さん、途中から村上先生も参席し皆で食卓を囲んだ。

8月7日（木）

この日がCardiologyでの最終日。朝のミーティングでは様々な心電図波形の載ったプリントをもらった。授業でやったような代表的な波形から一言で病態を表せられないような複雑な波形まで様々だ。この日の診察は大型犬が多い。セントバーナードなど実際に触れるのは人生初だったかもしれない。穏やかな1日であった。終了の17時になりひとまずは安堵した。今週の実習はこれでこなしたことになる。控え室に戻ると村上先生が買い物に車を出してくれると声をかけに来てくれていた。お言葉に甘えることにする。買い物を終えそのまま村上先生も加えてアパートで夕食をとった。

8月8日（金）

早朝、State Fairへ行くためにユニオン前に集合し停留していたバスに乗り込む。この日は他にも同行者がいた。いつものDr達に加えて、テクニシャンのベタニー、他学部の学生ローラとアリサも一緒だ。皆スタイルがよく美人である。早朝であることもありバスの中では熟睡。到着すると小雨が降っていた。岩井先生は自称晴れ女だという。晴れ女、雨女。よく使われる言葉ではあるが当然、人の力で天気を左右するなど出来るはずもない。が、到着して間もなく雨は止んだ。偶然だとしても凄い。Fairの規模は想像よりも遥かに大きいものであった。インディアナ州はとうもろこしの生産で有名な一大農業地区であり、その歴史も耕作と共にある。その農業の紹介がFairのメインとするところだ。家畜のコンテスト、耕作重機の展示はなんとなく見物するに留まったが、20世紀前半のインディアナの民衆の生活を模したエリアに入ると面白い。当時の民家、お店、学校などがあるのだが、そこにいるスタッフは当時の衣装に身を包み当時のままの生活を実演しているという徹底ぶりだ。お土産にとうもろこしを象ったキャンドルを購入した。その他にもゾウがいたり、敷地のど真ん中にあるサーキットではロードレースが開催されておりロードカーが爆音を上げて疾走している。インディカーの展示には興奮した。インディ500で活躍する佐藤琢磨選手には頑張ってもらいたい。それにしてもアメリカ人と同行しているとその食事に驚かされる。昼前に名物だといいビーフバーカーを食べると、昼食にもハンバーガーを食べる。その後にはポップコーンを食べ歩いている。ハンバーガーに食欲をそそられなかった僕はアップルダンプリンというアップルパイに生クリームが添えられたような物を食べた。これが美味い。最後にパデュー大学主催の去勢手術の実演を見学する。観覧は自由で一般人でも見られるようになっている。わざわざ見たがる人がいるのだろうかという疑問はあるが、獣医志望の子供たちに向けたPRも兼ねているのだろう。これもまたアメリカらしい。Drは終始「Boiler up!」とすれ違う人々に腕に力こぶを作るような仕草で挨拶をしていた。言葉の由来はパデューの象徴である機関車である。機関車が煙を噴き上げ疾走するイメージを想起させるかなりハイテンションな挨拶である。結構な確率でやり返してくれるから驚きだ。最後にマスコットキャラクターであるボイラーマンの巨大な像の前で記念撮影をしState Fairを後にした。

8月9日（土）

お土産を買うためDrスコットに車でショッピングモールに連れて行ってもらう。H&M、OLD NAVY、AMERICAN EAGLE

などなど…日本でもお馴染みのブランドも多い。ちょうどセール中だったらしく50%OFFといった品も多かったのが嬉しい。リーバイスのジーパンがセールでなくても29～39ドルというアメリカ価格で売られていたので自分用に衝動買いしていまった。Drスコットの車が迎えに来ると、同乗していたピーターに遅ればせながら日本から持ってきたお土産を渡す。お土産は僕が選んだのであるが日本にしかないおもちゃをというコンセプトをもとにガンプラを選んだ。アメリカでも放送されていたものをと気を利かせウイングガンダムをチョイス。が、袋を開けまず発した一声は「What is this?」であった。予想外の反応に後悔するが、これは何なのか？の説明をしばらくした後、「Thank you so much」を歌に乗せて言ってくれたのでホッとする。

その後はバーベキューだ。会場に到着するとカイとナオミが走り回って遊んでいた。ハンバーグが焼きあがるまでの時間を子供たちと一緒にクリケット、フリスビー、サッカー、バレーなどをして過ごす。しばらくすると村上先生、見知らぬ学生をローラとアリサが連れてやって来た。ブラッドリー、チン、エリック、ヨウコという。皆でお手製のハンバーガー、ホットドッグ、大豆を煮込んだスープとデザートのケーキを美味しく頂いた。この日のピーターは無茶苦茶だ。というより本領発揮といったところか。ビールの入った瓶に紙を詰め火を点けるは、木によじ登ろうとするは…。次はなんだと思いピーターを探すと、隅でDrスコットに叱られていた。食事の終わりにローラがミュージックフェスティバルに一緒に行かないか？と言い出す。今夜催されるのだとういう。どんなお祭りなのか全く想像がつかず胡散臭く思いながらも誘いに乗り同行することに。最後にこの日が村上先生の誕生日だということだったので皆でハッピーバースデーを歌いメッセージカードを渡してその場はお開きとなった。

夜が更け、ミュージックフェスティバルに行くために指定された場所に着くと、バーベキュー会場にいた面子が揃っていた。誘導されるまま付いて歩くとバンドの演奏が聞こえてきた。道路は歩行者天国となっており道の両脇に屋台が並ぶという日本でもお馴染みのお祭りの風景を見て少し安心する。別の場所ではベリーダンスのショーなどもやっていた。祭りの熱気が心地よい。この感覚は万国共通である。少しだけアルコール臭の混じった生温かい風を感じながら人ごみの中を練り歩く。チンと会話が弾み2人並んで歩く形となった。チンは台湾からの留学生である。英語はもちろんのこと日本語も達者で日本への留学経験もあるという。京都大学の医学部に通いながら岐阜大学の獣医学部にいたというから驚きだ。とんでもない才女である。志望は病理で将来は教授になりたいのだという。彼女なら難なくなるだろうなと思う。会話の内容は日本人の海外に対する考え方、台湾人からみた日本の印象といったことまで様々だ。どの話題にも客観的な視点からものを言う機知的さがある。エリックの視線を感じたので「2人は恋人同士ですか？」と訊くとYesと返ってきた（笑）最後にFacebookで皆と友達になり別れを告げた。

海外を満喫したという実感に満ちた充実した1日であった。この日でパデューへ来てはや一週間が経ったことになる。早かったといえば早かったのではあるが普段使うその言葉とはニュアンスが少し違う気がする。ここまでストレスがない日々だったというのではない。初めてのことばかりで体験することは常に緊張を伴っていた。だが、その緊張の全ては扉を開くごとに自分の世界が広がるという達成感へと昇華しくのであった。僕の中で常に沸き起こるその感情は、時間が経つこと

さえ忘れさせる夢中という名の時間軸の異なる空間へと僕を誘っていたのであろう。

8月10日（日）

Dr井上に車で連れられインディアナ動物園へ行く。この日道中は大雨。が、動物園のあるインディアナポリスに着くと雨はぱったりと止んだ。さすがにこうも続くと岩井先生に対する評価を改めねばなるまい。晴れ女はいる。確率論である。偶然で行った先々で雨があがるということはしばしばある。一部の人間にはその偶然が度重なる。非常に低い確率ではあるが世界中の何人かには一生その偶然が見舞い続けるだろう。その人が晴れ女である。動物園のバックグランドを見せてもらうのだがスタッフ扉から表に出て一般客と目が合うと少し申し訳ない気持ちになる。最初にペンギンを見せてもらった。歩き方がなんとも愛くるしい。段差をせーの、ぴょんっ！と両足を揃えて降りる。たまに着地に失敗してよろけるのが心配で目が離せられない。トカゲの飼育室には部屋のあちこちに脱走したトカゲがいた。“杜撰”という言葉しか出てこないがこれもまたアメリカらしいといえばアメリカらしい。最後にアフリカゾウに触らせてもらえることになった。ゾウの皮膚の感触に感動を覚えながら必要以上に写真を撮りまくった。フリータイムは様々な動物を見て回った。先輩に聞くところによると昨年この動物園は改装中であったらしい。出来て真新しいはエリアは趣向が凝らされていてお洒落である。デートにうってつけであると思った。お土産を買い動物園を後にする。晴れ女がいるのは大変喜ばしいことである。が、先日のState Fairとこの日の炎天下の歩行でかなりの日焼けをした。

アパートに着いてからこの日はもう一悶着あった。岩井先生が部屋に鍵を閉じ込め中に入れなくなったのである。この日中にオーナーに来てもらい開けてもらえたのでよかったのであるが、実はこのアパートに来てここ数日の間に同じようなことがこれで3度目なのである。鍵の構造が特異なのだ。ということにしておこう。

8月11日（月）

病院実習も2週目に入る。この日はNeurology。まず日本愛好家だと聞かされていたDrトンプソンを見つけたのですかさず挨拶をした。後日、彼にはご自宅に招待されることになっている。ここではDrゲイブに付いて回ることになった。ゲイブはアメリカ人男性にしては割と小柄ではあるが、ネクタイも髪型もきまっておりできる男の貫禄がある。「人が足りなくて僕は忙しいんだ」とぼやきながらもその顔は溌剌としており、診察室へ軽い足取りで向かう姿がグッドである。聞くところによると僕と同年代であるというから驚きである。この日の患者の病名であったMyasthenia Gavisをパソコンに入力して日本語に訳してくれるという親切さ。重症筋無力症のことであった。朝一で脳腫瘍をもつRレトリバーの採血と採尿。アポイントメントの1件目はその重症筋無力症のパグ。確かに四肢の筋に緊張がない。頚静脈から採血を試みるがなかなか上手くいかない。この辺りは日本人の方が得手である。続いて朝一で検査したRレトリバーの腫瘍摘出手術。普段臨床の現場をみない僕にとってはこういったオペを見る機会はなかなかない。無理をいって昼休みに予定されていたDrオガタの行動学のセミナーへは遅れて参加させてもらうことにした。このセミナーには終盤になってから参加した。犬にクラッチの音に対して“おやつ”と関連付けるなどしていいイメージを持たせ、この音で犬を意図する行動へと誘導するというものだ。実演で犬役をやらされることになる。犬になりきりその音に従い動く

のが役割であったのだが、“クラッチの音＝いいイメージ”というセミナーの序盤にやったであろう情報を持たない僕は対応に非常に困惑する。セミナーが終わりゲイブと共にこの日2件目のアポイントメントへ。かなり肥満のダックスフンド。左後肢に膝蓋腱反射の欠落があるのが分かった。時間が来たのでこの日はこれで終わる。

夕食はテイクアウトしたメキシコ料理。買ってきてもらったのであるが僕のは村上先生がおすすめの具をトッピングしてくれたらしい。かなり美味い。野菜が多くて健康的でもある。ボリュームが半端ではなかったため半分残し後日食べることにした。

8月12日（火）

この日から3日間はOncologyで過ごすことになっていた。挨拶して入室するとメキシコ人女性のドクターが周りの学生たちにゆっくり分かるように話してやれと気を使ってくれた。かなりの世話焼きであることが分かる。小学校の先生みたいだと思ってしまった。だが、その配慮は有難い。ハナという学生について回ることになった。ドクターの言いつけ？通り最初はかなりゆっくりと話してくれる。これであればさすがの僕にも分かる。が、僕が言っていることを理解していると判断すると、その話すスピードは徐々にネイティブのそれになっていくのであった。朝はみんなでミーティングをする。Radial Oncologyの村上先生も同席するようである。Radial Oncologyはその名の通り腫瘍の放射線治療の科である。放射線を当てる部位の綿密な設計などが仕事であるらしい。治療計画のための同席は納得である。お互い分かってはいるのだが日本語で話しかけてよいものなのだろうかという意識が邪魔をし結局話すことなく席を離れた。診察は基本的にバイオプシーである。尿路からの内視鏡下でのものが多い。昼休みは病院内にあるパデューグッズのお店へ皆で行く。ここではTシャツ、ピンズを購入した。午後も同じようなバイオプシー。少し飽きてきた。ここOncologyではボランティアを募っており、本来病院にはあがらない下級生の学生なども活動しているのが特徴である。そのブラッドリー、ジェームスとは少し仲良くなった。この日はやけに足がだるい。中庭でベンチに座り休憩していると遠くからDrタミーがこちらに手を振っているのが見えた。「How are you ？」と声をかけられたので「I'm fine!」と返した。

実習の後、この日はDrトンプソンの家へ招かれることになっていた。息子さんと娘さんに渡す手筈となっていたお土産を忘れずに持って待っていると、予定の時間より大幅に遅れてアパートに2台の車が到着した。それぞれの運転席にトンプソンとその奥さんが乗っている。その車で家まで連れていってもらい玄関を跨ぐと聞かされていた情報と異なっていることに唖然とする。トンプソン以外に若者が2人立っていた。トンプソンには息子が2人いたのだ。アンディとニックである。当然1人分しかない息子さん用のお土産は渡せるはずもない。サッカー好きだと聞かされていた方は弟のニック。歳は19歳で今年からパデュー大学のコンピュータサイエンスの学科に入学するという。兄のアンディは21歳。2人とも身長が190センチ以上とデカい。14歳になる娘さんのリアは歳相応にシャイである。出迎えには顔を出さずにずっとキッチンにいた。その他にも可愛いお出迎えが。2匹のわんこ、ダラとヴィヴィ（ともに♀）である。名前の由来はスターウォーズのヒロインであるという。夕食までの時間、僕と豊原はトンプソン、ニック、リアとサッカーをして遊んだ。ニックは地元のサッカークラブに入っているという。ポジションはFWらしい。家の隣は近所の

ハイスクールのグラウンドになっておりサッカーゴールもあった。緑に生い茂った芝は少し長いものの遊びで使うにはかなり贅沢な環境だ。スパイクを持ってこなかったことを後悔する。おまけに革靴だ。最初はみんなでリフティング。流石にニックは上手い。トンプソンもサッカー経験があるようであった。リアだけ「私これ苦手！」と地団太を踏む。かあいい☆トンプソンがゴールの前に立ちはだかり子供たちにシュートを撃って来いと合図してきた。ニックの右脚から放たれたアウト回転のシュートはポストの右に逸れる。こうやってずっと小さい時からニックはお父さんとサッカーをしてきたんだ…と親子愛を感じてしまう。靴に傷が付かないようにと注意して放つ僕のシュートは弱々しい無回転ボールだ。上に逸れると判断したトンプソンの頭上でボールは急降下。バーを軽く擦ってからゴールネットを揺らした。

夕食はここでもやはりお手製のハンバーガー。家族で狩りをするらしくニックが狩ったという鹿肉を出される。これが臭みがなく美味である。ニックを隣の席に誘い食卓を囲んだ。食事の後は皆で遊ぶ。まずは日本でのお馴染みのスマブラ。メードインジャパンで負けるわけにはいかない。が、僕らが勝ったのは加藤の1勝のみという面目立たない結果となった。途中からニックのガールフレンドがやってきたので地下室へ行き卓球をすることになった。地下室がある時点で驚きであるのだが、そこには卓球台の他にダーツなど様々なゲームが用意されていた。まさに秘密基地。日本の子供が見たら目を輝かせることだろう。立花とタッグを組みダブルスをする。相手は奥富とリアだ。リアとは向かい合う形となったので、たまに撃つ彼女のスマッシュがこっちを目掛けて襲ってくる。小娘一匹に本気になった。不意をついたドロップショットなどで応戦。劣勢になり無理な体勢で放ったスマッシュが偶然にもダイレクトでリアに直撃した。リアの目が怖い。女子2人からはブーイング。味方であるはずの隣からも聞こえてくるから寂しすぎる。次の対戦はアンディとの1対1。ケチョンケチョンにやられる。おそらくこっちの得点は起死回生のスマッシュぐらいであっただろう。夜も遅くなり帰宅する時間となった。最後に皆で記念撮影。短い時間ではあったが名残惜しい。ニックに「see you…」と言うと「Sometime!」と返ってきた。またいつか…。会えることを願ってトンプソン家を後にする。

8月13日（水）

この日もOncology。症例数は多いがやることはほとんどが採血とバイオプシー。流石に退屈を感じた。この地で過ごす日数も、もう残すところ指を数えるほどである。隅々まで街を見ておきたいという思いから病院を抜け出して街を散策することにした。道路の脇に掲げられいている大学のフラッグに気に入った言葉があったので紹介する。「WHAT WE MAKE MOVES THE WORLD FORWARD」“世界を前進させる”。そういう人間になりたいと強く思う。

病院に帰ると急激に眠気が襲ってきた。図書館で1時間ほど睡眠をとることにする。起きてからはDr井上に申し出てSmall Animal Surgeryを見せてもらうことに。ウォブラー症候群のグレーハウンドに麻酔を導入するところであった。挿管をやらせてもらうことになる。誤挿管しないだろうかと不安になるが大型犬の喉頭は見間違えようがないほど大きく分かりやすかった。その後MRI検査。頚椎の異常を見つけるためだ。テクニシャンのメイデンは自分のこと「Tiny」だと言う。「Me too!」と言い笑いあった。

この日の夕食は村上先生を交えて日本食屋MARUへ行く。日本食とはいうものの韓国

系のお店らしく、メニューには寿司の他に石焼ビビンバなどもあった。雰囲気もはっきり言って日本ではない。が、アメリカ人にはこのアバウトな日本の違和感は分からないのだろうなと思う。クローフィッシュロールを注文。注文してから調べるとクローフィッシュとはザリガニのことであった。が、もう遅い。味はなんてことのない海老であった。食用なのだろうから当たり前ではあるがイメージした泥臭さはなかった。ただ量が極端に少ない。日本食らしさを求めた結果なのだろうと思う。アメリカでは大抵のお店はクレジットカードで支払い可能なのであるがこのお店はカードでの支払いができる下限額があった。たしか8ドル。村上先生曰く、アジア系のお店ではこういった所が多いらしい。現金なナショナリズムが伺える。

8月14日（木）

この日は朝からSmall Animal Surgeryへ。最初の症例は上腕骨骨折の整復であった。日本でもスタンダードなのかもしれないが、無菌操作のために術前まで患部の脚は上に吊るすらしい。骨を露出させプレートを入れ始めたところでお昼のセミナーへ行くことに。この日の講師はDrトモフスキー。議題は猫の血液型と輸血による自己免疫反応について。噂には聞いていたがかなりの早口である。ここまで色んなアメリカ人の英語を聞いてきたので、アメリカ人の中でもかなり奇異な口調だということが分かった。例えるなら字幕映画を倍速再生して見ているような感じである。その声音も特徴的でハスキーというかアニメ声である。キャラが立ちすぎである。出されたピザとブラウニーを食べながら聞くのであるが、このながら作業に慣れていないせいか、はたまたDrのその口調のせいなのか、食べようとすると講義が耳に入ってこないのであった。

セミナー後、病院を抜け出し最後のお土産選びに行く。教えられたお店でTシャツ、パーカーなどを購入した。道中にあった雑貨屋に入るとビーズアクセサリーが鬼のように置いてあった。インディアンジュエリーが好きな人は何時間でも時間を潰せるだろう。価格もかなり安くいくつか購入した。

病院に戻るとすでに時間は3時半である。残りの時間をオペを見て過ごすことにする。症例は膝蓋骨の内方脱臼であった。脛骨粗面を切り離し脛骨断面をノミで削ってから断片を戻すという術式。左近允先生の整形の授業で習った数ある術式の中にこのようなものがあったような気がする。固定が終わると、ちょうど帰る時間となったため退出した。

8月15日（金）

この日が病院実習としては最終日である。やり残すことがないようにと朝から自分に気合いを入れた。この日は午後にFarewell ceremonyがあるため下はスーツ、上はワイシャツといういでたちでアパートを出た。アパートのチェックアウトを済ましてから病院へ。この日もSmall Animal Surgeryを見させてもらうことに。散弾銃で撃たれた猫がやってきた。弾は腕を貫通し胸部に残っているという。X線写真に写る砕けた上腕骨が痛々しい。鉛弾がちょうど心臓上の肋間に見えた。もし腕を貫通せず直接胸部に着弾していたなら弾はさらに内部に侵入し彼を絶命させていたに違いない。そう思うと複雑である。当然オペは長時間に亘るものとなった。骨折の固定が終わったところでセレモニーの時間となったため退出する。ネクタイを締めスーツを着込んでセレモニーに臨む。なんてことのない修了書の授与式であるのだが、そこには緊張する自分がいた。意図するところではないが気持ちのどこかで自分が北里の評価につながるんだという思いがあったのだ。

事実、その写真を誰かが見れば北里の学生はこんな人なんだと思う訳だから強ち間違いではないだろう。セレモニーを終えた後は仲良くして頂いた人たちと記念撮影をした。個人的に特に思い入れがあったのが Dr タミーの旦那さんである。一緒に過ごす時間がそれほどあった訳ではない。おまけに言葉の壁もありコミュニケーションもなかなか取れなかった。それでもなお言葉が通じないからこその雰囲気、態度や表情といった視覚のみからお互いの人格を理解し合うという作業から敬いと相容れる何かを彼との間に感じたのであった。バーベーキューの時、彼自慢のハーレーダビッドソンの後ろに乗せてもらって走ったことはいい思い出である。彼の息子さんと近い年齢であったということも思い入れを強くした要因の一つかもしれない。State Fair で住まいが近いということもあって、その息子さんもフィアンセを連れてやってきていたのだ。その時、彼にもやはりどこか相容れるものを感じたのを覚えている。この息子さんがこの旅で一番自然にコミュニケーションを取れたアメリカ人だったように思う。最後に肩を組み写真を撮った。

最後の夜は Dr 井上、村上先生をアパートに呼びパーティーをした。酒に滅法弱い僕ではあるがこの時だけはビールを開ける。迂闊にも酔った僕はパーティー半ばで眠ってしまうのであった。

8 月 16 日（土）

朝、目が覚めると若干の頭痛がする。これだから酒は嫌いだ。Dr 井上の車が迎えに来た。村上先生も一緒だ。インディアナポリスの空港まで送ってもらう。2 人ともお別れの時だ。アメリカ式のハグはない。日本人同士による日本式のお別れだ。別れが惜しい僕達一行は何度も同じ感謝の文句を繰り返すのであった。飛行機が離陸していく。窓からインディアナの地を見渡しながら 2 人のことを思う。彼らに共通して思うのはそのパワフルさである。生まれた地を離れアメリカで生活しているのだ。アメリカへの強い意思のみでゼロから今の居場所を築き上げてきたのだからそのパワフルさはあって然るべきものなのかもしれない。この 2 週間で自分の価値観には革命があった。アメリカという国が自分の中で異国ではなくなったように思う。彼の地で彼らの中に入り上手くやっていくことに手応えさえ感じたのであった。言葉さえどうにか出来ればの話ではあるが。しかし 2 人のようにアメリカで生活したいか？と問われると、答えは No かもしれない。もちろんこれからの自分の人生でアメリカの地を再び踏むことがあればいいなと思う。その時は言葉も含め何不便なく闊歩できるようになりたいものだ。それでも、日本で。アメリカでも認められるような功績をあげて世界中の人々から必要とされる人になりたい。

帰国し僕を迎え入れる人々に会うと自分が日本人であることを再認識するのであった。

奥冨　紗織

8 月 2 日 (土) 出発

前期テスト 2 日後に出発。研究室後、急いで旅行の準備や部屋の掃除等をし、睡眠時間 1 時間で出発。朝、みんなで七戸十和田から新幹線に乗り、14 時ごろ成田に到着。岩井先生と合流し 16 時過ぎに出国。時差ボケ防止のために飛行機で寝ない方が良いとアドバイスされていたが睡眠不足のため、12 時間のフライトのうち約 10 時間爆睡。機内食の時間に起こされなければもっと寝ていたと思われる。インディアナポリス空港に 6 時くらいに到着。空港まで Dr. Tomo と Dr. Scott-Moncrieff が迎えに来てくれており、約 2 時

間後 Purdue Village の Waldron アパートに到着。今回初めてこのアパート使用したらしく、リフォームしたてで大変広くきれいだった。1 部屋を女 3 人でシェアした。リビング＆キッチンが共通で寝室が 3 部屋あり。1 つ 1 つの部屋に洗面所、トイレ、お風呂がついているのはありがたかった。夜、みんなで downtown の方まで軽く散策した。

8 月 3 日 (日) holiday
午前中 Dr. Tomo によるオリエンテーション後、大学周辺を案内してもらった。お昼は学生だけでさらに散策した。午後は Dr.Scott-Moncrieff と息子の Peter が Walmart に連れていってくれた。1 時間半も買い物時間があったが、おうちパーティー用のジャンクフードやこれからのお弁当を先生と選んでいたらあっという間に時間になってしまった。また日曜日はインディアナ州ではお酒の販売がされていないらしくお酒を買うことはできなかった。夜は Logan's　Roadhouse で学部長やたくさんの先生方とお食事。全く英語の勉強ができないままアメリカに来てしまったため､何話しているのか全くわからない焦り、緊張、アメリカの食事の量を多さにお腹もすいてなかった為ほとんど食べられなかった。

8 月 4 日 (月) Small animal surgery
今日から Clinical rotation がスタート。書類の手続き等を済ませ、簡単に英語で自己紹介後、大学内を案内された。その後、各自自分の見学する科に向かった。私は Surgery を見学した。Surgery といっても大きく軟部外科と整形外科にわかれていて、今日は軟部外科の方を見学させて頂いた｡驚いたことは、オペ室に動物が搬入されると音楽をかけ始め、去勢のオペを先生や研修医に指導されながら学生が執刀、助手を行っていたことだった。周りにも何人か学生が見学して、気軽に質問していた。導入時の血圧測定や、気管チューブからつながった聴診器で心音を麻酔の人が聴くのは大学では見たことがないなと思った。帰りは Boilermaker という Purdue のシンボルの汽車みたいなバスに乗って帰った。汽笛を鳴らすと、そのたびにたくさんの人が振り向き、手を振ってくれてパレードみたいで少し恥ずかしかった。

8 月 5 日 (火) Small animal surgery
今日は Surgery の整形外科の方を見学させていただいた。8 時からラウンドというこっちの授業みたいなものを見学した。Resident が生徒の前で症例（大腿骨の骨折）の説明をしていた。その後、大型犬の左脛骨の蝶形骨折のオペを見学した。直径 2.7mm のラグスクリューで 2 ヶ所固定後、プレートで固定していた。主に resident の人が執刀しアプローチが難しいところやオペの術式は professor が行うというスタンスだった。2 日間いくつかのオペを見学したが、どのオペも resident、研修医、麻酔、VT がいて学生を指導するので密な教育がなされていて日本もこのシステムが欲しいと思った。また昨日も surgery を見学して思ったが 8 ～ 9 割の人が女性で、男性が多そうな整形外科でさえ 1 ～ 2 人しかいなかった。最近のアメリカでは女性獣医師がほとんどらしく日本でも 10 年後くらいにはそうなるのかなと思った。
午後のオペも骨折のプレーティングで似たようなオペだったので 15 時から ICU の見学に行かせていただいた。ICU 室はこの日とても落ち着いていて入院している子の説明を受けた。それぞれの子のケージの前には毎日の入院記録とカルテが簡単に書かれて掛けられていた。英語が聞き取れなくてもその情報からなんとなく理解できた。

8月6日(水) Small animal surgery、Cardiology
今日は昼からプレゼンテーションがあったため、昨日の夜は2時くらいまで準備をして寝不足であった。英語の文章も発音も全く自信がなかったが、多くて10人くらいしか聴きに来ないだろうと思って油断していた。実際は30人くらい来てかなりの予想外だった。しかし、やるしかないので覚悟を決めて拙い日本語英語で発表をしたがみんな温かい目で見守ってくれて楽しく発表できた。笑いもとれ、英語が通じたことがわかりすごくうれしかった。午後は岩井先生と一緒にIVRの三尖弁狭窄を見学した。Cアーム透視下で造影画像をみて狭窄部分を確認し、ガイドワイヤーを使用しながらバルーンカテーテルを挿入、狭窄部位を拡張させていた。心臓が動いている中、細いカテーテルを狭窄部位にいれてバルーンを膨らますのが難しいようで、うまく入った時は自分がやったわけじゃないのにすごくすっきりした。心臓のオペをみたのが初めてだったが、岩井先生がどんなことをやっているのか隣で解説していただきながら見学したので大変有意義な時間が過ごせた。また日本では設備ではIVRの心臓のオペはあまり行われていないようで、大変貴重なものを見学できて良かったとも思った。

8月7日(木) Neurology
今日もラウンドからスタート。ラウンド中は、professorやresidentが話している中みんな朝ご飯を食べておりとてもラフだった。Gabriel(Gabe)に今日は一日教えてくれるということでお世話になった。Gabeはネクタイを締めきちんとした格好をしていてprofessorまではいかないがすごく大人な雰囲気があった。私が見学した患者はIVDP疑いのダックスフンドだった。Gabeはまずオーナーを診察室に呼んでIVDPの説明をし、そのあとNeurology科に動物を連れて戻り、廊下で歩き方や神経学的検査をし始めた。神経学的検査は授業で習ったばかりで研究室でも何回か検査を見ていた。そのため、ナックリングの様子を確認しているときにプロプリオセプションの検査かどうか聞いたらそうだと言ってくれて習ったことがいかせてうれしかった。色々検査をしているとNeurologyの科の人が二人きてGabe説明した後、再び同じ検査を始めた。するとさらにNeurologyの科の人がきて説明→検査を再び繰り返した。T13-L1からの後躯麻痺の可能性が高いとし、話し合いのあとGabeは診察室に戻り飼い主さんに検査の結果を説明し、明日CTを取ることになった。この流れをみてGabeはもしかして学生なのではないかを思い、後でDr. Tomoに確認したらやはり学生で改めてアメリカ人は大人っぽくみえることと、学生がほとんど全て診察を行うことに驚いた。

8月8日(金) Purdue Day
Purdue Dayのためクリニカルローテンションは今日お休み。前もって渡されていたPurdue t-shirtsを着てバスに乗って出発。私たちと同じように留学しにきている学生達も一緒に廻ることになっていた。
到着後、留学生のLauraやAlisaが話しかけてくれたが、自己紹介や出身地等の話を少ししただけで会話を長く続けることが出来なかった。なんて言っているかはなんとなくわかるようになってきたが返したい言葉を英語にすることがうまくできなくて、もっと会話の勉強をしてから来たかったとすごく悔しかった。会場では豚の親子の展示や、山羊のショーの見学、他にも昔のアメリカの田舎の暮らしを表現した展示ブース等があった。Purdue大の展示ブースでは透明なガラス張りのステージ上のブースにオペ台や麻酔器が

設置してあって2～3人が器具等の準備をしていた。麻酔器に繋がった動物が横になっていて、これから動物のぬいぐるみを使用してオペのデモンストレーションでもするのかなと思っていたら、ぬいぐるみではなく本物で、実際にspayを始めた。手術の様子は大きなスクリーンに映し出され、司会進行役の人が解説をしていた。この後にcastもするらしくパフォーマンスの仕方に日本との差を感じ、さすがアメリカだなと感心してしまった。

8月9日(土) holiday
Mallに買い物に行き、友達のお土産等を買った。夕方からはBBQに招待された。BBQは焼肉ではなくハンバーガーだった。Dr. Tomoのお子さんと遊んだり、留学生とバレーボールをして楽しんだ。今日もたくさんの留学生が招待されていたが人見知りが発動してしまい、さらに英語がナテュラルで早く学生同士の会話がほとんど聞き取れなくて少し落ち込んだ。その後、ストリートフェスタに留学生に誘われてみんなで夜行くことにした。そこでは割りと頑張って話かけることができ、Facebookでお友達になることができた。

8月10日(日) Indianapolis Zoo
Indianapolis Zooに今日は連れていってもらい動物園の裏側を見学させてもらった。今日も留学生と一緒。ペンギンや象を触る体験をさせてもらえた。象がとても賢く手かわいかった。

8月11日(月) Small animal Medicine
Small Animal Medicine(SUM)では朝のラウンド後、入院している子の世話をし、血液検査等をした。お昼は楽しみにしていたDr. Ogataのランチセミナーがあった。診察の仕方の説明を聞いて、VTのMindyから具体的なしつけの指導の仕方を聞いた。クリッカートレーニングを教えてもらい、ヒトでトレーニングの練習をした。日本でも同じように授業で習ったが、やはり難しかった。午後のSUMはデスクワークでほとんどこれといってないと言われたので途中でoncology科に行き、biopsyを見学した。

8月12日(火) Behavior
行動学を学びたくてPurdue大を選んだが、Behaviorは火曜と木曜しかやってなく、先週はお休みだったので2回しか見学できなかった。行動学はDr. Ogataという日本人のprofessorとVTのMindyがいる。
朝は前回の症例の話と今日の症例のラウンドをした。前日に今日診察予定の患者の資料を頂いており予習していったので、授業がいつもと比べ理解できた。症例からどんな問題があるかProblem Listを作り、治療プランを考えていった。午後はオーナーが動物を連れて診察にきた。動物はオーナーから少し離れて繋がれ、触ったり目を合わせたりせず無視するようにDr. Ogataが指導していた。それから問診が始まった。Dr. Ogataとオーナーの会話を聞いて学生はメモをとっていた。その間VTのMindyは動物に遠くからおやつを投げ、興味を持ち始めたらクリッカーを鳴らしておやつを与え、条件付けするトレーニングをしていた。問診が終わると学生とDr. Ogataは部屋を退室し、別室で改めてproblem Listや治療方針について学生に問い、Dr. Ogataがどのようにしたら良いのか指導していた。10～15分後、学生とDr. Ogataは部屋に戻り、Dr. Ogataが問題行動の治療方針について指導し、具体的なトレーニング法はMindyに任せて退室。Mindyはトレーニング法についてオーナーにコング等のおもちゃの紹介をし、使用法やしつけ法を

実演した。しかし、途中で帰る時間になってしまい最後まで見られなくて残念だった。

8 月 13 日 (水) Diagnostic Imaging
Diagnostic Imaging (Dxl) の朝のラウンドはレントゲン写真を見て、生徒達が異常所見をそれぞれ上げ診断していくというスタンスだった。このスタンスはすごく楽しく、日本でもこういう風にやったら、もっと興味ももてるし、臨床現場に繋がるし羨ましかった。そのあと学生達はレントゲン撮影をしていた。レントゲンの機械や撮影法は日本と全く変わらず、いつも日常でみている光景と同じだった。その見学で午前は終わってしまった。午後に CT 撮影があると聞いていたが、それ以降はレントゲン撮影しかないといわれ、CT 撮影もいつもみているので大動物のアルパカのオペの見学をすることにした。オペの後、ウシの削蹄の見学もさせてもらった。

8 月 14 日 (木) Behavior
今日はラウンドがなかったが、診察が 3 つあった。診察の流れは火曜日と同じ。今回も事前にもらっていた資料を予習していったが、達筆すぎて単語が読めないところが多く理解が不十分のまま診察を見学することになってしまった。しかし、今日は最後まで診察を見ることが出来た。また、ランチセミナーがお昼にあったが Behavior の診察と被っており、こっちを優先したかったため Dr. Tomo にお願いした。診察後、日本語で Dr. Ogata が説明してくれてさらに理解が深まった。基本的には日本の行動学治療法と同じだったが、日本では行動科のある大学が少なくあっても生徒に症例を見学させて考えさせるようなカリキュラムはないので日本でも取り入れて欲しいと切に願った。

8 月 15 日 (金) Radiation therapy
今日は ECC の予定だったが、こっちで親切にしてくださった Dr. Murakami のいる Radiation therapy がどんなものなのか見たかったのでお願いして見学させていただいた。アパートのお金の支払いを済ませてから行ったため、Radiation therapy に行けたのは 9 時過ぎだった。その為、もう始まっており慌ただしく、最初は何をやっているのかわからなかった。最初に見たのは前脳の組織球肉腫 (Forebrein - Histiocytic Sarcoma) のラブラドールで 3 ～ 4 週間前にオペをしていた。300Gy で 14 回治療を行うそうだ。治療を見て驚いたのは治療後に麻酔を切ると 1 分くらいで自発が戻り、そのまま覚醒部屋みたいな部屋に戻して、戻すとすぐに覚醒し抜管をしていた。10 分くらい様子をみているともう自力で立ち上がれるようになり、水も飲ませていた。日本での放射線治療を見たことがないためよくわからないが、導入→治療→覚醒までの時間がすごく短く感じた。
次にジャーマンシェパードの “Destiniy”♀の 13 歳で口の粘膜の黒色腫 (Suspect oral melanoma of left upper lip) 疑いで、内科から来た患者で診察から見させていただいた。午後 CT 撮影をしたが術中覚醒をしてしまい、アメリカの麻酔は浅めなのかなとおもった。15 時から Farewell ceremony が行われ、修了書を頂いた。今までお世話になった科の人たちも来てくれて、1 人でその人たちに話しかけに行けて、自分で成長したなと思ってしまった。相変わらずほとんど英語は話せないし、緊張するし、常に気を張ってヒアリングをしていたが、聞き直さなくても会話が 1 回で聞き取れるようになってきて、返答も前よりスムーズにできるようになった。自分の英語が通じ会話ができた時の喜びは格別だった。名残惜しみながらいろいろな人と写真撮影をしてアパートに帰った。

夜はお世話になったDr. TomoとDr. Murakamiを招待し、アパートでジャンクフードパーティーをした。あっという間に楽しい時間が過ぎてしまった。みんなもやっとこっちの生活になれて、英語も聞き取れるようになってきたからかまだ帰りたくない、あと1週間こっちにいたいと名残惜しそうだった。

8月16日（土）帰国
いよいよ帰国の日。送ってくれたDr. TomoとDr. Murakamiにお礼を言い、出国。乗り継ぎのシカゴでエンジントラブルにより出発が4時間遅れた。そのため成田に着いたのは夜8時過ぎ。そのまま十和田に直帰予定だったが、最終新幹線がもうないため実家に帰り、アメリカ研修は終了した。

加藤　寛也

8月2日
8時半に七戸十和田駅に集合してみんなで成田空港へ向かった。しかしその後のドタバタを予言していたかのように、遅刻者多数で危うく新幹線に乗り遅れるところだった。（笑）
14時ごろ無事に成田空港へ到着し、一路シカゴへと向かった。シカゴ空港ではインディアナポリス空港へ向かう便へ乗り換えなければならなかったが、ここでもまたギリギリに…現地の地上係員に「あと7分でアウトだったよ！」と言われながらも無事全員が搭乗し、インディアナポリス空港に到着した。
インディアナポリス空港では、Dr.TomoとDr.Scottが出迎えてくださり、そのまま車で宿へと送ってもらった。

8月3日
この日は朝にDr.Tomoが宿に来て、これからの予定などを話してくれた。その後、周辺を散策し、ダウンタウンでFive Guysというハンバーガーショップでハンバーガーを食べた。散策して驚いたのは車やトラックが普通に走っているのに、リスやノウサギ、タカなどの野生動物がいたことだった。日本ではあり得ない光景にみんな写真を撮りまくっていた。
午後はWalmartという十和田のイオンぐらいの大きなスーパーに連れて行ってもらい、買い物をした。このスーパーが本当にめちゃくちゃ大きく、食料品から衣料品、家電製品、ゲーム、資材などなんでも売っていた。そしてなにより安い!!
夜はLogan's road houseというステーキ屋でステーキを食べた。12オンスのステーキは食べ応えがあった。飲み物はコップがでかく、おかわり自由だった。

8月4日
Rotation1日目。この日は朝、Dean学部長と面会した後、Dr.Tomoに連れられて病院内を見学した。小動物病院、大動物病院ともに北里の比べものにならないくらい大きく、そして造りが複雑であった。院内で迷子になることは必至だった。
その後、Small Animal Surgery(SAS)に行った。SASには軟部外科と整形外科があり、この日は軟部外科へ行った。去勢手術と喉頭麻痺のTie-Back術が予定されていた。去勢手術は学生がレジデントの指導の下で執刀していた。実習用の動物ではなく、飼い主のいる犬の去勢を学生が行うことに驚いた。喉頭麻痺の手術はさすがにレジデントが執刀していたが、助手は学生であった。
夜は近くの酒屋でビールを大量に買い、ピザパーティーをした。

8月5日

Rotation2日目。この日もSASに行った。朝、整形外科のラウンドに参加した。この日はまず整形外科の手術を見学した。午前中は大腿骨骨折の犬のプレーティングだった。執刀はレジデントの先生であった。初めてプレーティングの道具を見たが、授業で学んだものがそのまま置かれていて、どれがどの道具かすぐに分かった。

午後も同じようなプレーティングの手術だったので、Dr.Tomoにお願いして、急遽Small Animal Communication Practice(SACP)に行った。ここはいわゆる一次診療を行うところで、ワクチンを打ったりもしていた。診察の流れとしては、まず学生が診察室に入り、飼い主から問診を取る。必要に応じて一般身体検査を行い、それらの結果をドクターに報告して、初めてドクターが診察室に入るという流れだった。

SACPで日本の一次診療よりも一人の患者さんにかける時間がかなり長いということを感じた。大学のTeaching Hospitalであるという特殊な条件下であるからかも知れないが、患者さんひとり当たり30分以上はかけてインフォームを行っていたように思った。

8月6日

Rotation3日目。この日はOncologyに行った。朝8時からラウンドに参加し、今日予約の入っている患者さんの情報を一通り確認した。ここでリンパ腫の多さに驚いた。その日の予約が十数件入っていたが、ほとんどがリンパ腫であった。診察が始まってからはCHOP療法と呼ばれるリンパ腫のゴールデンスタンダードの治療法について教わった。普段、研究室でいろいろな腫瘍を見ているということもあって、専門用語も理解しやすく、またメキシコ人のVTさんが『私も英語は第二言語だからあなた達の気持ちが分かるわ』と言ってゆっくり話してくださったのでとても分かりやすかった。この科でも採血や一般身体検査は基本的に学生が行っていた。しかし抗がん剤の投与は、抗がん剤に細胞毒性があるため、手術のガウンと手袋、マスクを着けたVTさんが行っていた。

昼はセミナーで発表があった。学生それぞれが自己紹介と出身地の紹介、そして僕が代表して大学紹介をした。普段、人前で話す時はほとんど緊張しないが、さすがに英語で発表となると少し緊張した。大学紹介とともに青森県の紹介もしたが、春、夏、秋の美しい風景を写真で紹介した後、冬の大雪の写真を見せたら意外とウケた。発表のあとピザを食べて午後のローテーションに戻った。

午後、再びOncologyに戻るともうその日の仕事はほとんど終わってしまっていたので、前日と同様SACPにお邪魔させてもらった。この日は猫が多く、一頭、触ることも難しいくらいに興奮した猫がいた。アメリカだったらすぐに鎮静剤を打つのかな？と失礼なことを思っていたら、VTさんがタオルを持ってきて、興奮した猫を安全に保定する方法を教えてくれた。

この日の晩はTEPPANYAKI Grillというビュッフェのお店に連れて行ってもらい、お腹一杯食べた。

8月7日

Rotation4日目。この日もOncologyに行った。この日は診察日だったようで、午前中は診察を見学した。診察ではまずVTの学生が問診をとり、その後、処置室に動物を連れて行って、採血などの処置や各種検査を行っていた。そして検査結果や今後の治療方針などの説明をする段階で初めて獣医師が診察室に入り、飼い主に説明するという形態であった。自分と同じ学生が問診をとって、飼い主にある程度の説明までをしているのを見て、本当

によく勉強しているのだなと思った。
午後は前日と同じく化学療法の処置がほとんどであった。

8月8日
この日は金曜日であったが、インディアナ州のお祭りであるState FairにPurdue DayとしてPurdueのブースが出ているということで、みんなで参加した。会場は大変広く、バイクのレース場や遊園地などがあった。僕たちはDr.Hiltonの案内で会場内を回った。ヤギの品評会を見たり、いろんな種類のハンバーガーを食べた。またその日のイベントのひとつとして避妊手術の実演があった。ガラス張りの簡易的な手術室に本物の犬が麻酔をかけられた状態で手術台に載っており、避妊手術の一部始終を見せるというものだった。観客には子供も多く、絶対に日本では許されないだろうなと思いながら見ていた。摘出された子宮と卵巣は豆腐の入れ物のようなものに入れられ、観客に見せていた。自分たちにとっては当然でも、子供たちに見せてもいいものかと衝撃を受けた。その後、Dr.Hiltonがポップコーンを買ってくださり、みんなで頂いた。その味が甘いのにしょっぱいというなんとも言えないおいしさで、今でもその味が忘れられない。

8月9日
この日は朝からTippecanoe Mallというショッピングモールに買い物に行った。ここでお土産を買おうと思っていたのだが、モールの中は洋服店がほとんどでこれと言ってお土産は買えなかった。女性には楽しかったと思う。驚いたのはモール内のスポーツ用品店で銃や弾丸が普通に売られていたことだった。中には子供用の猟銃やボウガンなども売っていた。アメリカの文化を身をもって感じた。お昼はモール内のお店で済まそうかとも考えたが、少し歩いた先にマクドナルドがあり、本場の味を食べて帰ろうということでマクドナルドのハンバーガーを食べた。味は同じだったが、飲み物の量が大きくて驚いた。日本のLサイズがアメリカのレギュラーだった。また飲み物は、ほとんどのファストフード店でそうなのだが、いわゆるドリンクバーのような形態で好きなだけ自分で注いで飲むという形だった。僕はSweet Teaに挑戦したが、ガムシロップのように甘く、とても飲めたものではなかった。その日の夜はHappy Hollow ParkでCook outをした。外でサッカーやバレーボールなどをした後に、ハンバーガーを焼いて食べた。そこでCrow Kayというゲートボールのようなゲームを教えてもらった。初めてやったが、子供も大人も楽しめるゲームだった。

8月10日
この日は朝からIndianapolis Zooへ行った。まず始めに動物園内の病院を見学し、麻酔銃や大小様々な気管チューブなどを見せてもらった。特にキリンの気管チューブはさすがに長く、驚いた。その後、イルカショーを見た。さらに生まれたばかりのペンギンに触ったり、ゾウに触ったり、目の前でオランウータンを見ることができて、とても得がたい経験となった。お昼ごはんはここでもまたハンバーガーを食べた。

8月11日
Rotation5日目。この日からまた一週間Rotationが再開した。この日はECC(Emergency/Critical Care)に行った。この科は救急を担当している科で、僕が行った日に外来で来たのは喧嘩で咬まれた犬だけであった。どうやら夜のほうが忙しいらしく、入院舎には昨晩来た動物たちがたくさんいた。中には除草剤の中毒や慢性腎不全の子

がいて、昨晩は非常に危険な状態だったと聞いた。
お昼にはLunch Seminarがあった。Dr.Ogataという日本人の女性の先生による行動学のセミナーだった。ゲームのようにクリッカートレーニングのデモをして楽しい時間を過ごせた。
午後もまたECCに戻って治療などを見学して一日が終わった。

8月12日
Rotation6日目。この日はCardiologyに行った。この日は診察日だったようで、次から次へとエコー室に連れてこられる動物にひたすら心エコー検査をするという一日だった。心エコーはちょうど5年前期に習ったのである程度のことは分かったものの、なかなか専門的なことは理解できなかった。またPDAの子犬が来たときは心音を聞かせてくれて、初めてPDAの雑音がこんな音なのかと理解することができた。やはり循環器科は先天性の心疾患をもつ動物が多く連れてこられるため、子犬が多くとてもかわいかった。昼は獣医学部の学生が経営しているというPurdue Veterinary Medicineグッズを売っているお店にお土産を買いに行った。Tシャツやパーカーなど種類が多く、うちの大学にもこんなグッズがあればいいのになと思った。
夜はDr.Thompsonのお宅へ訪問して、ここでもまたハンバーガーをご馳走になった。またシカ肉のステーキもご馳走になったが、そのシカは娘さんが猟で獲ってきたと聞いて大変驚いた。食事の後は自宅の地下室で卓球やFoos ballを楽しんだ。

8月13日
Rotation7日目。この日の午前中はまたCardiologyに行った。この日は手術の日で三尖弁狭窄のバルーン拡張術を行っていた。術者、助手はもちろんのこと、見学している僕たちもX線防護用のエプロンをして見学した。初めて見る手術だったので少し興奮したが、重たくて暑い鉛のエプロンを着けて立ちっぱなしというのはかなり疲れた。
お昼を食べたあと、午後は病院の隣にあるADDL(Animal Disease Diagnostic Laboratory)へ行った。これは本来プログラムには含まれていなかったのだが、病理が見たいわがままを言って行かせてもらった。病理解剖室は北里のものの数倍広く、牛なら5～6頭は同時に解剖できそうであった。この日は庭で死んでいたという猫の解剖があったが、その検体情報の紙に狂犬病の疑いがあることを示す【Rabies Susp.】という赤い判子が押してあった。これは日本ではあり得ないことであるので、大変驚いた。この日はこれで一日を終えた。

8月14日
Rotation8日目。この日はBehaviorに行った。ここでは日本人のDr.Ogataが診察を行っており、先生が話されていることも大変分かりやすかった。午前中は臆病で吼えてしまう大型犬が診察に訪れた。この科の診察時間はどこの科よりも長く、初診なら2時間、再診でも1時間はかけているそうだ。
お昼はまたLunch Seminarがあった。この日の講師はDr.Thomovskyという救急の先生で非常にパワフルな先生であった。犬や猫の輸血についての講義であったが、初めて聞く内容だったので新鮮だった。
午後もBehaviorに戻る予定だったが体調を崩してしまい、先にアパートへ帰って休むことにした。

8月15日
Rotation9日目。この日は午前にDxI(Diagnostic Imaging)に行き、午後は

再びADDLに行った。DxIでは基本的にレントゲンの撮影を行っていた。小さい猫からグレーハウンドまでポジショニングを学生がやっていた。特に大型のグレーハウンドは4人がかりで台に載せ、保定していた。CTやMRIもあったのだが、残念ながらその撮影の見学をする機会はなかった。午後のADDLでは鶏の解剖を見学した。普段、研究室でも鶏を解剖する機会はないので良い経験となった。また魚の病理をされている先生がいらして、コイの解剖も見学した。もちろん捌くのとは違って、これも普段やらないので見ていて面白かった。
その後はこの日が最終日ということもあってFarewell ceremonyを開いてくれた。学部長の挨拶のあとcertificationの授与があり、最後に僕が挨拶をすることになった。特に準備もしてなかったので緊張したがなんとかうまくいった。
その日の夜はお世話になった日本人の先生方をアパートにお招きして小さなパーティーをした。

8月16日
帰国の日。荷造りをして朝6時半にインディアナポリス空港へ向かった。そこでPurdueの先生方とお別れをして一路シカゴへと向かった。来るときはシカゴでの乗り継ぎの時間が少なくドタバタしたが、帰りは飛行機が5時間も遅れ、大変だった。
13時間のフライトのあと、予定より何時間も遅れたものの、無事に成田空港へ到着した。到着したのは日本時間の夜9時頃で東京駅付近のビジネスホテルに泊まることとなったが、これもまた良い思い出となった。

立花　由莉加

私がこのプログラムへの参加を志望した理由は「アメリカの獣医療は世界で最先端」、「学生のモチベーションが高い」、「専門医制度がある」と耳にすることが多く、実際に自分の目で見てみたいという小学生時代からの強い思いがあったからだ。英語力に一抹の不安はあったものの、念願のアメリカ渡航への期待と喜びを胸に飛行機へ乗った。

8月2日（土曜日）
空港でTomo先生とScott先生がお出迎えしてくださった。英語なまりの関西弁を話すTomo先生は背が高くて体格がよく、日系アメリカ人のようであった。ユーモアに溢れ、とても優しくしてくださったため、緊張がほぐれて安心した。Scott先生もとても優しくご親切にしてくださったが、話す速度がやや早かったため、自分のリスニング能力不足を痛感した。
空港からアパートまで車で送ってくださり、窓から見える風景に惚れ惚れしていた。広大なトウモロコシ畑と大豆畑が果てしなく続き、小川の傍にはシロツメ草が生え、ドールハウスのように可愛らしい家が素朴に建っていた。

8月3日（日曜日）
午前中はTomo先生が朝食として持ってきてくださったベーグルを美味しく頬張りながら今後の予定を聞き、その後校内散策をした。とても広く、道端の木々や花はガーデニングのように手入れされ、リスやウサギが跳び回っていた。
午後はScott先生にWalmartに連れて行っていただき、食料調達をした。食品のサイズや形、種類など見るものすべてが目新しく面白かった。その後、Logan’sでDean学長先

生を始め、大学の先生方と食事した。緊張していたが、勇気をもってScott先生に質問すると優しくゆっくり答えてくださった。さらにペットの動物の話や学習の仕方のアドバイスなどをしてくださった。

8月4日（月曜日）

午前中は会議室で書類へのサイン、MRIについてのDVDの視聴をした後Dean先生にご挨拶をした。緊張のあまり声が震えてしまったが、温かい眼差しで優しく歓迎の言葉をかけてくださったので嬉しかった。

その後Tomo先生に病院内を案内していただいた。広くて迷路のようであったため、地図を描きながら説明を聞いた。待合室の前の廊下から垂直に走るに三本の廊下沿いに救急科、ICU、内科、腫瘍科、心臓科、放射線科、外科、神経科の診察室・処置室・ミーティング室があり、さらに奥には大動物の診察室・処置室が続いていた。大動物の診療室は馬用、牛用のものがあり、それぞれの動物に特化して効率よく設計されていた。

その後Clinical rotationに向かった。初日は神経科であった。Tomo先生にGabeという学生につくように教えてもらい送り出していただいた。扉を開けるとオペについてのディスカッション中であり自己紹介をするのがやっとで緊張のためお土産を持つ手が汗で滲んだ。先導する神経専門医のBentlyの英語は速く独特で、神経を集中させても一言も聞きとることができなかった。緊張と不安のあまり息をするのがやっとで瘻人形のように固まっていたが、隣に座っていたLee先生がオペの内容について優しく説明してくれ、神のように思えた。嗅球に腫瘍がある犬についてどこからアプローチするか話し合っているようであった。ディスカッションが終了し、学生と思われる人が見当たらずどぎまぎしていたが、隣に座ってフルーツを齧りながらBently先生と討論していた白衣の男性がGabeということに気がついた。学生はGabe一人であり、その後、姿勢反応検査と脊髄反射検査についてビーグル犬を用いてベントリー先生に指導されていた。最後の検査として脊柱を背側から親指と中指で圧迫しており、神経の検査で習った記憶がなかったためBently先生に質問したところ、反射や反応ではなく痛みの検査であると教えてくださった。その後、Gabeについて入院していた四肢の硬直がある猫の身体検査を行った。診察室にいた13歳のチワワは右目が青く、歩行蹌踉で横転していた。跳び直り反応、プロプリオセプションに異常、威嚇瞬き反射に抑制が見られた。

Clinical rotation終了後はPurdueの機関車型観光バスに乗り、校内をドライブした。Purdueのフットサル場、バスケットボール場、陸上競技場やステージ会場があり、驚いたが、さらに発電所や飛行場まで設備されていたため規模の大きさに言葉を失った。

8月5日（火曜日）

Clinical rotationはこの日も神経科であり、Gabeについた。最初の患畜は10歳セントバーナードであり、血液検査データを見せてもらい、どう診断するか質問された。CreとBUNの値が上昇していたため、腎臓に問題があると答えたところ、初めて褒めてくれた。診断は慢性腎不全であった。CKDステージ分類、イオンの動態や酵素について丁寧に教えてくれた。

8月6日（水曜日）

この日のClinical rotationは腫瘍科であった。8時からラウンジがあり、今日一日に診療する患畜についてそれぞれの担当者が軽く説明した。9時から診療であり、学生がオーナーへの問診、身体検査、採血などを行って

いた。右後肢に腫瘤があるミニチュア・ダックスフンド、腹部に腫瘤があるマルチーズなどが来院していた。

正午にはプレゼンテーションが催され、最初にDean先生から歓迎の言葉とPurdueのグッズをいただいた。その後、岩井先生の講演に引き続いて学生が自己紹介を行った。緊張していたが、話したことや写真に対してみなさん優しく反応してくださり、場は温かい雰囲気に包まれていたので、落ち着いて発表することができた。

午後には腋窩に腫瘤があるゴールデン・レトリーバーが来院し、トゥルーカットを行っていた。診療が早く終了したため、コミュニケーションプラクティス科（一次診療）に行き、見学した。神経質な猫を扱う際には診察台などにフェロモンスプレーをかけていた。

Clinical rotation終了後はTeppanyaki Grillというお店で先生やそのご家族の方々と食事をした。ここで、放射線腫瘍科のレジデントである村上先生とお話しすることができた。村上先生はパワフルでユーモアに溢れていたが、お話を聞いているうちに、本当に芯が強く、目標に向かって直向きに努力し続けていることを知った。心の底から尊敬できる先生に出会うことができて嬉しかった。先生にアパートまで送っていただき、そのまま部屋でいろいろなお話をしてくださった。

8月7日（木曜日）

この日のClinical rotationは腫瘍科であった。ラウンジがあったが、その日の患畜はほとんどリンパ腫であった。アメリカン・ショートヘアーやゴールデン・レトリーバーの診療を行い、どちらもリンパ腫であった。午後の診療はほとんどなかったため、他の科を見学した後、図書館など校内を散策していた。

8月8日（金曜日）

この日はPurdue Dayであり、Dean先生にいただいたPurdueのTシャツを着てState Fairに行った。VTのBeth、スペイン人のLari、ドイツ人Alisaも一緒だった。様々な種類の山羊、羊、豚、牛、馬、ロバが展示されていた。伝統衣装を身にまとった人々が音楽を奏で、工芸品や食べ物を売っており賑やかだった。Purdueの獣医学科では子供たちを対象に縫いぐるみを用いて縫合の仕方を教えていた。また、簡易的な手術室が設置され、犬の去勢および避妊手術を公開し、摘出した卵巣や精巣を視聴者に見せて回っていた。隣に座っていた少年はオペが始まると両手で目を抑え、指の隙間から手術風景を観ていた。

8月9日（土曜日）

午前中はScott先生にショッピングモールに連れて行っていただき、お土産を選んだ。午後にはバーベキューがあり、Tomo先生がハンバーグを焼いてくれた。LariとAlisaに加え台湾人のChingとEric、Tomo先生のお子さんと一緒に遊んだ。途中で村上先生もいらしてくださり、食後はLariに誘われ、DOWNTOWNのmusic festivalに行った。夜9時近くであったが、サマータイムでまだ明るかったため、大人と子供たちで賑わっていた。

8月10日（日曜日）

Tomo先生にIndianapolis動物園に連れて行っていただいた。午前中は動物園病院と動物園の裏側見学を行った。動物病院は設備が整っていてきれいであり、大学の動物病院のようであった。案内してくださったオーストラリア人の先生はとても優しく、ゆっくりとわかりやすく話してくださった。裏側見学では子供のペンギンやアフリカゾウに触るとい

う貴重な体験ができた。

午後は自由時間であり、動物園内を散策した。自然の中に動物が生活しているような展示であり、野生動物を見ているようであった。また別の場所には大きな鳥かごがあり、入ってみると100匹を超えるセキセイインコが木から木へと上空を飛び回っていた。その数の多さにやや恐怖を覚え、飛び交うインコにぶつからないように身をかわしながら出口を目指した。

8月11日（月曜日）

この日のClinical rotationは内科であった。午前中はミーティング室で新しい専門医の先生を始め順番に自己紹介をし、寄生虫について講義があった。寄生虫の英語名の発音に聞きなれていなかったが、黒板に書いて説明してくださったので完全ではないながらも内容を把握することができた。

正午には行動学の専門医である小川先生が講義をしてくださった。クリッカーを用いたコントロールの練習を犬役とトレーナー役に分かれて行った。

午後には慢性腎不全ステージ3～4のラブラドール・レトリーバーの身体検査を行った。身体検査の項目には血圧測定も含まれており、手根周囲にバンドを巻いて血圧や脈音を測定していた。血液検査結果により、慢性腎不全が初期に比べて改善されてきているとわかった。

8月12日（火曜日）

この日のClinical rotationは救急科であった。大学に着くとTomo先生がグレートデンの帝王切開があると教えてくださり、すぐに手術室に向かった。レントゲンを見るとパッと見ても15匹以上の胎仔が腹腔に見られた。数多くの胎仔により胸腔が圧迫されて呼吸困難であった。胎仔が引っかかっており、膣脱も起こしていた。オペが始まると学生やVTの方々が仔犬を受け取るためタオルを持ってスタンバイしていたため、私もその列に並んだ。仔犬を受け取るとマッサージをし、口腔内から羊水を抜いてひたすらマッサージを施した。息をするか不安で必死だった。しばらくすると鳴き声をあげたので安心して思わず微笑んでしまった。獣医学生になってよかったと思った瞬間だった。18匹の仔犬が生まれたが、1匹は亡くなってしまった。合計17匹の仔犬が段ボールに入れられ、ミューミュー鳴いていた。息が止まらないか心配だったので段ボールの傍に座って数時間程マッサージしていた。午後は頸椎の椎間板ヘルニアの犬のオペを見学した。ベントラルスロット術を施していた。

8月13日（水曜日）

この日のClinical rotationも外科であった。脳腫瘍があるゴールデン・レトリーバーであった。岩井先生がどのような処置をしているか教えてくださったため、理解しながら見ることができた。骨膜を剥がしながら頭蓋骨を開け、さらに前頭洞下の骨を開けていた。硬膜はバイポーラで焼き切り、腫瘍を摘出していた。摘出個所にガーゼのようなものを置き、その上にジェルを塗っていた。頭蓋骨に穴を開け、糸のようなもので固定した後、レジデントが皮膚縫合していた。午後にはThompson先生のお家で夕食会があった。絵に描いたような素敵な家にThompson夫妻、大学生の息子さん2人と高校生の娘さん、そして2匹の可愛らしい犬が住んでいた。夕食の支度ができるまでテニスをし、食後は卓球やゲームをして遊んだ。とても楽しく時間があっという間に過ぎた。

8月14日（木曜日）

この日のClinical rotationも外科であっ

た。上腕骨骨折の創外固定の手術を見学した。導入後にTomo先生が鎮痛のためのBrachial Plexusの投与方法を指導していた。オペは骨の整復に困難をきたしており、女性3人掛りで肢を引っ張っていた。

また、この日はHill先生について17時から21時まで夜間救急に行かせていただいた。銃で撃たれた子猫が来院した。経過としては、数週間前から行方不明になっていた2歳の猫が前肢と後肢を銃で撃たれて骨折したということであった。患畜は人懐っこく活発に動き回り、予想以上に元気であった。しかし身体検査で患部を視ると傷口が化膿しており痛々しかった。Hill先生がギブスをし、翌朝手術することになった。待合室に行くと飼い主のご家族が6人もいらして心配そうな表情で診断を聞いていた。

Hill先生は落ち着いた口調で丁寧に説明していた。

8月15日（金曜日）

この日のClinical rotationも外科であった。昨日の猫のレントゲンを撮ったところ、上腕骨と脛骨が複雑骨折しており、また貫通した弾丸が腹部に見られた。導入後に聴診器を咽頭に入れていたので、何故か質問したところ、手術中に聴診するためだ教えてくれた。手術を見学していたが、途中で透視下手術となり、部屋に入ることができなくなった。隣の部屋の窓から見ていたが、お別れ会の時間が近づいていたため、子猫の無事を祈ってその場を後にした。後ほどTomo先生に猫の様態を尋ねたところ、元気に回復して飼い主のもとに帰ったと教えてくださった。

最後に

滞在中の先生方に何から何までご親切にサポートしていただき感謝の念に堪えない。日本ではできないような数多くの貴重な経験をすることができたが、一番刺激的だったことは素晴らしい人々に出会えたことである。すでに獣医のように立派に成長した学生、Tomo先生を始めとする逞しくハードな仕事をこなしながらも誰に対してもとても親切で優しい先生、強い信念を持ち目標に向かって挑戦し続ける村上先生。研修の始めの頃は自分の拙い英語を恥じてナーバスになっていたが、素晴らしい学生や先生の姿を見ているうちに、この場所で今自分ができる限り学びたいと思うようになった。

2週間があっという間に過ぎ、もっと滞在したいという思いが強く残った。Purdueにくることができて本当に幸せだった。

豊原　光佑

8月2日（土）

朝7時に起床して、車で七戸十和田へ。8時52分の上野行きのはやぶさに乗り、2週間の研修が始まった。約3時間電車に揺られ、上野に着くと、京成上野駅へ徒歩で移動。空港の両替所は混むかもしれないと思い、京成上野駅の両替所で約36000円分USドルに両替した。電車に乗って成田第一ターミナルまで移動した後は、岩井先生と合流し、荷物を預け、お土産を買った後、手荷物検査、出国審査を受けた。出国審査は、無暗に列に並ぶより作業の速そうな審査官を見極めてその列に並ぶのが早くていい。ロビーでココアを飲みながら一時間ほど待ってから搭乗した。座席の前に液晶画面が付いていないタイプの飛行機で残念だった。機内は冷房が効き過ぎで寒かったので、羽織るものを持って入るといいと思う。飛行機の中ではプレゼンの準備と食事と睡眠の繰り返し。シカゴに到着してから2時間で次の飛行機に乗り換えるのが意外に忙しかった。入国審査、持ち物検査で

再び並ぶ時間が長かった気がする。空港内を走る電車に乗る際、岩井先生だけが先に乗って行ってしまうというハプニングもあった。飛行機でIndianapolis空港に着くとスコット先生と井上先生が待っていてくれ、車で約1時間30分ほどかけて宿舎まで連れていてくれた。宿舎は思っていたより立派で十和田に帰りたくなくなるほど。その後、歩いて小さなスーパーに行って、牛乳とソーセージを買って帰り、準備してくれていたベーグルと一緒に食べた。

8月3日（日）

朝7時半起床。9時に井上先生がベーグルを買って来てくれ、それを食べた後、2週間の打ち合わせをした。先生の経歴なども話してくれた。卒業後、日本の大学ではなく、アメリカと日本を行き来できる仕事に就きたいという希望で単身アメリカの獣医大学に進み、獣医師となったという話は興味深かった。11時半からランチついでの散歩に学生だけで行ってFive Guysというアメリカで有名なハンバーガーショップで食事した。3時半からスコット先生に車でWalmartというGrocery storeに連れて行ってもらい、今後の朝食や昼食用の食材を購入。いったん家に帰って食材を冷蔵庫に入れて、Welcome DinnerとしてLogan's Roadhouseというステーキ屋で12ounceのRibeyeをご馳走になった。メイン以外にもサラダやパン、ピーナッツ、デザートと盛りだくさんで美味しかった。帰宅すると、お腹いっぱいですぐ寝てしまった。

8月4日（月）Emergency/Critical Care

ローテーション1日目。朝6時半起床。お昼ご飯としてサンドウィッチを作って持って行った。大学まで10分ほど歩き、朝8時に井上先生と会った後、学部長のディーン先生の会議室に連れて行ってもらい、保険代として13ドル払ったり、各種書類にサインをした。朝食として用意してもらっていたシナモンロールを食べながら、MRIに関するビデオも観た。それらが終わると井上先生に病院の中を紹介してもらった。想像以上の広さと機材の充実度に驚かされた。

病院ツアーが終わるといよいよクリニカルローテーションが始まった。ECCは主にICUで活動しているので、井上先生にICUに連れて行ってもらい、4年生のDimpleにお世話になることになった。この日は前日の夜に急患として入ってきた雑種犬『Winston』の検査。学生がHistoryやProblem Listを書き、一通り自分で治療法も考えて、教員やインターンまたはレジデントの先生に相談してアドバイスを受けていた。夏休み期間ということもあるのかもしれないが、学生数に対して教える側の人数が多いという印象を受けた。

最後にはラウンドといって、一つのテーマに沿って教員と生徒数人が討論をする形式の授業があった。この日は輸液の種類や使用するケースについて討論していた。日本にはない授業形式で、テーマについてちゃんと理解していないと参加できないような授業だった。

帰りは蒸気機関車を模したバスでキャンパスツアーに連れて行ってもらった。日本の大学と違って大学のキャンパスが一つの街を構成していて、爆音を発しながら疾走するバスに乗るのは楽しい反面恥ずかしかった。総合すると良い思い出になった。

8月5日（火）Emergency/Critical Care

ローテーション2日目。朝から急患が来院して緊張が走った。大型犬の『Dora』はレントゲン・CT検査の結果、少なくとも脾捻転・腎不全・喉頭狭窄を併発していることが

判明し、最終的には、残念ながらペントバルビタールナトリウムを静脈注射することで安楽殺となった。ペントバルビタールナトリウムはピンク色に着色してあり、他の薬品と間違わないようにしてあった。日本との違いを感じたのはその後の遺体の扱い方。遺体をきれいに拭いたりしないまま黒い袋に入れて、遺体置場に運んでいたのが印象的だった。日本との文化の違いを感じた瞬間だった。午後はPCVが9%の猫が来院。学生が先生に相談しながらProblem Listを作成後、類症鑑別、治療計画まで考えていた。さらに驚いたことに、学生が診察室でオーナーと一対一になって問診を行い、診断・治療の説明まで行っていた。日本では考えられない光景で、教育制度の違いを肌で感じることができた。

ラウンドはショックについてで、ショックの原因、症状、治療などについて議論していた。

8月6日（水）Emergency/Critical Care

ローテーション3日目。あまり患者が来院せず、ICUは平和だった。学生にVTさんが後大静脈圧測定器の取り扱い方や、鼻カテーテルの入れ方を手とり足とり説明していた。これは授業の一環で、説明を受けて自分でできるようになったらVTや先生がチェックリストにチェックを入れていく形式。私たちが受けた多くの実習と違って、自分でできるようにならないと次に進めないというのは合理的だと思った。

午後は自分たちのプレゼンテーション。思っていた以上に学生や先生が聴きに来てくれて緊張したが、英語でのプレゼンは良い経験になった。

ラウンドは発作について。発作の原因や検査法、治療法を順序良く説明してくれたThomovsky先生はびっくりするくらい早口で聴き取るだけで精いっぱいだった。

8月7日（木）Diagnostic Imaging

ローテーション4日目。ラウンドが朝からあり、レントゲン画像の所見を学生が述べていく形式だった。日本では聞いたことのないサイン（ダブルOサインやローリーダニエルサインなど）があって新鮮で面白かった。マレーシア人のヘン先生は気さくに話しかけてくれた。レントゲンの撮影方法などは自分たちが大学病院で行っているものと違わなかったが、大きな動物も撮れるように撮影台が大きかった。

8月8日（金）State Fair

State Fairとは各州で行われている農作物や家畜の品評会と仮設遊園地が合体したお祭り。行く前はちょっとした出店があるくらいだろうと思っていたら、巨大なState Fair専用の会場に牛、馬、羊が数えきれないくらいいるだけでなく、食べ物屋台からトラクターやバスタブ販売のお店まで無数の出店があり、アメリカのお祭りの規模の大きさに笑わずにはいられなかった。Purdue大学獣医学部もブースを出していたのだが、そこでもびっくり。仮設オペ室を作って一般人にSpayするところを見せていた。日本では考えられないことだが、より獣医学部を知ってもらうにはいい機会なのかなと感じた。

8月9日（土）

Tippecanoe Mallというショッピングモールにお土産を買いに行った。ふらっと立ち寄ったスポーツグッズショップで猟銃や弾を売っていてびっくりした。本当に簡単に銃が手に入る社会なんだなと実感。午後はHappy Hollow Parkという公園でCookout。ハンバーグなどを作ってもらっている間にクリケットの遊び方を教えてもらい、実際にプレイ。思った以上に難しく、最下位で終わった。

8月10日（日）

朝8時にIndianapolis Zooへ出発。イルカショーを観たり、ゾウやペンギンに触れて写真を撮ったり、裏方の仕事場（手術室・レントゲン室・飼育部屋など）を見せてもらったりと貴重で楽しい経験ができた。爬虫類や魚類など普段見ることのない動物のレントゲン写真は放射線学研究室に所属している自分にとって興味深かった。けっこう歩き回り、広い動物園だなと感じていたら、井上先生に「アメリカでは中くらいの大きさ」と言われて驚いた。

8月11日（月）Cardiology

ローテーション5日目。朝9時から胸部レントゲンを見てその病気を考えるというラウンドを行った。午前中にMR患者の再診があり、動物の体にECGレコーダーをテープでくっつけていた。その他、心雑音のある犬のレントゲン撮影、エコー検査を行っていた。お昼には緒方先生に行動学のランチセミナーをして頂いた。クリッカーを使ったしつけ方について教わった後、実際に自分たちでやってみるという内容だったのだが、新鮮で記憶に残るセミナーだった。午後はCardiologyの合間にUrologyの膀胱腫瘍のバイオプシーを見学した。VTさんがとても親切に説明してくれたので、何をしているのかとても分かりやすかった。

晩ご飯はメキシカンのBuritoを初めて食べた。とても美味しかった。

8月12日（火）Cardiology

ローテーション7日目。火曜日はCardiologyの診察日で、前日より多くの患者が来た。朝9時からラウンド。内容は鬱血性心不全の原因・治療薬についてだった。予習プリントをコピーしてもらって読んでいたがラウンドの内容は難しかった。この日はMR,PDA,AS,PS,HCM、三心房心などバリエーションに富んだ症状の心エコーを見たり、心雑音を聴くことができた。夜はトンプソン先生の自宅にお招きいただき、サッカーやバスケで汗を流した後、夜ごはんを食べ、スマブラやサッカーボードゲーム、卓球などで遊んだ。広くておしゃれな家だった。

8月13日（水）Cardiology

ローテーション8日目。水曜日のCardiologyはラウンド無し。前日の患者の手術日で、三心房心とPSを併発しているビーグルの手術を見学した。Cardiologyを見学したい人は火曜日と水曜日が診察日と手術日になっているのでセットで見るのがお勧め。手術自体は人が多いうえに術野を映すテレビなどは無く、透視の映像だけ見えるようになっていた。昼からは飛び入りで、下顎にマスができたアルパカの手術を見学した。下顎付近に骨様物が溜まっており、その周囲を軟部組織が取り囲んでいた。骨様物を除去し、その部位に小さく丸めて糸に連ねた抗生物質を含ませたセメント塊を埋めていた。その後、蹄底潰瘍の牛の処置を見た。牛を挟んで横向きにさせる大掛かりな機械に牛を追い込んで処置していた。晩ご飯は村上先生にMaru Sushiという日本料理屋っぽいお店に連れて行ってもらい、そこで焼きうどんを食べた。日本食が恋しくなっていたのでとてもありがたかった。帰り道にPurdue大学のお土産屋さんを見つけてお土産を買った。

8月14日（木）Anesthesiology

ローテーション9日目。上腕骨近位斜骨折と気胸を併発しているシェパードのオペや前十字靭帯断裂の雑種犬のラテラルスーチャー法など、5年前期で勉強したような手術の麻酔を見学した。麻酔のプロトコールを学生が考えて決めていたことに驚いた。また、オペ

前の犬の留置を入れさせてもらったのだが、日本とは違う入れ方を教わり、新鮮だった。麻酔管理に関しては大学病院で見ているものと大きくは変わらないと感じた。

昼はThomovsky先生のランチセミナー。猫の輸血について詳しく教えてもらった。Thomovsky先生はやっぱり早口で、聴き取るのに精一杯だった。

この日の夜はECCの見学もした。銃で撃たれた猫という、日本ではなかなか見ることのない症例や、車に轢かれて右前肢が無くなってしまった猫などが来院していた。

8月15日（金）Anesthesiology

ローテーション10日目。朝、アパートのチェックアウト・支払をしてから大学へ。午前は犬のスケーリングを見学。メガネやマスクなどを着用して実際にスケーリングもやらせてもらった。歯専用のレントゲン撮影機も初めて見た。午後はフェアウェルパーティーを開いてもらい、お世話になった学生や先生たちと話をすることができた。夜は井上先生と村上先生をアパートに招いてご飯を作ってパーティーをした。

8月16日（土）

5時半起床。お世話になったアパートを6時半に出て、車でインディアナポリス空港へ。インディアナポリスでお世話になった先生たちと別れて乗り継ぎのシカゴ空港まで飛んだところまでは良かったが、シカゴ空港でまさかの機材トラブル。約3時間ロビーで待たされるというアクシデントにも見舞われたが無事日本へ帰国できた。十和田に帰る新幹線が無かったので東京で一泊することになったがなんだかんだそれも良い思い出になった。

【全体の感想】

目的を『日本とアメリカの獣医療・教育の違いを知る』として臨んだ米国研修だったが、色々な違いを見つけることができた。その中でも特に大きな違いは規模と教育制度ではないかと感じた。規模に関しては、市場規模はもちろん、動物の大きさ、治療室の大きさ、機材の大きさなど様々なものが日本より大きく感じた。獣医学教育に関しては、アメリカでは学生が主体の診療が進められており、その分学生の意識も高く、自分でやったこととしてより身についているように感じられた。今回の研修を通して学んだ様々なことを今後の病院業務や将来に活かしていきたいと思う。

パデュー大学夏期研修に同行して

2014年度パデュー大学同行教員
小動物第2外科学研究室
岩井　聡美

はじめに、この研修が何事もなく終了でき、国際交流委員会ならびにパデュー大学の方々、ともに日々を過ごした学生みんなに感謝いたします。ありがとうございました。

2014.08.02

私たちパデュー大学組は、前期試験が終了してすぐに渡米だったため、取るものも取りあえず出発しました。シカゴでの経由では、モノレールに乗った瞬間ドアが閉まり、あ～っと言いながら出発。学生全員と離ればなれに！すぐに後を追ってきてくれたからよかったですけれど、到着直後だったが故、束の間の一人ぼっち感半端なかったです（笑）。長ーいフライトの末、少し遅れてインディアナポリス空港に到着し、Dr. Scott-MoncriefとDr. 井上（トモ先生）が出迎えてくれました。日本人と聞いていたのに、日本人離れしすぎてるトモ先生に驚きました（笑）。みな

さま、よろしくおねがいしまぁす！ということで､アパートメントへ｡アパートは新築だったのもあって、とても快適。Wi-fi もつながるし、洗濯機も乾燥機もあり、キッチンも広くてきれい！

2014.08.03

朝一でトモ先生からのオリエンテーション。午後は、Walmart へ連れて行っていただき、一週間分のお買い物。日本を出発してから禁酒生活だった私と寛也は Beer がないと死んじゃう寸前だったのに、なっ、なんと、インディアナ州は日曜日にアルコール飲料が買えない…(T_T)。仕方なく、別な日にアメリカンなジャンキーパーティーしよう！！ということで、普段の食事分に加えて、巨大なピザやチキンナゲット、スナックなどを購入してアパートメントへ戻る。夜は、パデュー大学の学長、副学長、学科長の Moncrieff 先生、トモ先生 Moncrieff 先生の秘書の Tami といったメンバーでステーキショップへ。大きなリブステーキをたいらげ、満足。

2014.08.04

学長から歓迎のご挨拶をいただいたあと、それぞれ実習に対する心の準備をしながら自己紹介を。午前中は、トモ先生に連れられて小動物診療施設、大動物診療施設を見学。とても広く、方向音痴の私には迷路で、2 週間いても 1 人で移動するのが困難で…。結局、私たちの控え室とオペ室とトイレあたりだけうろうろしている有様でした。その後、みんな振り分けられた診療科へ移動し、午後 5 時まで実習です。私は、事前に小動物の外科手術を見学させてもらえるようお願いしていたため、軟部外科と整形外科の手術のある日は一緒に学ばせていただくことができました。

本日は整形外科の診療日で、ラテラルスーチャーの破綻症例がきました。愛嬌のあるブルドック。跛行により、患肢は筋肉も萎縮していました。その後、軟部外科では、咽喉麻痺の Tie-Back 法を見学。

帰りは、パデュー大学の機関車型バスで大学全域を周遊してもらい、アパートメントへ戻ってきた。機関車の音もさることながら、このバスは歩道も公園も走り回っていいそうで。面白いシステムですね～。

Beer を買いに行き、早速ジャンキーパーティー！

2014.08.05

1 日、整形外科の見学。脛骨の蝶形骨骨折を、ラグスクリュー、ワイヤリング、プレーティングにて修復。オペ室に術野を移すモニターがなく、なかなか術野が見えない。なので、見える範囲でオペの流れを北里の学生にも説明しながら、見学していた。オペ室、寒すぎ。鳥肌。アメリカ人は寒くないのだろうか…。

2014.08.06

今日は、自分たちの自己紹介を兼ねたプレゼンテーションの日。お昼にたくさんの人たちが集まってくれました。ピザがただで配られるため？かもしれません笑。美味しかったですけれど。私は、研究成果と臨床での専門分野について 30 分程度のプレゼンテーション。ただ、ハードルは英語でした。。。

循環器では、インターベンションを持ちいた肺動脈狭窄の拡張術を行っていた。私は腫瘍に対する塞栓術としてインターベンションを行っているので、楽しく見学することができた。そして、ここでも、学生はインターベンションを見たことがないため、説明しながら見学。分からなすぎることをただひたすらみているよりは、臨床的な説明をしてあげることができてお役に立てたかな。

夜は Teppanyaki Gril というところでバ

イキング。Dr. Moncrieff と息子のピーター、トモ先生ファミリー、Tami の旦那様と娘さん、などなど大人数で会食。暴食。ここで、日本人の女性で放射線治療科のレジデント 1 年目の先生と出会う。帰りにアパートメントまできてくれて、みんなで夜遅くまでお話し聞きました。素晴らしい出会いに感謝。

2014.08.08

インディアナ州のフェアが 3 週間ほど続くなか、今日はパデュー day ということでパデュー大学を紹介するブースを出すとのこと。ということで、今日は一日インディアナステイトフェアに参加。朝から夜まで、またまた食べ通し。インディアナ州でよく食べるらしい朝食、おやつはリブステーキのハンバーガー、お昼はハンバーガー、インディアナ州名物の焼きトウモロコシ、ポップコーン、そして揚げたパンケーキみたいなもの、アメリカの方たちの体格を作り出す根源はここにあるんだなと思いました。そして、私と寛也で夜の町に繰り出し、アホなことに再びハンバーガーを食べ、暗くなるとちょっと怖いので明るいうちに近くにあった Bar へ挑戦。カクテルを作っている人が寛也の 2 倍くらいありました…

2014.08.09

本日はモールでお買い物です。私はモールで買うようなものが見当たらず、近くの大きなフードマーケットへ。

夜は、cook out!! そして、ハンバーガー !! みんなでクリケットをやりましたが、以外に私うまい！　楽しかったです。

2014.08.010

今日は Indianapolis Zoo。裏側を見学です。動物園内の病院を見学し、いつもは見ることのない道具をたくさん拝見。私は‘象の獣医さん’になりたくて獣医師になったこともあり、象とふれあい、たくさん触って、こんなにも近くにいられたことに、この 2 週間で最大の感激を得てしまった !!　サイコーの一時をありがとうございました！　そして、またまた昼ご飯はハンバーガー、たしか夜も cook out の残りのハンバーガー。帰国までにいったいいくつのハンバーガーをたいらげるんだろう。。。

2014.08.11

午前中、学長の Dr. Reed とミーティング。受け入れてくれたことへの感謝を伝え、今後についても少々お話しした。私たち北里は、毎年訪問して学ばせていただいている。逆に、パデュー大学から北里大学へも学生が訪れることができるように、さらなる交流を深めていきたいと仰っておりました。私たちも歓迎できるよう努力をしなければいけないですね。とても深く、許容力のある先生でした。

夜は、村上先生が買い物へ連れて行ってくれて、アパートへ再び遊びに！みなさん、本当に優しくて、フレンドリーで、いつも助けてくれて。良い人たちといることは、心も和みます。

2014.08.12 ～ 13

12 日は副学長の Dr. Salisbury とミーティング。もともと Dr. Salisbury は軟部外科の先生なので、臨床のこともお話しを。とてもきさくな方で、またいつもで大学の見学へいらっしゃいと仰ってくださいました。

夜は、Dr. Tompson のご自宅へお邪魔することに。奥さんお手製の手作りハンバーガーでおもてなししてくださいました。その後は、学生と Dr. Tompson、そして先生のお子さんたちと一緒に先生のご自宅の地下室で、卓球やサッカーのボードゲーム、ダーツなどでワイワイ。こんなお家だったら、サイ

コーに楽しいでしょうね〜。

12 日と 13 日は、脳腫瘍のオペを見学。私もマイクロサージェリーをやるので、オペが可能な症例があるなら、北里でも行いたいと思っていました。とても参考になるところを拝見できてよかったです。この経験を、北里でも生かしていきましょう！

2014.08.14

病院長の Dr. Arigi とミーティング。病院としても、私たちのような学びたい方々をいくらでもアシストしていきたいと、前向きな素晴らしい回答をくださいました。みなさん、人のために役立つことを苦とせず、なんて素晴らしいのでしょう。

2014.08.15

Dr. Moncrieff、トモ先生、Tami と一緒に、ランチミーティング。今年の実習の感想、来年へ向けての改善点などなど。来年もとても良いパデュー大学の研修になることでしょう！!

Dr. Ogata とミーティング。今は行動学の専門医として働く、日本人女性。私にとっては先輩獣医師として、ためになるお話しをたくさん伺うことができた。

夕方から、Farewell ceremony。学生みんなは修了証をいただき、寛也のスピーチで幕を閉じました。交流をもった方々が来てくださって、写真撮影。そして、Tami の旦那様もご挨拶にきてくださいました。感動です。これからも、このように交流が広がることを祈って。

2014.08.16

帰路。トモ先生と村上先生が、インディアナポリス空港まで送ってくれました。良い出会いのあとの別れは、寂しいものがありますね。絶対にまたお会いできるでしょう！! シカゴでは飛行機が一度発進したのに、故障のため搭乗口に戻るというアクシデント。発進する前に確認してよ！と思いつつ、シカゴで結局 8 時間滞在。成田に着いたのは夜の 8 時過ぎで、もうみんな青森へは帰れない…ホテルを確保して、急遽宿泊。なにはともあれ、学生全員を無事帰国させることができたことに、安心した瞬間でした。

おわりに

私は引率で行きながら、診療業務も見学させてもらうことができ、臨床現場だけではなく、臨床教育のシステムという観点からも学ぶことができた。このような機会をくださったことに、深謝致します。また、今までパデュー大学と連絡を取ってくれていた先生方や引率した先生方の真摯な行動を受け、パデュー大学の諸先生方を始めみなさまが、私たちに対してもとても思いやりのある対応を常にしてくださいました。この研修に携わってくださったみなさまには、感謝の言葉しかありません。たくさんのバックアップのもと、学生は多くの事を得て喜びに満ちた顔で帰国し、このように完遂されたことが、私のなによりの喜びです。今後もまた、パデュー大学で学生たちが有意義な研修をできるように、私も励んでいきたいと思います。

また、北里大学の動物病院関係者には、長期間放れるにあたりご迷惑をおかけしたことにお礼申し上げます。

最後に、一緒に行った学生諸君。たくさん面倒かけたところもあった気がいたしますが、楽しい思い出をありがとう。

Acknowledgements

As for this overseas training, it become the really valuable experience that would help oneself by all means in my life from this. I think that the reason why I think so now is that trainee and a teacher of leading to the same Purdue University, besides, all people who went to other universities entirely were able to go without big accidents safely. I would like to thank the teachers who fixed the system including the cooperation with the training university, teachers who advised in various ways and teachers of training ahead that supported us in the United States so that our trip becomes more safely and comfortable, all people heartily.

Keisuke Imoto

Thank you so much for all your kindness. I had a great time in Purdue University. And, I had learn difference between Japanese and America veterinary medicine. I never forget everything that I experienced for two weeks. At first, I was worry about my poor English. But, everyone was very kind and supported me. I want to be able to speak English much better. So, I have continued to study English. In the near future, I would like to visit to Purdue University again!!

Saori Okutomi

For every Purdue staffs

I appreciate your kindness. I had a lot of fun and precious experience which is hard to obtain thanks to you.

One of my main aim of this visiting is to try my English skill. Sometimes, I couldn't understand you and explain my mind. But Everyone spoak slowly and tried to understand me carefully. Because of it, I could attain the aim and get confidence.

Everyone, especially Dr.Tomo and Dr.Scott-Moncrieff accepted my selfish. I really appreciate it!

I met many people and made new friends. I could expand my world!

I'm happy to see you again. Thank you again for everything!!

Hiroya Kato

Dear All,

I’m grateful for your kindness and support during my stay. I will never forget your kindness. I really appreciate. I had such a happy and precious time with you that I didn’t want to go back to Japan, in fact.

I could have many valuable experiences that I can’t do in Japan. The most stimulating thing for me was that I could meet amazing people. I was surprised by some students who already grew up to be like doctors. I was also impressed by doctors who were so kind and have some strong wills. And I was moved by one resident who is doing her best heading towards her dream with the mottos “tireless efforts” and “always welcoming challenges”. They encouraged me to study more. I respect them from the bottom of

my heart. At the begging of the week, I was nervous because I was ashamed of my poor English. I had a lot of things I wanted to tell and talk with you but I could not put them in words well. I really thought that I should have studied English more in Japan. But while meeting wonderful people every day, I started thinking that my best thing to do was try to learn as much as I could while I was here and spent the most of given my time. Thank you for making an effort to understand my poor English and explaining many things to me.

This stay became good stimulation for me. Thanks to you, I feel happy all the time of my stay.

Thank you very much again.

Yurika Tachibana

Thank you for all staff at Purdue University. We could spend very very valuable and joyful 2 weeks. My purpose of this clinical training was "Finding differences of veterinary medicine between the US and Japan". Due to your kindness, I could find some differences.

I felt anxious at first because it was my first visit to the US. But your kindness and sincerity softened my anxiety. I will not forget your kindness and sincerity.

I believe that this experience makes me a better veterinarian. And, I want to keep this words to myself forever.

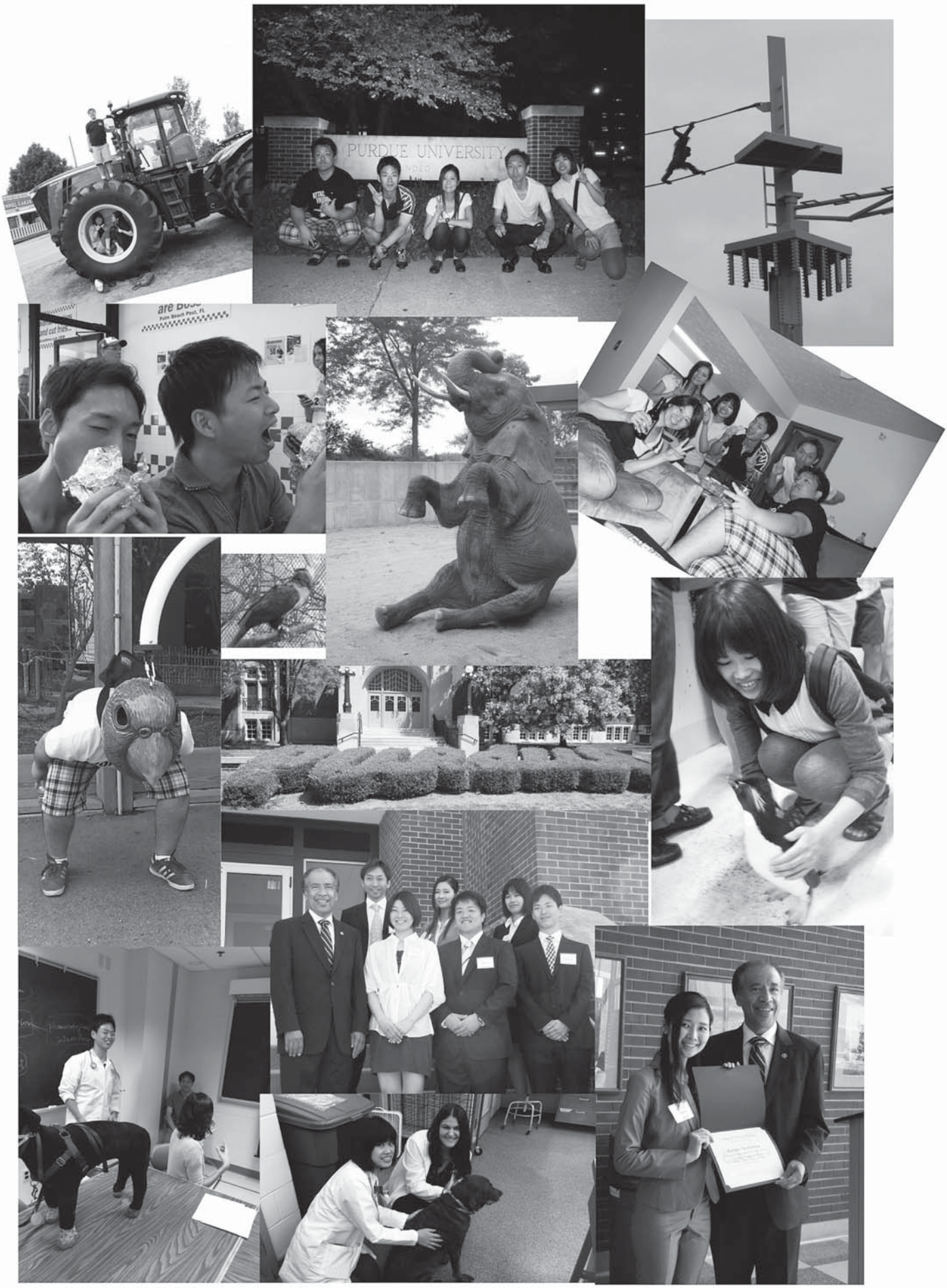
"Keep Calm and Boiler Up !"

Kosuke　Toyohara

Dear Members of the Purdue,

I appreciate your support and help so much. It was my great honor to meet you all. I could not have done anything without your help. I hope to promote a better relationship between Purdue University and Kitasato University.

Thank you so much again.
Satomi Iwai


PURDUE UNIVERSITY

BOILERMAKER Special

Big

Welcome to Purdue Day
at the Indiana State Fair!
PURDUE

The University of Georgia
2014.8.16-31

The University of Georgia College of Veterinary Medicine

Kitasato University & Kagoshima University 2014

Hikaru TANI, Kana TSUCHIYA, Nozomi SHIWA, Mako SONODA, Kasumi SUDO, Chorong Ham, Taiki NAKAO, Atsushi UKAI, Naoki UMEYAMA, Masaya HIRATA, Masahiro NATSUHORI and Satoshi TOKUNAGA

参加者一覧

同行教員：夏堀 雅宏　Dr. Masahiro Natsuhori

氏名	Name	所属研究室
鵜海　敦士	Atsushi UKAI	小動物第２外科学
梅山　直樹	Naoki UMEYAMA	獣医解剖学
志和　希	Nozomi SHIWA	獣医病理学
土屋　可奈	Kana TSUCHIYA	獣医微生物学

鵜海　敦士　Atsushi Ukai

8 月 16 日（土）、8 月 17 日（日）

当日の朝早くに十和田を出発し、新幹線で成田空港まで行った。成田空港には初めて来たが、やはりデカい！国際空港ということもあり外国人の人が沢山いて、ここに来ただけで少し海外チックな雰囲気を感じられた。どうでも良い話ですが、搭乗の際の手荷物検査で、中の歯磨き粉を律儀に差し出したら没収された（新品だったのに…）。

いざ出発。アトランタ空港まで 12 時間程の長旅だったが、出された機内食を食べる以外は寝ていたら案外すぐ着いた。途中映画を見ようとしたが、機内で配られたイヤフォンが半分聞こえないという気持ち悪い仕様だったので断念した。自分でイヤフォン持って行った方が良いと思う。先輩からは機内は寒いと聞いていたが、上についている送風装置を切ったら快適だった。アトランタ空港に着いても飛行機に乗っている時間が東京 - 青森間の夜行バスの時間とそんな変わりなかったので、あまりアメリカという実感はなかった。アトランタ空港の入国審査員の方が昔沖縄の米軍基地で働いていた人らしく、I love Japan と言っていてとても嬉しかった。他の国の人に比べ、日本人は比較的早く入国審査が終わっていた。やはり国によって治安がかなり違うのかなと感じた。空港からホテルまでタクシーで送ってもらい、晩に鹿児島大学の人たちと合流した。

8 月 18 日（月）

本日は昼から獣医学部の見学をさせていただいた。最初にプレゼントとして、水筒やボールペンなどを貰った。一番嬉しいプレゼントはジョージア大学の刺繍入りの白衣だった。M サイズでも結構大きく感じたので、アメリカンサイズというものを実感した。そこで昼ごはんもいただいたが、そこにチョコクッキーやドリトスがあったのには驚き、確実に太ると確信した。ざっと大学内を案内してくれたあとに、新聞社の人が来て集合写真を撮っていただいた。

晩にはボーリングに行った。靴のサイズを頼むとき、日本とは違って cm 表記ではなかったが、親切に変換表みたいなものを見せてくれた。表記は飲み物でも違って、ペットボトルは日本では mL 表記されているが、アメリカでは oz（オンス）表記が普通だった。確かペットボトル 20oz が 561mL で 1.5 ＄だったと思う（ちょっと日本よりお得）。

8 月 19 日（火）

本日からクリニカルローテーション開始。本日は Emergency and Critical Care(ECC) を見た。最初は ECC のメンバーみんなでカンファレンス。自己紹介を最初にして、と言われたが、特に自己紹介を考えていなかったので言葉に詰まった。同じ ECC に行った鹿大の大樹はスラスラと自己紹介できていたので、自分が情けなく思った。次から、初めて行く場所には自己紹介を考えていこうと心に誓った。ECC のメンバーはみんな優しい人で、特に Boss の Amie はみんなに説明した後に、簡単な英語で自分たちに説明してくれたのでとても感謝している。

ここの学生は 3 年から病院に来て、自分が選択した科に 3 週間程配属されるらしい。また日本との大きな違いは学生にかなりの部分やらせるということだ。採血、留置、投薬、問診などなどは学生もしくはレジデント、インターンに任せられ、Boss は最終的な確認をするという流れだった。日本の法律では学生に医療行為をさせられないということになっているらしいので、かなり行動が制限さ

れている。しかし、もし学生が医療行為をできるのであれば、先生たちの負担が減ると感じた。確かに、失敗は恐れなければいけない事であるが、医療ミスを起こさせない指導さえあれば学生が医療行為を行うことは経験にも考える力にもなって良いと感じた。

8 月 20 日（水）

本日も ECC。この日はカンファレンスを長くやっており、途中から Boss による緊急時の対処法講座になっていた。Boss は呼吸困難の呼吸様式のマネが上手く、わかりやすくおもしろかった。やはり教える際に重要なのは、相手を楽しませることと発見させることで、教えている際に Boss は学生に何度も質問を投げかけていた。

大学の講義はただひたすら聞くだけで、一切の能動性は無いことがほとんどだ。もっと学生を主体的に動かしたいならば、実習だけに能動性を求めるのではなく、講義の中にも能動性を持たせるべきだと感じる。

また、アメリカは他の 4 年生大学を卒業しているかつ、動物関連の仕事などを一定期間行った上でのさらに獣医大学 4 年なので、本当に獣医をやりたいという人ばかりが入ってくる。日本は、「とりあえず理系選択だし、まだ安定した資格の獣医でも目指しとくか」というような人も中にはいる。やはりそこに関してもアメリカほどの能動性はなく、煩雑な行程を経ずに入れてしまうことに問題を感じる。獣医でない 4 年生大学に通う中で違う道を見出す人もいるだろうし、動物関連の仕事をする上で向き不向きを判断することもできる。そこに通ってもなお獣医になりたいという強い目的意識を持った人が獣医になるべきである。試験さえ受かれば入れてしまうというこの安易な入学制度は見直されるべきでないか？と感じてしまった。

8 月 21 日（木）

本日は大動物外科にお邪魔させていただいた。しかし、最初の馬の跛行を見たあとは放置されていて暇だったので、途中から永田先生の現場に行かせてもらった。永田先生は放射線治療をやっており、放射線の機械は北里にあるものよりも古いらしい。放射線治療のプランニングが地道な作業らしく、照射範囲を決めるのが果てしない作業に見えた。

午後からも大動物外科に戻る気も無かったので、エキゾチックに行った。その日見た症例は、オポッサムとモルモットの去勢だった。リドカインとイソフルランで麻酔をし、ソノサージみたいなもので精巣を焼き切るという方法をとっており、結構ざっくりしている印象を受けた。エキゾはまだエビデンスが少ないであろうと思うので、こんなものかと感じたのと同時に、きっと昔の犬猫もこんな感じでざっくりオペされていたのだろうなと思った。また、教授が飼っているオウムの羽切りと嘴の整形を見た。処置が相当ストレスだったのだろうか、棚の裏に隠れてしばらく出て来なかったのが印象的だった。大学病院でエキゾを見る機会はほとんど無いのでとても新鮮だった。

8 月 22 日（金）

本日は朝から出発し、Coca Cola ミュージアムに行った。ミュージアムというぐらいだから博物館みたいなところなのかな？と思って行ったが全く違った。アトラクションに乗る前に世界に引き込む為の様々な仕掛け、その世界の住人であるようなスタッフ。そう、例えるならば、ディズニーのような雰囲気だ。そこまで大そうなアトラクションでは無かったが、3D の映像で軽く席が揺れたり水が飛んだりする内容のものがあって想像を超えていた。最後にお土産コーナーがあり、思わず

沢山買ってしまった（笑）。

晩は一年生歓迎パーティーがあり、ちょっとしたウォータースライダーがあって日本とのパーティーの規模の違いを見た。

8月23日（土）

本日はDuck Pondという湖でパーティーがあった。学生や先生が犬を連れてきていたが、互いに干渉することなく自由気ままに過ごしているのを見て感動した。日本であれば、公園に連れてきた犬同士が吠えあうというのは日常で見られる光景だが、同じような状況にも関わらず一切そのような場面はなかった。やはり、幼い頃から犬同士でリード無しに、広い場所で遊ばせることができることが大きな要因なのかな、と感じた。日本はやはり狭く、本来犬が走り回るような広さで遊ばせてあげられないのがとても情けなく思った。家で飼うということは別に悪いことだとは思わないが、それでストレスやフラストレーションが溜まっており解消出来ない環境に置くのであれば飼うべきではないと常々思う。動物は癒しを与えてくれるが、それと同様に動物にもストレスの無い環境を与えてやるのが飼い主としての最低限の義務ではないだろうか。自分だけ沢山のものを貰う人がいるのであれば、それはおこがましすぎる。

8月24日（日）

本日は3時からDr. Gogal宅でディナーということだったのでそれまでの時間はフリータイムだった。

あまり周辺を散策してなかったし、ダウンタウンを一通り歩きたいと思ったので時間まで一人で散歩することにした。地図を頼りにせずノリだけで進んで行ったら迷った（笑）。がしかし、自分の勘を頼りにどんどん進んで行くとダウンタウンの見たことある場所に出たので一安心。適当にダウンタウンを散策していたが、日曜日だからなのか店が閉まっているか、開くとしても昼くらいから開く場所ばっかりだった。散策するなら平日の昼が良いのかなと感じた。さすがに帰りは迷ったら大変だと思ったので、持っていた地図を頼りにホテルに帰宅。ちょっとした冒険だったが、同じことを見知らぬ土地で、やってみたいと感じた。やっぱり海外行くなら一人か二人で無計画な旅が楽しいのかなと思った。いつか必ずやるぞ！とりあえず日本で、携帯持たず、地図だけで知らない土地を歩いてみたい。

8月25日（月）

本日は小動物内科にお邪魔した。内科は検査ばかりで動物自体をあれこれするということは少なかったので、見ているだけだとおもしろ味に欠けたし、検査自体も日本とやっている内容はそこまで変わらないと感じた。

13：00からCPCで行動学の症例を見られるということだったのでお邪魔させてもらった。今回来た子は興奮すると少し攻撃的になったり人に飛びかかったりするという子で、飼い主さんの腕にも傷が見当たった。こういう子に叱っても遊ばれていると思ってしまうので、叱っては逆効果という事を学んだ。また、どんな状況におかれても平静を保っていられるように普段からのトレーニングが重要ということを学んだ。

晩はDr. Malorie Frank宅でご馳走になった。料理はめちゃくちゃ美味しくて、フランスパンにマヨネーズ、マーガリンを塗って焼くというお手軽な料理があって気に入ったので日本でも作りたいと思った。Dr. Malorieの旦那はパイロットで日本のアニメが大好きらしく、棚一杯にアニメのDVDやグッズが並んでいた。夫は飛行機のパイロットだそうで、6000回もフライトしたと言っていたの

には驚いた。庭には外でできるちょっとしたゲームがあり、みんなでやって楽しんだ。

8月26日（火）

本日も内科にお邪魔した。やっぱり暇だったので、永田先生に付き添って研究室の方などを見学させてもらった。その後、永田先生のオフィスでここに務めるまでの経緯やアメリカでの獣医師資格の取得についてなどの話を伺った。CPCでパピークラスが17：30からあったのでみんなで参加した。パピークラスは入交先生が北里にいらっしゃった頃に何回も参加させて頂いていたので、要領はわかったが、やはり海外での違いは大きい犬が多いということである。一見成犬のように見える犬でも大型犬のパピーということが多々あった。その中でパピークラスをやると、小型犬と一緒にすると力負けして、遊ぶに遊べない状況になってしまい、上手く社会化できないのではないかと感じてしまった。また飼い主の中におじいさんがいて、あまり話が通じないという事態を目の当たりにした。動物を診るということは飼い主をも診なければいけないということだとしみじみ感じた。永田先生のご厚意でロングホーンというステーキ屋に連れて行ってもらった。旅を終え振り返ったときに、アメリカで食べた料理の中で一番おいしいものだったと思う。もしまた行く機会があったら絶対食べたい、Rib eye steakのMedium rare。

8月27日（水）

本日はCardiologyにお邪魔した。教授はハイテンションな人で終始気圧されたが、レジデントの方と学生の方がとても良い人で、良く話しかけてくれてわからないところがあったらわかるまで教えてくれた。一番おもしろかったのが、最初にきた心房細動の馬の症例で、頸静脈から電極の付いたカテーテルを挿入し、心房まで達したら電気ショックを送り心電を正常に戻すというものだ。馬の麻酔も電気ショックもダイナミックで迫力があった。晩は永田先生ご紹介のCracker barrelという場所に行った。ここはちょっとした雑貨屋さんが併設されていていろいろなお菓子があったので、ここでお土産に大量にお菓子を買った。机にちょっとした玩具があり、みんなでちょっとやったが全然クリアできる気配がなかったので諦めた。正三角形でピンが15本立っているやつで、残り一つだけピンを残すというゲームだ。日本で見つけたら今度買ってやってみよう（笑）。いたるところにゲーム要素があるのがアメリカなのかなと感じた。

8月28日（木）

クリニカルローテーション（心臓）

今日だけでLevineの分類でグレードⅥの犬が二匹も来た。やはりCardiologyだけあって大変な子ばかり運ばれてくるのかな、という印象を受けた。

この日は副学部長であるDr、Scott宅でディナーを頂いた。この家の庭には池があって釣りもできるような風になっていた。また家の一室にはダーツ、ビリヤードがあり将来自分の家にもこういう部屋が一室欲しいと強く感じた。料理はどれも美味しく、メインは自分で作るタコスだった。日本でいう手巻き寿司的な要領で作る感じでおもしろかった。テレビでは録画したフットボールを流していて、ルールがわからなかったが少し教えて頂いた。思っていたよりもシンプルなルールだったので初めてでも楽しめた。

8月29日（金）

本日はいつもより早く、朝8：30にロビー

集合。ホテル代を払おうとしたら、もう払われているから大丈夫です、と言われたが結局間違いで、宿泊費を払った。ここでまた驚いたのが、宿泊費は4～5万くらいと言われていたのに8万ちょいかかった。日本でキャッシュカード作っといてよかった・・・。向かうはGeorgia Aquarium。アトランタまでは地味に遠いけど送ってくれたLakeciaさん、ありがとう。水族館は世界最大らしかったが、あまり水族館に行かない自分としては実感がなかった。しかし日本の水族館では見られないようなアルビノの白いワニ、触れ合いコーナーにいたエイ、沢山ピラニアがいた水槽など珍しい体験ができて面白かった。CNNではお土産を買いたかったので昼飯を後にし、お土産を選んでいた（ここで一番お土産買ったかな）。CNNを後にし、最後に泊まるホテルへ向かった。名前はQuality Hotelというもののクオリティは高くなかった。到着後、荷物を整理し、ホテルのプールで激しく遊んだ（首が痛くなった）。晩ごはんはホテルで食べたが味は美味しかった。鹿大の人達との最後の夜を過ごし、思い残すこと無く就寝。

8月30日（土）

朝は朝食付きだったので1階に食べに行った。鹿大はもう一日このホテルに泊まる予定だったので、出発のとき見送ってくれた。鹿大の人たちと別れを告げ、空港へ。鹿大メンバーが見えなくなったが、交差点で止まっていると運転手の人がホテルの方に注目するように言ったので見ると、鹿大の男性陣が肩車をして手を振ってくれていたので感動して泣きそうになった。またみんなで集まるのが楽しみだ。空港の待合場にはやはり日本人が多くて親近感が湧いた。時間になったので搭乗。隣は二人共知らない外国の方だったが、自分の左（通路側）に座っていた人に話かけたらなんだか仲良くなった。親切な人だったので、トイレのときは特に助かった、ありがとうJimmy。到着後、日本語を聞いてもたまに英語に聞こえたので不思議な感じがした。新幹線の時間もあったので、みんなとは早々に解散し、今回の旅を終えた。

総括

今回の海外研修において良かったことは、先に述べたような教育体制の良さがわかったこと、自分が海外に住んだらどうなるかをリアルに考えられたことです。土地や建物がとても広く開放感があったことや、アメリカ人の人間性は見習うべき部分がとても多かったことは良い点だと思いましたが、やはり食と交通となると日本には勝らないと思い、将来的にアメリカに住むということは無いという考えに至りました。ただ、今回の研修に参加したことで海外がより身近に感じられたことは大きな進歩だと思います。以前は海外と言われると、遠くて言葉が通じない恐い場所というイメージでした。ですが、行ってみると飛行機で12時間というそこまで長くない時間で辿り着け、言葉も拙い英語でなんとかコミュニケーションでき、財布や携帯を盗まれることはありませんでした（盗難に関しては自分が気を付けていたのと比較的安全な地域に行ったことが要因かもしれません）。この研修を通じて、今まで知らなかった海外の土地を知ることができ、また、自分の更なる可能性に気付けた気がしました。

今回一緒に旅をした先生方や北里・鹿児島のみんな、その先々で出会った方々、本当にありがとうございました！！

梅山　直樹　Naoki Umeyama

【8 月 16 日】（成田空港出発）

ロビーに早めに集合して昼ご飯にタイ料理を食べた、その後アメリカの先生のお招きパーティー用に雷おこしを選び購入した。出国手続きの時間が迫ったので､先生と合流し、荷物を預け、税関と出国ゲートを通った。その際に友達の歯磨き粉が量が多くてかわいそうに没収された。その後免税店をぶらぶらしたあと飛行機に乗り込んだ。

デルタの飛行機での食事は自分の記憶は 3 回あってずっと座っていてまるでフリーストールの牛になった気分だった。飛行機では映画がみれたのでマリフィセント、魔女の宅急便、アナと雪の女王を見た。Let It Go がその後は頭でループしていた。あとは時差ぼけを防ぐためにひたすら寝続けた。

飛行機がアトランタに到着し、時差は 13 時間。飛行機を降りて入国審査を受けたのだが入国審査の人は黒人の男性で、何しに来たか、どこに泊まるのかなどを聞かれて指の指紋とパスポートの顔と照らし合わされて入国許可の判子を押してもらった。黒人の男性は親戚が日本にいるらしく会話の所々に日本語を混ぜてきて、いきなり日本語出てくるとよく分からなくて焦った。入国審査が終わると届いた荷物を受け取り、税関を通り入国が終わった。入国すると当たり前だがそこは外国で外国人がたくさん居た。

こっちのタクシーは大きくて先生を含めて 5 人とトランク 5 個をのせてアトランタの CNN に隣接した OMNI ホテルに向かった。ホテルにチェックインし、荷物を置いてすこしくつろいだ後、6 時くらいにロビーに集合した。その際に鹿児島大の方々と合流し、一緒に夕食に向かった。鹿児島大の学生は 6 人で先生の引率が一人であった。夕食は Ted's Montana Grill というステーキ屋さんで、ここではバイソン肉のステーキを食べた。とても美味しかったが量が多かったために、少し残してホテルに持ち帰った。夕食で各自自己紹介を行った。ホテルに戻ってからは、ホテルのロビーの近くにある Bar でビールなどを飲みながらみんなと談笑した。その後鹿児島大学の方々は別のホテルに泊まっているため見送った。この日は飛行機で疲れていたのですぐに寝られた。

【8 月 17 日】

今日は朝早く起きたため集合まで時間があった。同じ部屋の友達が朝起きると部屋におらず、しばらくして戻ってきて、その後一緒に探検をした。2 階にあるショップを見たがすべて閉まっていた。ホテルに CNN センターも隣接していたため少し覗いたが、そこもすべて閉まっていた。入り口の CNN の文字の看板の前で写真を撮った。部屋に戻る途中でショップが開いていたのでおやつとジュースを買って部屋にかえり、ホテルにプールが隣接していたので、友達と一緒に水着に着替えてプールへ向かった。プールはジャグジーもついていて暖かく最高だった。

プールサイドのベンチで横になりつかの間の優雅な朝を過ごした。部屋へ戻ってシャワーを浴びていると引率の先生からルームコールがあって朝ご飯にホテルの外へ出た。ホテル周辺はスポーツ施設があったがシーズンではなかったようで朝はどのお店も閉まっていて、結局 Waffle House というお店に入り朝ご飯を食べた。

部屋へ戻ると、アトランタからアセンズへ向かうお迎えのバンが来る時間が近かったので準備してロビーへ向かった。ロビーでみんなと集合してバンに乗り、ジョージア大学のあるアセンズへ向かった。学生が送迎を

してくれており、助手席にAlex、Jennifer Melissaという女性の学生が後部座席に乗っており、一緒に車内でみんなの写真を撮ったり、たわいのない話をした。Jenniferはなかなか自分の直樹という名前を覚えられなくて何度もなんて言うんだっけ？？と聞き直された。アメリカの車線は片側5車線ぐらいあって左側が何かの優先道路になっていた。そして日本との何よりの違いは左走行ではなく右側走行であることであった。アセンズに向かう途中でショッピングモールに寄って少し買い物をする時間があった。雑貨屋さんから電気屋さんでも何でもそろっていた。雑貨屋さんにはおもしろいモノがたくさん並んでいて、リスが多いためかリスのパンツ、リス用の小さなマグカップなどが売られていた。見ているだけでおもしろくてあっという間に時間が過ぎていってしまった。

このショッピングモールにあるファストフード店で昼食を買って食べた。コーラの量を間違ってめちゃくちゃでっかい１Ｌくらいあるのが出てきてビックリした。値段はどのサイズも一緒らしいのでそのまま大きいのをもらったが飲みきれなかった。さすがアメリカンサイズ！

食事を済ませると出発の時間が近かったので駐車場のバンの場所まで戻った。このとき初めて外にいる時間が長かったので、アメリカの暑さと日の強さに気付いた。しかし乾燥していてじめじめはしていなかったので過ごしやすかった。バンにみんなで乗り込み、アセンズのジョージア大学に向けて改めて出発した。3時過ぎくらいにアセンズにあるジョージア大学内の我々が宿泊するホテルに到着し、送ってくれた学生と別れ、同時に到着した鹿児島大学の方々と一緒にフロントでチェックインを済ませて、夕食の集合時間まで1時間くらいくつろいだ。ホテルはベッドも大きく綺麗で最高だった（冷房の寒さ以外は…）。ホテルのWIFIに接続すると携帯やインターネットが使えるようになった。みんなで歩きダウンタウンに向かったのだが途中で夕立にあって、みんな木下で雨宿りをした。ちょっとぬれた。夕食はHERSCHEL'S 34 CHICKEN & RIBS KITCHENで食べた。ここはアセンズのダウンタウンにあって、スポーツバーのような雰囲気でご飯を食べながら野球の試合見れた。料理もビールも美味しくいただいた。帰りは歩きで帰り町の風景を見ながらゆっくりみんなで大学のUGA HOTELへ向かった。アセンズは夕方9時過ぎくらいにならないと空が暗くならないことに驚いた。帰る途中にコンビニに寄って翌日の朝ご飯を買った。まるちゃんのBEEFの即席ラーメンを買った。ホテルへ帰るといったん部屋に帰り、夜にみんなで大富豪などのトランプゲームを遅くまでした。アメリカ2日目、何もかもが新鮮で楽しい一日だった。

【8月18日】

朝8時に起きて昨日買ったまるちゃんの即席ラーメンを食べたが具も少なく味も…だった。その後CVM(College of Veterinary Medicine)に向かった。CVMで大学の事務の方や先生方の自己紹介を受け、ボトルやTシャツ、白衣などのジョージアグッズを頂いた。そして昼食をそこで頂いたのだが、サンドイッチが本当に美味しかった。

そしてでっかいボウルでポテトチップスが出てさすがアメリカだなと思った。その後学内のツアーをして頂いて講義室や骨学の部屋、図書館など色々なところの場所を教えてもらった。CVMを後にするとGrocery Storeに連れて行ってもらいお土産や水や朝ご飯用の食料品を買った。その後UGAホテルに戻った。夕食はダウンタウンに歩きで

行ったのだが、雨が降ってきて酒屋さんで雨宿りした。酒屋さんは本当に日本と比べものにならないくらい品揃えがあり感動した。そこでお土産とみんなで夜飲む用のお酒を購入した。夕食は雨がやまないので近くの waffle house で T-bone stake を食べた。本当に棘突起と横突起でT型になっっていた。

【8 月 19 日】Small animal surgery

朝ご飯は食べずにそのままロビーで昼ご飯用のパンを買って CVM に向かった。

CVM の 前 の COLLEGE OF VETERINARY MEDICINE という看板の前でみんなで写真撮影をした。CVM に着くとラキーシャ（事務の方）達がいてやけにテンションが高かったのが印象的であった。そして校舎の中がめちゃくちゃ寒いことを改めて感じた。クリニカルローテーション初日は外科の整形と軟部外科の合同研究室だった。鹿児島大の友達と外科の先生と一緒にローテーションに参加した。最初挨拶を済ませると荷物を置き、診察を観察した。予定表を見ると前十字靭帯断裂のイヌの症例が多く、治療の項目には TPLO が多く記されていた。研究室には看護師さんが 3 － 4 人おり、保定から採血、抜糸などなんでも行っており、まるで獣医師のようだった。日本ではこんなに看護師さんはさせてもらえないなと思って驚いた。この日は持ち込まれる患畜の身体一般検査を行うだけで手術は行われなかった。前十字靭帯断裂のイヌが多いためか Tibial compression test や Drawer sign の検査をほとんどのイヌで行っていた。jack というイヌが連れてこられており、このイヌは七年前に左後ろ肢の股関節形成術を行ったが右足の様子もおかしいので毛刈りを行って触診を行い、関節炎も疑われたので関節液を採取し、細胞診にまわした。こっちのイヌはみんなおとなしく、たいていのイヌは、診察台の上でなく床で保定なしで触診やその他診察が行われていた。

11 時過ぎになりちょっと研究室の人が少なくなったので昼ご飯を友達と DAWGS BONE SNACK BAR という大学内のラウンジのような場所で一緒に食べた。朝に買った菓子パンだったがめちゃくちゃ甘くて一個でおなかいっぱいになった。この日は午前中だけで診察がほとんど終わってしまい、することがなくなったので、一回研究室に戻って荷物を持ち、その日のお礼を研究室にいる方々に言ってホテルの部屋に戻った。ホテルのベッドでちょっと横になったら気付いたら 5 時になっていた。知らず知らずに疲れてたんだな思った。その後、みんなと Cari N Tito's というメキシコ料理屋さんにいって夕食を食べた。バナナの揚げ物を初めて見た。干し芋みたいな味だった。ここの料理はなかなか美味しく、またきたいと思った。この日感じたのは外科のような忙しい研究室ではこっちから積極的に行かなきゃ何も学べないということで明日はより積極的に色々教えてもらおうと思った。

【8 月 20 日】（Small animal surgery）

この日外科の研究室で見たものはダックスフンドの皮筋反射試験、供血犬からの血液採取、甲状腺腫瘍が疑われるイヌの触診、排尿障害のため手術を行い改善されたイヌの経過検診、TPLO　などであった。この日は手術が見れて手術室の中にも入れて、日本と違う点にいくつも気付かされた。学生が主体となって先生は本当に見ているだけという感じで、学生に任せるスタイルで日本ではないなと、うらやましく思った。

この日は、手術が終わるとスケジュールがなかったようなので日本からのお土産を研究

室の方に渡して友達とかえって来た。

ローテーションが終わってからはTerrapinというビール工房のBeer Breweryに行ってビール工場の見学をした。外にはビアガーデンがあってそこでビールをみんなで飲みながら、アメリカの学生達と交流した。アメリカのビールは税金が安いらしくて日本より安く買えるらしい。

ビール工場の後はイタリアンレストランに行きピザを夕食に食べた。ホテルに戻ると洗濯機を回した。洗濯機は25セント硬貨しか使えないのだが自販機に1ドル入れておつりを押すと25セントにくずせるという裏技に気付き洗濯物を回して就寝した。

【8月21日】Emergency and critical care

この日の研究室は先日行った友達にすごくみんな親切で、最高だったと聞いていたのだが、話は本当で、分からないことがあって聞き返すと、書いてくれたり、わかりやすく説明してくれたりと本当に親切な方が多かった。質問をたくさんしても全部返してくれた。特にエイミーという先生が親切に教えてくれた。この日は朝にミーティングをして持ち込まれている症例について話し合った。その中にはGDV（胃拡張捻転症候群）のイヌや血便のフェレット、首の靭帯を痛めたイヌや、心房細動が見られたグレートデン、アンダーウェアを食べてしまったムササビ、上部食道にサンドイッチ詰まらせたイヌなどの症例を患畜を見ながら紹介してもらった。GDVのイヌの症例が多かった様に感じ、肥満犬も同時に多い印象を受けた。日本の大学で勉強した疾患がほとんどだったので、英語での説明の理解がしやすく、勉強しといて本当良かったと思った。

治療としては、再診できている腹水が悪化したイヌについて腹水の採取が行われた。採取した液は黄色を呈しており顕微鏡で見ると細菌像が見られ、マクロファージの貪食像も見られた。威嚇瞬き反応が見られず歩行に異常が見られるネコもいてこのネコは心雑音も聞き取れた。

病院から帰ると夕方はDr.Mary Hondalusの家に招かれ食事をした。料理はとってもおいしく、アメリカの人は話しかければ誰もが親切に対応してくれて、楽しく会話できた。ジョージア大学は金曜日が休みで明日は休み、コカ・コーラ博物館に行ってきます。

【8月22日】World of Coke

金曜は休みだった。この日は朝からアトランタに移動してWorld of CokeというCoca・Colaの博物館に行った。入り口でマスコットのシロクマさんとみんなで記念撮影して中を回った。ここはコークの歴史、や、4Dシアター、コカコーラの様々な商品の試飲コーナーなど楽しめるものが沢山あった。特に、Happiness is all around usをテーマにした映像作品がシアターで見れ、この作品がすごく良くて泣いてしまう人も続出した。一つのブランドでここまで人を楽しませることができるのだと、コカ・コーラ改めてすごいと感じ、日本にはこんな会社とミュージアムは無いなと思った。お土産屋さんもコカ・コーラ一色で、よく見るコークグラスからTシャツまで何でもあった。そしてつい衝動買いしてしまった。試験の時によくコカ・コーラにはお世話になっているが、味だけでなくブランドとしてよりいっそうコーラが好きになった。

昼ご飯は初日に泊まったアトランタのホテルに隣接したCNN centerでハンバーガーを食べた。ここで日本人でアトランタの近くの工科大学に通っているのぞみさんがガイドとしてきてくれていて、食事を一緒に食べた。

最終日アトランタに戻ってきてもし時間あったら動物園や行きたいところにつれてってあげるよと言われ Line を交換した。その後ホテルに戻り、夕方になって CVM Fraternity Party へ向かった。このパーティーは新学期で入ってきた獣医学科の一年生のためのようだったが自分たちも参加させてもらった。行われた場所は獣医学部の施設の一つのようで、大学の校舎とは離れた場所にあり、ここにはビールサーバーや、カウンターがあったり庭にはウォータースライダーがあってとても大学の施設とは思えなかった。ここで友達やローテーションで知り合った上級生の学生達と一緒に飲んだり、Beer Pong をしたり楽しい時間を過ごした。外が暗くなってくると建物の周りを蛍が飛び、光り始めた。こんなにたくさん普通に居るのにはびっくりした。2 時間くらいして、みんな帰ることになったが、ちょうどアメリカの学生になじんで楽しくなってきたところだったので男 3 人で残ることにした。それからは飲みながら学生と一緒にゲームをしたりウォータースライダーを滑りまくり大いに楽しんだ。酔いが回ると日本人も外国人も変わらないなと思った。このイベントで仲良くなった学生と Face book や連絡先を交換した。こういうパーティーがあると普段病院で忙しい人や、接点の無い人でもいろんな人と話せるので、授業だけでなく自由な時間も多いジョージアを選んで良かったと改めて感じた。帰りはバンの迎えの時間外だったので歩いて 3 人で帰った。アメリカの人との会話は、話していても変な緊張感がなく、疲れなくてとても楽しく、みんな笑っていて、今日は最高に楽しい夜だった。ホテルに帰ってみんなが夕食に行った後だったので夕食がなく、前日に買ったチェダーチーズとレタスとベーグルと肉でバーガーを作って食べた。一緒に残っていた二人にも作って一緒に食べた。その際に部屋の鍵を部屋に忘れて友達がシャワーを浴びていたので気付いてもらえず、鹿児島大学の友達の部屋でくつろがせて頂いた。

日本でもこんな場所が欲しいなと思う夜だった。どなたか北里の先生作ってくれないかと期待する。

【8 月 23 日】Duck Pond

この日は朝から引退した先生が持っている湖でのイベント Duck Pond へ行った。湖は本当に大きく、高い飛び込み台やターザンロープ、トランポリンなどがあり、パーティーのように、飲み物や食べ物もあり大学で見た顔の学生がたくさん来ていた。しばらく飛び込んだり泳いだりして遊んで、みんなでカバの形をした足こぎボートで湖を回った。カヌーもあったのでそれで遊んでいる人たちもいた。イヌやイグアナを連れてきている人もいて、どの子もすごく可愛いく人なつっこかった。この日は帰ったら疲れていてすぐ寝てしまった。日焼けでシャワーがすごく痛い。日焼け止め大事です。

【8 月 24 日】

午前中に行きたい人で集まってスクラブショップに行った。様々な色やメーカーのスクラブが揃っていて、花柄や奇抜な色のモノや聴診器や鋏も売られていた。一着お気に入りを選んで予備のスクラブを選んで購入した。その後 G ショップと呼ばれるジョージア大学のグッズが売っている大学内のショップに向かった。そのショップも本当に大きくて、こんなに自分の大学を押すのか、すごいなと思った。ジョージア大学のスクールカラーは赤のようで、いろんなグッズが赤と黒で統一されていた。ここでは日本へのお土産を少し買った。このショップの 2 階は本屋

さんになっていて英語の本が教科書から一般書まで揃っていた。

午後はDr. Gogal先生の家へパーティーに招かれた。Gogal先生は解剖学の先生であった。お庭にはプールと大きな庭があって、庭にバレーボールのネットを作り、ラインを引いてコートを作ってみんなでバレーボールをした。このパーティーにはジョージア大学で働いている日本人の先生の永田先生もきており、アメリカで働くための話を聞かせていただいた。プールには先生方の小さなお子さんがいて水をかけあって遊んだ。バレーボールをしていると、ボールが壊れてしまって変な形になってしまったが、Gogal先生の大学生の息子さんのジョンがガムテープで補強してくれた。ジョンはひたすら優しい人だった。ジョンの部屋に置いてあるギターを少し弾かせてもらったのだが、すごい良い音がしてアメリカ来て楽器が弾けて気持ちよかった。また、この日は一つアクシデントがあった。バレーコートとプールが隣り合わせにあったのが悲劇の原因になった。バレーボールをしている時プールにボールが跳び､友達が｢梅ちゃんボールとって！｣と言うもんだから、プールに飛び込んでボールをとろうとした｡…が、Tシャツを着たままだということに飛んでから気付き、飛び込んでからポケットに携帯電話を入れたままであったことに気付いた…。携帯を触ると画面がつかない、発熱してる！

とりあえずカバーを外して乾燥させることに。

この携帯結局直らずじまいだった。日頃のだいたいの写真を携帯で撮ってたのでデータが全部飛んで非常にへこんだ。

話を戻すとGogal先生の趣味を見せてもらえることになり、地下に行くと電気で動く電車のミニチュアとジオラマがあり、テーマにあった作りになっていたが奥の部屋に案内されるとそこにはライオンの椎骨があって先生が組み立てている途中だった。飛びかかる姿のライオンを作りたいらしかった。後学のためにどうやって大きな動物の骨格標本をつくるのかを聞いて教えてもらった。また興味があれば大学の研究室に頭骨もあるので見に来て良いよといわれたので、解剖研ということもあり気になって是非とお願いした。Gogal先生の家の食事も美味しくパンがどの家も手作りで美味しかったが、アメリカに来て先生の家のパンが一番美味しかった。

【8月25日】Large animal surgery

朝8時から学内のCPCセンターに行き、行動学の学生講義に参加した。

Large animal surgeryの研究室では午前中は申し合わせをした。疝痛（Colicc）の馬が多かった。午前は足の包帯や、頸部の包帯を変える作業をして終了した。症例はイヌによる口傷、nail in footの キャストの交換を行った。イヌによる咬傷では見たことが無い縫合法を行っており写真を撮った。この咬傷を受けたのは小さいウマで、あごから全身傷だらけで、アメリカは大型犬が多いからこういう事例もあるようだった。他には簡易X線撮影装置で、左足に骨折して治療済みの馬の経過を見るための撮影を両前肢で行っていた。歩けないと言うことで厩舎内で撮影を行っていた。

昼休みにGogal先生のところにライオンの頭蓋骨を見せてもらいに行ったが先生がどこにも居なかったため、隣の部屋の永田先生のところに行って放射線系の装置や先生のルーティーンを教えてもらった。この日の夜はGame Night という名のDr. Malorie Franksの家でのパーティーに招かれた。沢山の料理が出てMalorie家の子供のGeorianaはとってもかわいくてシャイ

だった。ちょっと仲良くなってくると友達に庭の草をプレゼントしていた。庭ではボールを投げるゲームをした。庭に三匹いたイヌはボール遊びが大好きでボールを投げてあそんでいた。Georianaにもボールを渡して遊ばしてあげたら逃げなくなり少し仲良くなれた気がした。この家には沢山の日本のアニメのDVDがあり、Georianaの部屋にはジブリのトトロの絵が大きく描かれていて、そのほかにもハウルのイヌやちびトトロ、まっくろくろすけなどが描かれていた。外の庭で暗くなってくると大きなマシュマロを焼いてクラッカーに挟んで食べた。サングリアお手製でとってもおいしく最後にはお土産のクッキーとストラップアクセサリを用意してくれており、帰りも途中まで送って頂いて本当に日本好きで優しい一家だった。

【8月26日】Large animal surgery

この日はLarge animal surgeryの二日目だった。午前中は馬の頸部の腫瘤を取り除く外科手術を見た。まず馬を倒馬室に連れて行った。倒馬室は壁全面にクッションがあって、ぶつかっても怪我をしないようになっていた。麻酔をかけたときに暴れたり怪我しないように部屋の壁に壁で押しつけながら麻酔をかけた。その後気管挿管を行い、クレーンで引き上げて手術台に運び手術が行われた。手術が終わると先ほどの倒馬室に馬をクレーンで戻して、外に出て覚醒を待った。日本の大動物の本格的な外科手術を見たことがなかったので、すごく効率的だなと感じた。昼からはアルパカのMRIを見た。症状はOtitis、(耳炎)、Tympanic bullaeと言うことだった。隣の部屋でおじいちゃんの先生と一緒にMRIの撮影された画像を見たのだが、おじいちゃんの耳が遠かったようで、自分がexcuse me！と言っても反応せず画像調整に夢中で、友達が耳の近くで言ったら気付いてくれて色々と教えてくれた。すごく優しい先生だった。この方を後々放射線系の研究室でしばしば見かけて、いろんなところで画像診断してる先生だと言うことが分かった。今日はアルパカのMRIをずっと見ている感じだったのでゴーガル先生のところに行くことにした。今日はいらっしゃったので、永田先生と一緒に解剖学の研究室を紹介していただいた。研究室ではワニの血液塗抹標本、馬や鶏の塗抹標本を見せていただき、説明や当て問をした。は虫類の組織標本など普段見ることが少ない標本だったので新鮮で新しいことばかりで興味がわいた。

MRIが終わっているか見に帰ったがまだ時間が長くかかりそうだったので、研究室の学生にお土産を渡してCPCセンターへ向かった。CPCセンターの奥の部屋では歯周病のイヌの治療をしていた。それを見た後CPCセンターのロビーで飼い主さんに大学の先生とでパピークラスのようなしつけ教室がひらかれそれに参加した。

【8月27日】Zoo/Exotic Medicine

朝は何も食べずに、今日はエキゾチックアニマル専門の研究室に行った。患畜には猛禽類、乳腺腫瘍の除去を行ったラット、目の開いたばかりの子供のリス二匹、ハチドリ、アオサギがいた、アオサギは車にひかれて羽を骨折していて、足も骨折していた。X線写真をみると数週間くらいの経過ではないかと考えられた。アオサギには麻酔がかけられて、X線撮影を行った。その後、予後が不良ということでKClにより安楽死が行われて、その後剖検が行われた。剖検の結果腹腔の消化管の腹壁側に塊が見られ消化管を切開すると内部から線虫が多数検出された。それを顕微鏡で観察し、写真を撮影した。午前の診療は

これで終了した。徐々に研究室の人が減っていくと、先生がみんなどこへ行ったの？？といってBBQの存在に気付き、残っている先生達とBBQに向かった。BBQでハンバーガーとホットドックをたべて、チーズケーキにポテトチップスをもらった。おいしくて無料なのはすごいが、量が…。こりゃ太るわと思いながら美味しく頂いた。そのときに学生がつくったTシャツとか売っていてお土産に購入した。午後の診療は線虫の写真撮影をインターンの学生が行っていただけで時間をもてあました学生は、楽しくないけど勉強しているといってタブレットをいじっていた。外に出るとCPCセンターcardiologyのところに北里の友達がいたのでそっちへ行くとPDA（動脈管開存症）の症例の説明が行われており、実際の患畜の心音（連続性雑音）を聞いたり、バウンディングパルスなどPDAの説明を受けた。

夜の夕食は郊外にGogal先生といっしょに食事に行きcatfish（ナマズ）のグリルを自分は食べた。白身魚でおいしかった。また、サイドメニューで久しぶりに米料理も食べれて美味しかった。その後は在米の日本人の直子さんとAlexとその友達&妹と本人の直子さんと一緒にカラオケに行った。英語の曲ばかり歌ったがテンション上がって楽しかった。鹿児島の友達がLet It Goを何度も流して熱唱しておもしろかった。

【8月28日】Zoo/Exotic medicine（二日目）

朝研究室に行くとウサギが来ていた。二匹が同じゲージに入れられており、一匹が不正咬合で上顎切歯が変な方向に伸びていた。それを電動円鋸で切って整形した。ウサギの麻酔・鎮静にはミダゾラム1mg/kgを投与し、終始ちょっと動くことがあったが大人しく、無事切り終わった。爪も伸び気味だったのでついでに切った。うさぎは寂しがるから飼い主が二匹連れてきていたようだった。その後、痙攣を起こすということで人間のお医者さんが大きなオウムを連れてきていた。研究室の教授と一緒に診察室で飼い主さんの話を聞いていたが、検査の結果結局異常はないようで、不満そうにオウムを連れて帰って行った。オウムが首を左右に振って遊んでいたり、部屋に入った瞬間「Hello!!」としゃべったのには感動した。オウムってこんなに懐いて頭が良いのだとオウムを好きになる一日だった。その後はフェレットが来て一般検査と血液検査をうけていた。フェレットは頸静脈から採血を行っていた。Clinical lotationの最終日だったので一緒の研究室でローテーションしていた友達となるべく長く居ようと残っていたら、野鳥が運び込まれて、安楽死され、解剖が行われた。頬になぞの腫瘤が、この子もおなかの中から大量の寄生虫が出てきた。そして最後にヘビが患畜として来たのだがこの飼い主のおばちゃんがヘビを溺愛していて学生の一人がその溺愛っぷりに「She is crazy!!」 とひたすら病院のバックグラウンドで言っていた。ヘビの心採血と血液検査を行い、そのまま飼い主さんと一緒に帰っていった。ヘビの心採血は心臓の拍動を表面から見て探していって、いままでヘビの診療なんて見たこともなく、解剖もほとんど知らなかったので、良い勉強になった。エキゾの研究室は知らないことだらけで、新鮮で今回のローテーションで一番楽しい研究室だった。

夕方にDr.Scott Brownのお宅のパーティーに招いて頂いた。湖が家の横にあり、家の中にはビリヤード台がありすばらしいお宅だった。ここでサプライズでプレゼントを頂いた。それは写真とローテーションで回った研究室の学生の寄せ書きであった。本当に嬉しかった。ここには日本でも一緒に食事を

してアメリカでもパーティーに招いて頂いたDr.Hondarus先生もさよならを言いに駆けつけてくれて感動した。本当にアメリカでの生活は環境に、人に恵まれて、幸せな時間を過ごせたなと思う。ジョージアの皆さん本当にありがとう！！

夜にホテルに帰ると、日本の学生で集まってゲームをしながらそれぞれのものに寄せ書きを一人一人書いて交換した。日本に帰ってからゆっくり見ようと思った。もうすぐ鹿児島大学の人たちともアメリカともさよならかと思うと寂しい。

自分たちの部屋へ帰ると翌日アトランタに移動しなければならなかったので荷物を整理して、増えた荷物を減らすために盛大な断捨離を行った。

【8月29日】

今日は朝からアトランタに移動してGeorgia Aquariumに行った水族館は日本と同じような感じだったがイルカショーがミュージカル調になっておりディズニーランドの様だった。昼ご飯はCNNに行って食べた。残りのアメリカ生活もすこしかと思ってバーガーを食べた。少しだけCNNのお土産屋さんをみて、最後に泊まる空港近くのホテルに向かった。最後のホテルはUGAと比べると空調も効きづらく、エレベータも泊まるときにガタガタ揺れて怖く、UGA Hotelのすばらしさを改めて痛感した。しかしプールがあったので男友達と鹿児島大の先生と一緒にプールで遊んだ。途中外人の少年達とお母さんが来てプールで遊んでいたが、少年が飛び込んで脚をぶつけたらしく、ひたすら叫んでいてオーバーすぎてお母さん達といっしょに笑っていた。夜ご飯はホテルのレストランでステーキを食べた。アメリカでの食事を通して量は多いけどおなかを壊すこともなくこっちの食事は自分に合ってるのかなと思った。最終日の夜なので学生で集まってお世話になった引率の先生方にメッセージカードを書いて渡しに行った。その後はみんなでお酒を飲みながら話をして最後の夜を楽しんだ。鹿児島大学との学生との別れも近く、日本に帰ってもまた会いに行きたいなと思った。寝てしまうのがもったいない、日本に帰りたくない夜だった。

【8月30日】最終日

朝9時過ぎにホテルにバンが向かえに来た。鹿児島大の方々にお別れを言い、バンに乗り込み空港へ向かった。ホテルを振り返ると遠くにジョージア大学にあった像のポーズをしながらこっちに手を振ってくれている鹿児島大のみんなの姿が見えた。本当に周りの人に恵まれた楽しい2週間だったとバンの中でアメリカでの生活を振り返った。空港に着くと荷物を預けたのだが自分の荷物が重量オーバーで手荷物にスーツケースの荷物を移動した。断捨離したはずなのになぜだ！と思った。その後は出国審査を終わらせて免税店でお土産を少し買い、最後のご飯にバーガーを食べた。空港の飛行機へのゲートの周りに来ると日本人が増え始めて、だんだん日本に近づいている実感がわいてきて、日本に帰りたくない気持ちがどんどん高まっていった。…が帰る時間は来るもので飛行機に乗って日本へ向けて出発した。帰りもたくさんご飯が出て全部食べた。映画もたくさん見たのだが、アメリカを去る寂しさで感情が高まっていて、映画の中の小さな感動シーンで泣きの連続だった。12時間以上のフライトの後日本に着き帰国した。安心感半分、終わってしまった寂しさ半分だった。実家による人、そのまま十和田に戻る人に別れ、解散し研修は終了した。

今回のアメリカ研修が決まった時は行くか悩んだが、本当に行ってよかったと思う。一生の思い出になる2週間となったのは間違いない。渡米させてくれた両親、一緒に行った北里大学の仲間や鹿児島大学の学生と先生、引率の夏堀先生、アメリカでお世話になった方々本当にありがとうございました！！

志和　希　Nozomi Shiwa

8/16(Sat) PM16:00
成田空港を16(Sat)に出発(Delta Airline)→アトランタ空港へ。
日本を発つ前に空港でホームパーティー用のお土産（雷おこし）を4人で購入。

8/16(Sat)PM15:00 ここからアメリカ時間
アトランタ空港着→タクシーでOmniホテルへ。夕方、鹿児島大学の人と合流し、夕食へ。ステーキハウスに行き（やや高額、Omniホテルから徒歩で行ける）、バイソンなどを食べることができた。ホテルのラウンジで一杯飲み、それぞれのホテルへ解散した。

8/18(Sun)
・AM
Omniホテルを出発し（獣医の学生Will、David、Jennideが迎えに来てくれた）、ホテルに着く前に2時間ほど昼食も兼ねてショッピングモールに行った。軽くショッピングし、昼食にピザを食べ、大学内にあるUGA hotelへ移動。
・PM17:00
鹿児島大学の人と一緒にUGAhotelから歩いてダウンタウンに夕食を食べに行った（途中で雨に降られた）。私はチキンステーキとオクラというメニューを頼んだが、オクラがあげてあってすごく驚いた。ホテルに戻ってからは鹿児島大学と北里大学の生徒でトランプ大会を楽しんだ。

8/18(Mon)
・AM9:00
朝、ルームメイトのかなちゃんと大学内を散歩し、ホテルからすぐ近くにアイスクリームショップCremeryを見つけた。
・AM11:00
初めて大学内の先生方（Dr.Scott Brown、Lakecia Pettwayさん、Ester Mitchicさん、Amy Thoapsonさん、Paker Mooveさん）と対面し、大学内の一室で昼食をとった。このとき、ジョージア大学の手提げカバン、水筒、ボールペン、羊の置物、ファイル、ティシャツ、ネームカードとホルダー、白衣を頂いた。全てにジョージア大学のマークやデザインがおしゃれに施されていて、とても嬉しかった。ネームプレートと白衣はローテーション実習にきて行った。
・PM12:00 ～ 13:00
大学内案内を3年生の人がやってくれた。英語が速過ぎてまともに聞き取れなかった。
・PM13:00
大学のマスコットキャラクターのブルドッグの銅像の前で上記のアメリカの先生たちと写真撮影を行った。その後ルケッシアさんたちにPublicというスーパーまで連れて行ってもらい、日用品や朝ごはん、水、お土産のお菓子などを購入した。
・PM15:00
ボウリングまで時間があったので、朝の散歩で見つけたCremeryにジェラートをたべに行った（3ドルほど）。
・PM17:30
3年生4人と大学近くのボウリングへ。
各チームに分かれ2ゲーム行った。私のチー

ムの David はマイボールを持つほどの腕前で、スコア 160 を出している彼をみて、とても驚いた。
・～ PM22:00
ボウリングの後、ホテルに送ってもらい、ホテルの送迎で再びダウンタウンへ。
全員で 5Points で夕食（またもや雨に降られた）を食べた。
私はハンバーガーを食べた、どこで頼んでもハンバーガーは日本の 1.5 倍の大きさがあり、とても驚いた。

8/19(Tue)　クリニカルローテーション 1 日目
初めの 2 日間は Neurology に参加させてもらった。Dr.Kent 以外は Dr もアシスタントの方も女性だった。また病院内は圧倒的に女性が多く、とても驚いた。後で仲良くなった学生に聞いた話では、獣医学生の 7 割は女性なのだそうだ。てっきり男性の方が多いと思っていたので、これがアメリカに来て一番の驚きだった。
初日は Dr.Vivian がとてもよく面倒を見てくれた。
・AM
MRI のある建物に行き、ダックスとラブラドールの MRI の様子を見学した。ダックスは T12-T13 間のヘルニアと判明し午後に手術（ヘミラミネクトミ）が行われることが決定した。
その後ラボに戻り、患者の予約時間まで空いていたので、Dr.Kent が隣の Cardiology に連れて行ってくれ、CVM のケースのエコー検査の様子を見学した。どのラボでもそうだが、問診をポリクリの学生が飼い主からとったあと、患者をラボに連れて行き、検査を行うため、ポリクリで来ている学生が初めに診察できるところが、とてもいいなと感じた。また、学生から質問が来れば、診察中でも先生が学生に丁寧に教えてくれるところが新鮮だった。
・PM
予約されていた患者の診察が三件あった。ラボに犬が来て、簡単な身体検査のあと、神経学的検査を行っていた（学生がひと通り行ってから次に Dr が検査していた）。私が見学していた三匹の犬は免疫介在性髄膜脳炎、ヘルニア、脳炎疑いということで MRI などの精査が必要であるということだった。また、空き時間には Dr.Vivian が他の症例の MRI 画像を見せてくれたり、質問にも丁寧に答えてくれたし、ポリクリで来ている学生と話せたりして、とても楽しかった。
このあと、Dr.Varvar がヘミラミの手術を行うのに見学させてもらった。手術室は先生の好きな音楽が流れていて、穏やかな雰囲気の中行われていた。
夕方は大学生お勧めのメキシカン料理を食べに行った。私はタコスを食べ、とてもおいしかったが、ボリュームが多く、全部食べきれなかった。帰りは歩いてホテルまで戻った。帰りにジョージア大学のフットボールスタジアムや陸上競技場を見つけた。陸上競技場は立派なのに、大学内の誰でも自由にいつでも使用できるというのが羨ましかった。

8/20(Wed)　クリニカルローテーション 2 日目
今日は 1 日目よりも診察室など様々な場所にも積極的についていかせてもらった。また、1 日目に仲良くなった生徒の Jen が積極的に検査について、また Discussion の英語の速さについていけない私のために、この犬のどこが問題なのかなど丁寧に教えてくれた。Jen はその後 2 週間でとても仲良くしてくれ、とてもうれしかった。
また、安楽殺の現場もみることができた。生徒が泣きながら腕の中で犬を看取っていたの

が印象的だった。重度のヘルニアでの安楽殺はアメリカではよくあるケースだと先生がいっていた。貴重な場面に立ち会わせてもらえたと思う。このほか、7件の診察を見ることができた。2日間でDr.Kent、Dr.Vivianをはじめ、学生、アシスタントの方々によくしてもらい、すばらしい2日間だったと思う。

8/21(Thu) クリニカルローテーション3日目
1日という短い期間ではあったが、Large Animal medicineに参加した。大動物は大きく内科を担当するmedicineと、外科を担当するsurgeryがあり、私は前者に参加した。朝はまず各馬の前で担当の生徒が馬の状態、治療方針などをのべ、それに対し先生が意見するというミーティングから始まった。アメリカでは牛の入院というのはほとんどなく（治療するお金がもったいないからだそうだ）、ほとんどが馬だった。馬といってもそのほとんどがペットとして飼われているということだった。ペットで馬を飼っているってどういうことだ！と思ったが、このあと、ホームパーティーを開いてくださった先生のお家の広さや、山羊、羊が普通に家の前に放牧されているのをみて、馬をペットにするということにもとても納得した。
このあと、午前中、午後と生徒について回ったり、アシスタントの方が投薬させてくれたり、Drや生徒のあとにエコーをやって血栓を見せてもらったり、馬の保定をやらせてもらったりと、皆さんにお世話になった。薬品が自販機のようにIDとカードをいれると出てくるのが画期的だと思った。学生とランチを食べたあとは2時間ほどDr.Woolumsと学生とPhysical Exam Reviewをやった。実際に馬や牛を見て、各々与えられた項目の身体検査と問題にその場で答える形式だった。私は傍らで辞書を使って単語をひきながらきいていた。自分でも知っている内容だったので、とても聞いていて楽しかった。
・夜
Dr.Mary Hondalusのお家でディナーを頂いた。学生もたくさん来てくれて、皆とたくさん話せて、またチキンが忘れられないくらいおいしかった。会話も一人ひとりとじっくりすることができ、とても楽しかった。Dr.と娘さんとは一度十和田で会っており、娘のサバンナちゃんとの会話も弾んだ。

8/22(Fri)
・AM9:00
World of Cokeへ。アトランタへと向かい、コカコーラミュージアムに。中は世界中のコカコーラの試飲ができることはもちろん、いろんな工夫がされていて見ていてとても楽しめた。また、お土産の品揃えがよく、たくさんお土産を買ってしまった。
・ランチはCNNセンターへ。自由に選べるフードコート形式で、私はジョージアがトリで有名と聞き、チキンナゲットとポテトフライを食べた。CNNセンターではツアーが2時間かかるそうで、諦めて帰りにスーパーに寄ってもらい、日用品やお土産をかって帰宅した。
・夜はCVM Fraternity Partyへ。これは新入生を歓迎する（サークルのような？）パーティーでウォータースライダーがあり、皆楽しそうにすべったりしゃべったりしていた。ご飯はなく、お酒だけだった。この会は新入生のためのもので、また在校生も100人前後ととても多く、知り合った学生がいても、友人と楽しそうに話していて、中に入っていくのが少しためらわれた。でも中には話しかけてくれる人もいて、仲良くなれた。来年くるときは、事前にご飯をたべておくとよいかもしれない。

8/23(Sat)

・AM10:00

みんなでスクラブショップと大学の G-shop に行った。G-shop ではジョージアグッズと教科書がたくさん売っていて、しかもすごく広かった。かなちゃんと自分へのお土産としておそろいでジョージアパーカーを買った。お土産を選ぶのにはとてもいいお店だった。すぐ隣の建物にはランチできるテラスもあり、お勧めスポットだった。

・PM13:00

CVM Event Duck Pond へ。これが個人の私有地なのか！というくらい広大な土地に池があり、先生の別荘でバーベキューなどの食事を楽しみながら、池で泳いだり、飛び込んだり、カヌーや足こぎボート、池の中にあるトランポリンで遊んだりした。昨日の夜の会より人が多く、病院でお世話になった 4 年生も来ていて、とても華やかですごく楽しい一日を送れた。帰ってきて晩御飯はダウンタウンのベトナム料理屋さんに行った。

8/24(Sun)

・AM

朝はゆっくり起きて、11:00 頃より歩いてまた G-shop に 5 人で出かけた。私は先輩に頼まれていたパーカーのサイズを間違ってしまったので変更してもらいに行ったのだが、簡単に変更してもらえた。ただ、カードで買い物する時は、学生証が必要で、ビジターはパスポートなどを持って行っておくのがよいと思う。

・PM14:30

Dr.Gogal 先生（解剖学の先生）のお家で Dinner を頂いた。プールがあり、子どもたちとプールを楽しんだり、本格的なバレーコートでバレーを楽しんだ。また、ゴーガル先生の趣味の骨格標本作りやプラモデルの列車なども見せていただいた。永田先生夫妻も来てくださり、アメリカの獣医の話など詳しく話してくださった。

・Dinner の後、永田先生夫妻に Target という雑貨、食品、薬すべてがそろうスーパーに連れて行ってもらい、私はまたついつい買い物をしてしまった。また、明日のローテーションの前に 8:00 より永田先生の奥さんの行動学セミナーに希望者は参加させてもらえることになった。また、放射線の永田先生は時間があいたときにローテーションに入れられなかった病理についれていってもらえることになった。楽しみだ。

8/25(Mon)　ローテーション 4 日目

二日間 Zoo/Exotic に行った。

・AM10:00

ビーバーの診察が入った。また、赤ちゃんオポッサムも来院し、学生がお風呂に入れていた。現在入院中の患者は 3 匹の赤ちゃんリスと腫瘍摘出を控えたラット、骨折の鷹、オウムだった。Dr は Dr.Mayor を筆頭に四人いて、Dr. ライラがとても元気な人だった。

・PM13:30

ビーバーの診察のため、麻酔をかけた。ビーバーの留置をとるのに尾静脈からとろうとして、固いビーバーのしっぽに針を刺していたのは印象的だった。その後ビーバーは X 線でどこが悪いのか見たあと歯も削っていた。麻酔中皮下補液していたが、とんでもなく皮膚がふくれていてびっくりした。

・PM17:30　Game night

Dr.Malorie Frank のお家で Dinner と Game night を楽しんだ。旦那さんが日本のアニメやゲーム好きで、たくさんマンガを持っていたが、私はそのうちのごく一部しかわからなかった笑。また、たくさんの日本のゲームも持っていてマリオカートをして楽しんだ。焼

きマシュマロもとてもおいしかった。帰りに手作りクッキーとストラップを頂いた。

8/26(Tue)　ローテーション５日目

・AM

腹部腫瘍のラットの手術を見学できた。このあとの診察が今日は何もないとのことだったので、鹿児島の病理の子と一緒に永田先生に病理のラボにつれて行ってもらい、見学したあと、午後から病理解剖とディスカッションに参加させてもらえることになった。

・PM

実際に解剖をみせてもらった。4 件の解剖を生徒が同時に行っていた。そのうち 1 匹は老犬の血管肉腫破裂によるシンタンポナーゼによる心原性ショック死であった。学生が解剖していること、また狂犬病への注意が厳しいことなどが印象的だった。

・このあと、Exotic に戻り、しばらくして帰宅した後、再び病院にもどり、17:30 より行動学の永田先生の CPC での PuppyClass に全員で参加させてもらった。看護師の方がおすわり、ふせなどの教え方を飼い主に教えていた。子犬の扱いがとても上手だった。その後永田先生夫妻にお勧めのステーキハウスにつれていってもらい、とてもおいしいサーロインステーキを食べることができた。その後 Georgia Center の屋上の青空バーに行き、生バンドを聞きながら地元のビールを楽しんだ。

8/27(Wed)　ローテーション６日目

この日から 2 日間私は Radiology にお世話になった。

・AM9:00

ミーティングルームにて生徒と先生の画像診断についてのディスカッションに参加した。その後 Radioligy のラボに戻り、馬、うさぎ、サギ、犬、猫などのＸ線撮影を見学した。Dr.Jimenz が自己紹介すると、ラボの中をいろいろ説明して回ってくれた。ラボではポリクリの学生が患者の撮影をしており、テクニシャンと何回も話し合い取り直しをしていた。

・昼は CVM の新入生歓迎 BBQ が大学内で行われていた。好きな時間に抜け出してよく、すごく大きなハンバーガーなどをもらった。多くの人がラボの仕事の合間に昼ごはんを楽しんでいた。

・夜はアメリカの田舎料理が食べられるお店で永田先生夫妻、Dr.Gogal 先生と息子さんたちと食事をした。昨日のステーキに引き続き、すごくお店もおしゃれでおいしかった。その後ダウンタウンにある日本風カラオケ屋さんで直子さんとブライアンと直子さんの妹とカラオケを楽しんだ。あまり歌えなかったけど、がんばって英語の歌に挑戦した。すごく盛り上がって楽しかった。

8/28(Tur)　ローテーション最終日

昨日と同様に午前中ディスカッションに参加したあと、Ｘ線撮影やエコー、MRI、CT の撮影を見学した。撮影時に動物をテープでぐるぐる巻きにし、かつサンドバックを多用してなるべく撮影時に部屋に人がいないように徹底していて感心した。最初はあまりにも雑にテープでぐるぐる巻きにするので驚いたが、放射線防護の観点からはとても大切なことだと思った。

・夜

ローテーション最終日は Dr.Scott Brown のお家で Farewell Party をして頂いた。お家には広大な池や放牧されている羊、山羊がいて驚くばかりだった。今までお世話になった学生さんや先生がきてくださってとてもうれしかった。すごく楽しい Dinner だった。帰

りにジョージア大学初日にとった写真とアルバムと生徒のサイン入りの写真をもらって、最高のプレゼントだった。

8/29(Fri)

・AM8:00

ホテルをチェックアウトし、ルケッシアさんたちと Georgia Aqualium へ。アミューズメントのような作りで何よりイルカショーが最高によかった！イルミネーションと噴水とミュージカルが組み合わされていてディズニーのショーを見ているかんじだった。お昼は CNN で食べた。

・PM15:00

Quality hotel へ。プールなど楽しんで、夜はホテルで晩御飯を食べた。このあと深夜まで全員でトランプ大会をしたり、お互いにメッセージを書きあった。

8/30(Sat)

・AM9:00 ホテルチェックアウト。

鹿児島のみんなが見送りに来てくれて、泣きそうだった。この 2 週間すごく仲良くしてくれて本当に楽しい時間が過ごせた。バスが小さくなるまでずっと手をふっていてくれていて、とてもなごりおしかった。日本やアメリカなど他大学の友人が 2 週間でたくさんでき、また勉強面でも有意義な時間がすごせて本当に楽しい 2 週間だった。

土屋　可奈　Kana Tsuchiya

8 月 16 日

成田空港集合だったので、前日に近場のホテルに宿泊し、空港へ向かった。13：30 集合だったのだが、アメリカで party に招いてくださる先生方へのお土産を空港で購入することにしていたので早めに空港に到着。先生方へのお土産は雷おこしを購入した。みんなでお昼ごはんを食べ、集合場所へ。ほどなく夏堀先生も到着し、荷物を預けるなど手続きを済ませた。搭乗開始まで時間があったので、免税店などをぶらぶら。

飛行機内の席は 5 人ともばらばらで私は外国人のおばさん、おじさんの間だった。冷房がかなり強く、パーカーを用意していても寒かった。隣のおじさんも寒かったらしく、自分のエアコンを切るついでに私のエアコンも切ってくれました。乗ってすぐに飲み物と軽食、夕ごはん、少したってから軽食、到着 1 時間前に朝ごはんとさっそくたくさん食べることになった。フライト中は映画を見たり、音楽を聴いたりなど思っていたより快適に過ごせた。

8 月 17 日

入国審査は私たちだけ別レーンになり、なぜだろうと思っていたら親日家の審査官のところにしてくれたようだった。パスポートを差し出すと握手をしてくれ、自分は米軍にいて日本に住んでいたんだよ、日本が大好きだ！と言ってくれた。入国審査なのに私のことはまったく聞かれず、拍子抜けしてしまった。

トランクを受け取り、タクシーで今夜宿泊する Omni Hotel へ。早口の英語に頭がついていかず、悪戦苦闘しながらチェックインを済ませ、部屋に向かった。夕食は鹿児島大学の』メンバーと一緒にとることになっていたので、待ち合わせ場所のロビーで合流し、Ted's というステーキ店へ。のんちゃんとステーキとバーガーを頼み、シェアすることにしたのだが、ボリュームの多さにびっくり。

8 月 18 日

長旅疲れで爆睡しているところに、夏堀先生からの電話で飛び起きた。朝食に誘ってくださったのだが、眠気と昨日の夕食の残りがあったため､お断りして 2 度寝｡今日はジョージアの学生が迎えに来てくれ、Mall へ。移動中の車内では、学生とアニメの話で盛り上がった。ふと隣を見たら鵜海くんは爆睡してました。Mall はとても広くて見て回るので精いっぱいだった。その後、これから 2 週間を過ごす UGA Hotel へ。荷解きをして、夏堀先生のお誘いで CVM の探検に行った。夕食は Down Town へ行くことになったが交通手段がなく、みんなで歩いて向かうことになった｡歩いてしばらくすると大雨に降られ、びしょびしょになりながらもお店へ。チキンに加え Fresh Vegetable を注文したら、固い葉っぱの酢漬けが。店員さんが何回も聞きなしていたのはこのせいか…

8 月 19 日

朝少し早起きをしてキャンパス内の探検に出かけた。途中で Creamery というアイスがおいしい売店を発見したり、新入生に話しかけられたりしながら 1 時間ほど散歩をした。昼食は CVM が用意してくれ、さらに T シャツや白衣などのプレゼントまでいただいた｡その後学生が病院内を案内してくれたが、英語が早くて聞き取るのが大変！夕方からは Showtime Bowling へ。学生も混ざってみんなでボウリング。英語で話すのはまだまだ難しいけれど、ワイワイできて学生とも仲良くなれた。

8 月 20 日（Clinical Rotation1 日目：Large Animal Internal Medicine）

Dr にあいさつを済ませ、朝のカンファレンスに連れて行ってもらった。さっそく早口の英語と専門用語のオンパレードでついていけず…カンファレンスでは学生が担当の患畜について、昨日なにしたのか、今日は何をするのかを報告し、Dr と Discussion もしていた。入院しているのはほとんどがウマで、ウシはまったくいなかった。日本ではウシがほとんどなので聞いてみると、アメリカではウマをペットして飼うことが珍しくなく、お金をかけて治療するが、ウシはペットではないので入院させることはないのだそう。今日来た患者は高齢のウマで、直検・エコーが行われた。検査の結果、疝痛だったためそのまま手術をすることに。オーナーさんは手術中ずっと待っていて、これも日本とは違うところだと感じた。 毎日入院患者の処置もあり、ポニーの歯の治療をするというので見せてもらった。開口器を使って開け、歯ろ・歯鋏で段差ができた歯を削っていた。

8 月 21 日（Clinical Rotation2 日目：Large Animal Internal Medicine）

朝行くとすでに枠場にウマが入っていて、たくさんの Dr、学生が集まっていた。聞いてみると心房細動で、首からカテーテルをいれてショックを与え、正しいリズムに戻す処置をするらしい。今回は 5 回ショックを与えて規則正しいリズムに戻していた。

大動物病院には隔離病棟もあり、そこにいるウマの内視鏡をやると聞き、見せてもらった。耳憩室を観察し、内頚動脈が正常かどうかを確認していた。今回は正常だったので一安心。

午後は今朝急死したウマの病理解剖を見せてもらった。アメリカでは狂犬病なども珍しくないので、エプロン・防護メガネ・厚手のグローブ・長靴を着用しての見学となった。長靴は今日 1 日お世話してくれた Debra に貸してもらった。病理解剖は Dr が解剖のポ

イントを説明しながら解剖していき、採材は学生が行っていた。

17:30 からは学生さんが迎えに来てくれ Terrpin という Beer Garden へ。ビールを飲むことはもちろん、ビール蔵の見学もさせてもらった。

8 月 22 日（Clinical Rotation3 日目：Exotic and Zoo）

朝一で患者についてのディスカッションを行い、その後入院患者の処置を行っていた。この日入院していたのはフェレット、ラット、オポッサム、子ウサギ、子リスなどで、このうちラットとオポッサムの去勢を行った。ラットはイヌなどと同じように皮膚を切って精巣を摘出していたが、オポッサムはメスで切ることなく、電気メスで皮膚ごと焼き切っていた。出血の心配はないが、傷口がこげこげでなんともいえなかった。

Exotic and Zoo にはクナイというオウムがいて、患者かと思っていたら Dr. Mayer のオウムだそう。話を聞いてみると、もともとの飼い主が飼いきれなくなり、安楽殺を希望したそうだ。クナイは体が悪いということでもなく、安楽殺する必要がないので Dr が引き取ったらしい。

夜は Dr. Mary Hondalus の party に招待していただいた。浴衣を着ていたら、会話のきっかけになり、party に来ていた学生と大学の話や将来のことなど、たくさん話すことができた。

8 月 23 日

今日はアトランタの Coke museum へ。駐車場の壁もコーラの絵で、コーラ一色だった。4D の映画や coca cola 社が各地で出しているジュースの試飲を楽しむことができ、大満足！お土産もたくさんあり、どれを買うか迷ってしまうほど。昼食は近くの CNN center のフードコートで食べることに。最近やっと小銭を使いこなせるようになりました。夜は CVM Fraternity Party へ。学生が開いている party でウォータースライダーがあったり、簡単なゲームをしたりと楽しむことができた。

8 月 24 日

13:00 まで予定がなかったので、みんなで Un Limited というスクラブショップと Book Store に出かけることにした。Un Limited にはカラフルなスクラブがたくさん売っていて見ているだけでも楽しかった。Book Store は大学グッズがたくさん売っているところで、文房具から服やカバンまでジョージア一色！

午後は水着を用意して Duck pond へ。Pond というくらいなので、小さい池を想像していたが、そこには湖が！カヌーやボート、ジップラインまであり、100 人以上の学生が泳いだり食事を楽しんだりしていた。私たちもさっそく湖で泳いだりボートに乗ったり。はしゃぎすぎて帰りの車では爆睡してしまった。

8 月 25 日

今日は午後から Dr. Gogal の party に招待していただいた。裏庭のプールで遊んだり、バレーをしたりととても楽しませていただいた。Party には永田先生ご夫妻もいらしていて、将来のこと、アメリカで獣医師として働くことなど、とても有意義なお話を聞くことができた。

8 月 26 日（Clinical Rotation 4 日目：Large Animal Surgery）

Clinical Rotation の前に永田和子先生に

誘っていただいたハンドリングのセミナーに参加した。英語が早口だったのと朝の眠気で少ししか理解できず、もったいないことをしました。ジョージア大学には行動学の診療科があり、パピークラスも行っていてパピークラスの見学もさせていただくことになった。

Large Animal Surgery ではバンテージの巻き直しやX線撮影をしていた。X線撮影は馬房の通路でおこなっていた。普段は大動物専用の撮影室があるのだが、このウマは前肢の骨折を治療したばかりで撮影室まで歩けないので外で撮影したとのこと。午後は何もないということだったので、昨日お会いした永田先生に病院内を案内していただいた。永田先生の専門は放射線治療なので放射線の機械の仕組み、使い方などを詳しく教えていただくことができた。

夜は Dr. Malorie Frank の Party に招待していただいた。Dr. Malorie は北里大学、鹿児島大学を訪れたことがあり、日本が大好きな方だった。食事やゲームなど楽しませていただき、帰りにはクッキーとストラップのプレゼントまでいただいた。

8 月 27 日（Clinical Rotation 5 日：Large Animal Surgery）

脂肪腫のウマのオペをするというので倒馬から見せてもらうことができた。印象的だったのは血圧を後肢に点滴のような装置をつけて測定していたこと。どれだけ液体が押し返されるかで血圧を測定しているそうだ。午後はアルパカの MRI の撮影を見せてもらった。カルテを見たところ中耳炎が鼓室胞に波及したらしい。時間をじっくりかけて様々な角度から撮影していた。だいだい 60 スライスにしているようだ。これまでの実習を通して驚いたのは大動物でも専門的な治療をするときは専門医が担当していること。確実で効率のよい仕組みだと思う。

8 月 28 日（Clinical Rotation 6 日目：Small Animal Internal Medicine）

今日は診察の少ない日だったようで新しい患者は来院せず、治療後のリチェックがほとんどで血液検査などを行っていた。時間があったので、行ったことのない科をめぐってみることに。循環器科をのぞくとちょうど動脈管開存症についてのゼミを行っていて、参加させてもらうことにした。この日動脈管開存症のポメラニアンが来院していて、聴診もさせてもらうことができた。グレートⅣで聴診器なしでも聞こえるほど雑音が大きかった。

Clinical Rotation が終わってからは、CPC に行き永田和子先生から様々なトレーニングのやり方について教えていただいた。特に印象的だったのはマットを使ったリラクゼーショントレーニング。マットの上にいるといいことがあると教えておくと、病院などペットにストレスがかかる環境でもマットの上にいることでストレスが軽減されるそうだ。

8 月 29 日（Clinical Rotation7 日目：Small Animal Internal Medicine）

肝疾患のあるドーベルマン、IBD のボクサーなどが来た。このボクサーは身体検査中に後肢がハの字につっぱる症状が見られ、神経学的検査もおこなうことになった。検査の結果、左後肢に異常があるようだ。内科の学生でも神経学的検査まで行っていて、実践的なことに驚いた。

夕方からは Dr. Scott のお宅で Farewell party。今までお世話してくださった先生方や学生が集まってくれ、ごはんを食べたり、テレビでアメフトの試合をみたり。最後には

写真立てなどのプレゼントまでいただいた。

8月30日

今日はGeorgia Aquariumへ。展示の仕方が日本と少し違っておもしろかった。特にイルカショーはおすすめ。ミュージカルのようで楽しかった！

今夜泊まるホテルまでLakeciaさん、Parkerさんに連れて行ってもらい、いよいよお別れ。2週間、本当にありがとうございました。

8月31日

もう1泊する鹿児島大学のメンバーとは今日でお別れ。朝早かったのに、みんなで見送ってくれた。みんなのおかげで2週間楽しく過ごせたと思う。

Mr. and Mrs. Nagata

お忙しい中、病院を案内していただいたり、パピークラスの見学をさせていただいたり、大変お世話になりました。食事や買い物にもお付き合いいただき、たくさんお話ができてとても楽しかったです。2週間、ありがとうございました。またお会いできることを楽しみにしています。

ジョージア大学同行記録兼報告書

夏堀　雅宏

今回の企画のお陰で、個人的には7年振りの渡米となった。今回のジョージア大学滞在で、次回以降の参考になると思われることを以下にまとめた。

1．ジョージア大学獣医学部による国際交流プログラム

この学部には国際交流プログラムを円滑にさせる工夫がある。例えば交流担当部局（副学部長と3名の事務職員）と共に学生大使（student ambassador）の制度がある。学生大使は、獣医学部2-3年生の中から30名ほどの学生大使が学部より任命されており、我々ゲストのホテルから大学まで、あるいは大学内ホテルからパーティやイベント会場へのゲストの送迎をしてくれるだけでなく、それらに参加して積極的に会話を働きかけてくれるなど、我々に対する最大限の気遣いのあるおもてなしをしてくれる特別な存在である。お陰で、送迎中の自己紹介から始まる会話も含め日米文化の興味などの会話のほか、ボーリング、地ビールのビヤガーデン、ホームパーティ、カラオケなど、連日のようにイベントを企画していただいた。そんな彼らのおかげもあり、日本からの学生たちも、ジョージア大学の学生たちと比較的早く打ち解けることができたと考えられる。

もう一つは、鹿児島大学という国内の他大学からの学生の参加で、一緒に研修を過ごすという経験である。つまり北里大学の学生と鹿児島大学からの学生との合同研修ということになるわけなのだが、学生同志はお互い同学年であることもあって、大学の枠を超えて仲良くなりやすいこと、さらにはそれぞれの大学の特徴や、日常生活、各種イベントや教育の違い、悩みなどを含めてお互いの情報交換を兼ねて会話が弾みやすい。加えて彼らの若さも手伝って、学生達はお互いに良い場所を見つけて毎晩遅くまでトランプ等をやりながらコミュニケーションと親睦を図っていたようだ。

2．宿泊施設（ジョージアセンター）

ジョージアセンター（UGAホテル）はキャンパス内にある大学所有のホテルで一般の宿

泊のほか、ホテル内での会議やポスター発表、企業展示等の会場として利用されていた。ホテルにはカフェテリアがあり、朝食やランチ、夕食をとることができる。

ここのホテルではフロント業務とコンシェルジュが明確に分かれており、多くの相談事は、フロントではなく、このコンシェルジュに相談することで容易に解決された。それらは家や車を持たない我々短期滞在者にとって実に多くの事項で役立たせていただいた。

それらには以下の事項が含まれる。

・到着時のキャンパスマップや、周辺情報
・キャンパスバスの路線情報
・ダウンタウン等へのシャトル送迎サービスは食事や買い物に極めて便利である
・紛失あるいは盗難の際の支援
・米国でしか購入できない物品の通販（アマゾン）を介した部屋への配達
・郵便または国内 / 国際宅配便についての強力（ホテルから小包等を他の州へ送りたい場合、近くにはない郵便局までシャトルで送ってくれる。）
・送迎サービスでは、例えばダウンタウン等で食事をして帰りたい場合、電話一本ですぐに対応してシャトルで目的地まで送迎していただいた。これはもちろん、ホテルの車両が空いている場合、そして夜 10 時までの条件付きである。

３．現金について

滞在中はほとんどの消費行動でクレジットカードを利用できるので、現金が必要となるのは毎朝の枕銭や朝食時の軽食やコーヒーの購入時くらいであろうか。獣医学部内で学生が作成した獣医学部オリジナルの T シャツ等の購入も現金の方が便利であったようだ。このため、二週間の滞在であったがアトランタ市内の ATM で引き出した 300 ドルで十分に足りた。また、その他気づいた点として、ジョージア大学キャンパスやその周辺には Citi bank がないため、現金はアトランタや宿泊ホテルの ATM からクレジットカードを利用して入手することが勧められる。もちろん、日本出国前に成田空港等で換金しておく方法でも問題ではないと思われる。

４．通信環境について

今回の滞在では、ホテルおよび大学滞在中のインターネットを含む通信環境に不安を感じ、予め成田空港で高速モバイル Wi-Fi を利用できるよう、手配しておいた。これは米国滞在中、とても役に立った。一緒に同行した学生たちのスマートフォンにも接続してあげられるように、米国到着時にパスコードを知らせてあげることで、学生たちも接続しやすくなり、また大学内滞在時などでも UGA や日本からの不意な連絡にも早急に対応できたことは滞在中のストレスをためない方法の一つであると確信した。滞在先のホテル内やキャンパスにも Wi-Fi はあったが、共用回線であることと、あまり十分なトラフィックキャパシティを有していないために、PC によるある程度の容量を含む通信、ならびに米国のどの場所からでも緊急連絡を行える条件を考える場合には、やはり同行教員としては日本から米国滞在用の高速 Wi-Fi を持ち込むことが良いと考えられた。

５．通信・コミュニケーション

今回は北里大学のみならず、鹿児島大も含めた学生および同行教員全てが、いわゆるスマホアプリである LINE を利用していた。このために、滞在初日のうちに、全体連絡用のグループを作成し、これによって全員に対して当日の急な予定変更や、新たな予定の提案など、ほぼ全ての案件について一斉に連絡

を取り合うことができ、このことによって極めて円滑に事を運ぶことができた。また、UGA 教員とはスマホを通じた電子メールで情報交換できたので、これらが利用できることで、それほど大きな問題は起こりにくいと思われる。ただ、より快適な滞在を果たすためには、やはり同行者は可能な限り英語で電話できる程度の能力を持っていることが望ましいと思われる。

６．教育病院（VTH）のキャンパス移転

ジョージア大学獣医学部教育病院の病院機能のほとんどは、一部の病理等を除き、来年の３月に移転することが決まっている。その病院も外見はほぼ完成しているようだが、これから中身を含め新しい設備が続々設置される。私の専門分野で言えば、放射線画像診断であるＸ線、CT、MRI および放射線治療装置が全て新しくなると思われる。このため今回のこの報告書の一部は、少なくとも全く役に立たないところがあるかもしれない。しかしながら､移転と言っても歩くには遠いが、ホテルのシャトルやあるいは学内バスで移動できることを考えると、研修という内容にそれほど大きな違いにはならないだろうことが予想される。来年度も是非多くの学生が希望し、楽しいひと時を経験してほしい。

７．荷物・携行品について

研修の二週間滞在を考えると、それなりに荷物を持って渡航しがちだが、水着や着替えなどの衣類は最小限に、お土産は最大限にして、その他必要なものは現地調達する方針であれば、帰りの便で荷物の重量制限に悩む必要はない。本などの重いものは日本からネットで買えるので、欲しい重量物は写真に撮影し、後で日本から購入すると良いであろう。

８．同行記録

8 月 15 日（金）

代理店の指示通りに出発前日にオンラインチェックインするも、空港の座席は確保できなかった。出国手続き後の搭乗ゲートで発券とのこと。午後 5 時移動、東京宿泊

8 月 16 日（土）

午前 11 時東京より成田エクスプレスで成田空港へ移動、12 時到着

昼食後、ジョージア組の学生達（志和希、土屋可奈、鵜海敦士、梅山直樹）4 名と合流、荷物（一人 23kg 制限）を預け、機内搭乗。フライトは定刻どおり 15：55 出発。フライト時間はおよそ 11 時間。この間、3 度の機内食。機内はエコノミークラスでもシート毎に映画鑑賞できるようになっていた。

アトランタ空港へはほぼ定刻 15：30 に到着したが、入国審査会場まで 15 分くらいの相当の距離を歩く。手荷物の待ち時間もおよそ 20 分くらいであった。税関を超えて、タクシーでアトランタ市内のオムニホテル（CNN センター）へ。タクシー代は 5 名分のチップ（5 ドル）を含め 55 ドル渡した。ホテルチェックインは午後 5 時。一部屋およそ 150 ドルであった。このため、やはり学生は相部屋が望ましいと思われる。ホテル周囲はオリンピック記念公園等、施設に恵まれ、またアトランタのダウンタウンの治安は米国内の他の地区に比べかなり良いとのことであった。確かに夜間（3:00AM に目が覚めたので公園の周囲を散歩したが）の公園周辺にはパトカーが待機している状況で、建物の柱の影に寝ているくらいのホームレスも 1 名いるくらいであった。

チェックイン後の午後 6 時過ぎには、鹿児島大学の徳永先生を筆頭に 6 名の学生（女性 4 名、男性 2 名、その内韓国籍学生 1 名）と

合流し、ホテル近くのステーキハウス（Ted's Montana Grill）で夕食を共にした。それぞれ飲み物と一皿の食事、チップを含め合計400ドル。全12名の円卓でそれぞれの自己紹介や大学での活動等を含め、いろいろな話に華が咲いた。その後、ホテルのバーでも希望者と懇談、散会。長い一日が終わった。

8月17日（日）

男子学生2名とWaffle Houseにて朝食後、朝11時にジョージア大学の3年生の男子学生（David、Wil）と2年生の女子学生（Jennifer）が我々を宿泊先のオムニホテル@CNNセンターのロビーまで迎えに来てくれた。ジョージア大学所有の11名乗りのバンタイプの車両で、荷台と後部座席まで荷物を載せた状態で一路ショッピングセンターに到着。その後はジョージア大学内にあるジョージアセンターというホテルにチェックイン。この日はジョージア大学獣医学部の新入生を迎える、いわゆるWhite courtというセレモニーがあったようで、白衣を着た一年生とご両親が学部前の門で記念撮影をしていた。そのまま有志と共に獣医学部内を軽く視察。夕方は12名全員でダウンタウンまで徒歩で夕食へ。その途中、通り雨にあたった。この時はまだ知らなかったが、ホテルのシャトルサービスを頼んでおけば、そのようなことを回避できる。ホテルからダウンタウンまでは1マイル弱で徒歩では20分程度。

8月18日（月）：歓迎式典

朝10：45には交流担当Lakeciaらのお迎えと共に、徒歩で獣医学部キャンパスへ。ホテルからキャンパスまでは徒歩でも10分以内の距離である。しかしながら朝は涼しくても雲一つなく快晴では強い日差しに参ってしまう。日中は外に出られないくらいの強烈な日差しである。このため、学内バスが最も重宝する。獣医学部の前をNorth-Southという学内バスが通過するため、これでホテルや、フットボールスタジアムや大学売店（Bookshopという大学の土産屋やカフェテリア）に楽に移動できることを教えていただいた。

ともあれ、初日はオリエンテーションおよびささやかな歓迎式であり、国際交流担当の先生と面会。多くのジョージアグッズを提供いただき、学生たちも大喜び。学生に学内の病院を案内していただき、学部長との集合写真撮影。その後は主に食料品の買い出しでPublixへ行き、獣医学部の有志学生らと共にボーリングを楽しむ。日米の学生らとの交流を通じた親睦が深められた。

8月19日～21（火～木）：ローテーション

学生たちは緊張の面持ちで初日のローテーションに参加。私はそれぞれの診療科を何周かして、あぶれた学生がいないか確認。案の定、もう今日の診療はお仕舞と言われたというエキゾチックの学生を連れてスタジアムへ。昼食後、他の診療科へ合流させていただいた。この期間中、初日夕方には、お会いしたことのない日本人らしき女性に「夏堀先生！」と声を掛けられた。誰かと思えば、昨年10月からジョージア大学に放射線腫瘍学助教授として赴任した永田浩一先生の奥様で北里大学卒の和子先生であった。お会いした最初からいろいろと学生について気遣いしていただき、旦那様の浩一先生と共に美味しいレストランや買い物などを教えていただいた。永田浩一先生には、同行教員が興味のある学内の先生方とお会いする機会を設けていただいたり、和子先生には行動学の先生を通じ、パピークラスへの参加や学生指導など、様々な調整をしていただいた。

また昨年来日し、鹿児島大と北里大学で講演していただいた Dr. Mary Hondalus 先生、Dr. Malorie Frank 先生もご自宅に招待していただいた。この時も多くの先生やスタッフ、学生らが集まり大いに盛り上がった夕食会であった。

8 月 22 日（金）：コカコーラ博物館

8 月 23 日（土）：Duck Pond パーティ

8 月 24 日（日）：パーティ @ Dr. Gogal's

8 月 25 ～ 28 日（月～木）：ローテーション

第二週目の 28 日の研修最終日の夕方には、副学部長の Scott 先生宅での壮大な送別会が開催された。北里大学の学生達には、最後なので浴衣で参加することに。メキシカン料理ベースの料理と、広い池のある庭、ヤギのいる牧場があり、参加していただいた多くの先生、スタッフの方々、学生大使の方々と語らい、あっという間の素敵な時間を過ごすことができた。ホテルに帰ってからは、最期の夜ということもあり、学生達は深夜までトランプなどをしながら残りの滞在を惜しみつつ、語り合っていた様子。

8 月 29 日（金）

朝 9 時、ホテルで清算を済ませ、チェックアウト後にアトランタへ移動。（この際、フロントからは最初、既に清算済みで支払わなくて良いと言われたが、Lakecia に問い直し、大学が払うわけない！ということで結構フロントの対応は少し驚くことがあった。）CNN で昼食後、アトランタ水族館を鑑賞。そしてオリンピック記念公園で記念写真を撮り、空港近くのホテルへチェックイン。事務局対応そして送迎していただいた Lakecia、Parker の二人とお別れ。

8 月 30 日（土）

朝 6 時にホテル発。これまで一緒に行動していた鹿児島大のメンバーともお別れ。学生達には掛け替えのない時間を共有できた同志のような存在なのでしょう。ホテルから最後まで見送りをしていただきました。ホテルから国際線ターミナルまでの送迎は無料だったが、到着時には 1 人 1 ドルとして丁度 5 ドル財布に残っていたので、送迎ドライバーに渡した。空港へのチェックインおよび出国手続き後は、登場時刻まで時間的余裕が十分にあったので各自自由に過ごす。さすがに学生たちは昨夜も遅かったようで疲れが表情に現れていた。アトランタからは定刻通りの離陸であった。機内は行と同様に映画三昧。

8 月 31 日（日）

翌日の成田空港へも定刻通り着。解散。大学へ連絡後東京へ移動および宿泊。翌日帰宅。

以上、個人的には 7 年ぶりの米国滞在ですが、今回の訪米では、個人活動ではもう二度と同じ素敵な体験をすることができないような滞在を共に分かち合うことができました。そのような体験を大きなトラブルや事故などに遭遇することなく、共有していただいた北里大学学生の鵜海敦士君、梅山直樹君、志和希さん、土屋可奈さん、そして鹿児島大の徳永聡先生を始め、中尾大樹君、平田勝也君、谷光さん、園田真子さん、須藤加澄さん、Choron Ham さんに謹んで感謝いたします。

Thank you for everyone's kindness in this trip.
The new discovery and possibility were not possible without all of Georgia University in this exchange program. I thank you really heartily.
In addition, I apologize to people who I couldn't communicate well with because of my bad English. Really sorry.
Thanks and confession were the program but I think that after all it was good to go to Georgia. It was great impression to feel tolerant people, American university hospital system, very large land, delicious food, not to be able to taste in daily life.
They had good influence on my sense of value and view of life in myself.
I'm looking forward to see everybody again.

Atsushi Ukai

Dear everyone in Georgia University.

At first, I really appreciate all of people in Georgia University. I had a very valuable experience for two weeks in Georgia University. without your support and kindness, I would have none of this valuable time. I really enjoyed my stay and the two weeks flew by so quickly. I hope I'll see you and go UGA again. I will study hard English and veterinary medicine until that day. I deeply value this experience and wish to challenge myself in various ways and enjoy a fruitful experience in future.
Thank you!!

Naoki Umeyama

Thank you for all of your kindness.
I had really exciting days in time externship at University of Georgia.
In clinical rotations, they carefully taught me many things.
I didn't know details about veterinary education in other country until I visited UGA.
I was surprised that your facility was so large with many doctors, technicians, residents and students worked there!
And I was surprised that the majority of them are women, too!
Throught clinical rotation, I made many American VET school friends!
They taught me a great deal, for example what they worked on and about American culture.
I was very happy to talk with them.
This opportunity made me understand that veterinary education in our school can be improved.
I received a lot of great experience, thank you to everyone at the University of Georgia.
I would like to visit UGA again!

Nozomi SHIWA

Thank you for your kindness to us.
I'm not good at English, so I was very nervous until going Georgia. But people who I met in UGA were very kind and understood my poor English. I could spend meaningful and enjoyable time in Georgia.
I'm surprised that students of Georgia understand about their patients and many other disease. I talk with students and I

felt that I have to study about veterinary medicine more.
I had wonderful time in Georgia. This is thanks to kindness of Drs and students. I had experience that I can't have in Japan. I want study based on this noble experience.
If I have a chance, I would like to visit Georgia again! Thank you very much !

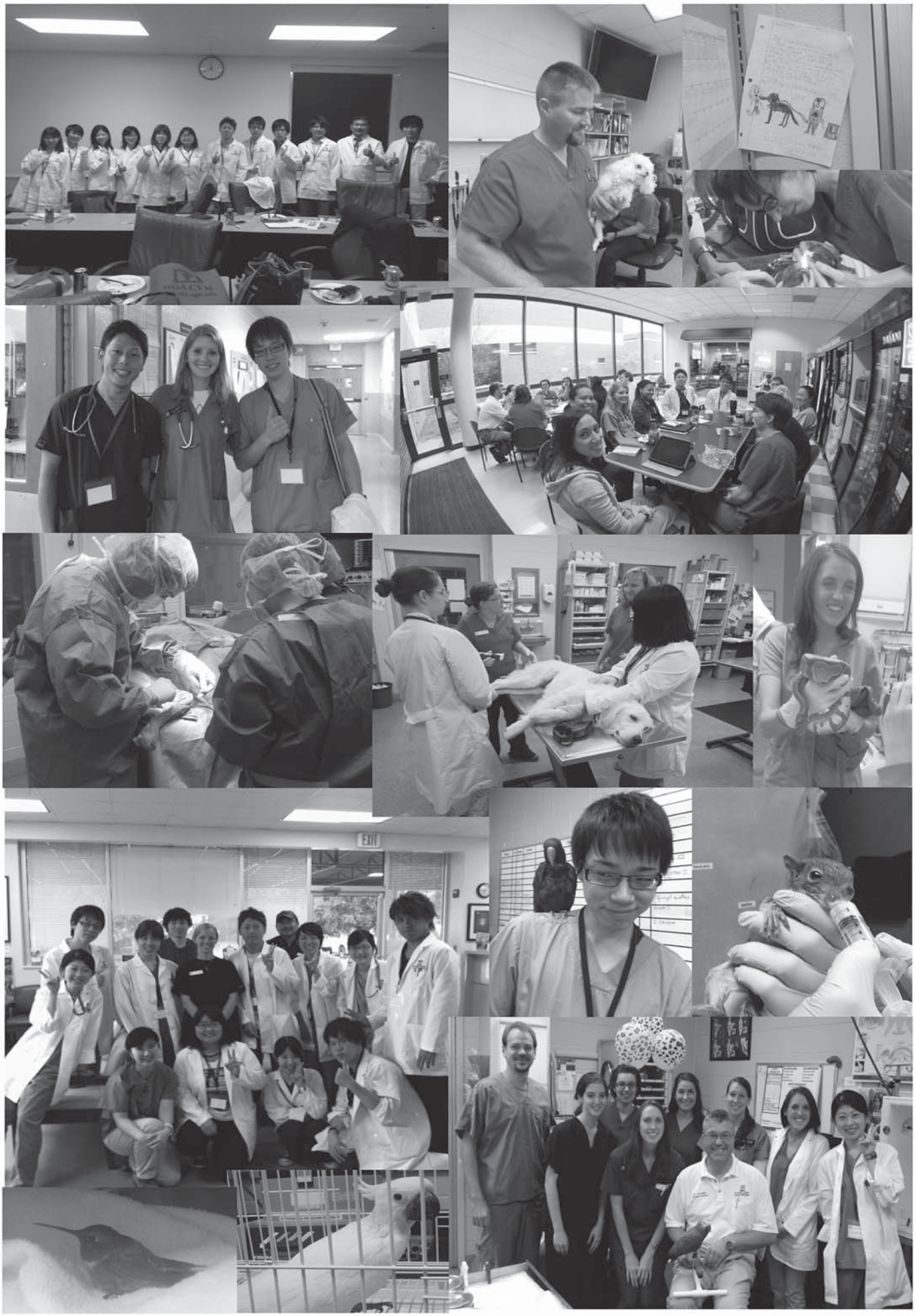
Kana TSUCHIYA

The most impressive stay ever in US!

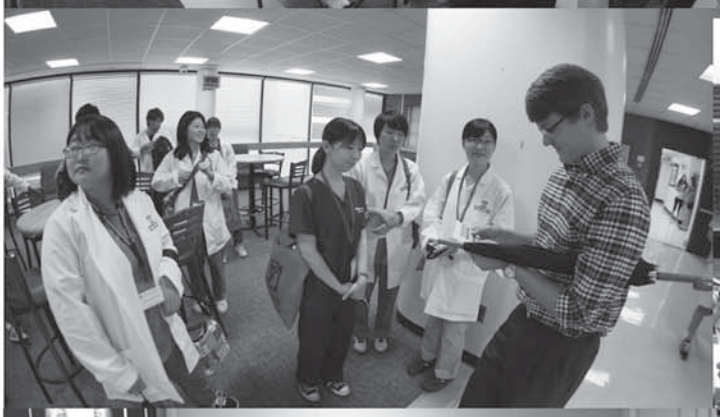
Our stay from Kitasato and Kagoshima University was so fruitful. We all are really enjoyed with so different and exciting unusual daily life. And our students remember their each stay individually and put into his/her memory forever. Yes, it was for the first in forever for all of us. And I hope this excited feeling will lead to promote their better future. Moreover, I am sure that this short visit made them feeling so much of fun and attracting everything so shine and wonderful moment, and finally we miss you so much for leaving Athens.
Here I confess my deep appreciation to the Dean Sheila W. Allen, Dr. Scott Brown, Dr. Robert Gogal, Dr. Mary Hondalus, Dr. Malonie Franks and her husband Michael, Ms. Lakecia Pettway, Mr. Parker Moore. Dr. Ajay Sharma. And of course I do not forget about the student ambassadors, Jennifer, David, Will, Sara, Grace, Annemarieke, Mathew, Andrea, Justin, Jenny, Naoko, Brian, Alex, Ashland, Murphy, Madelynn, Amy, Anna, Lauren, Trey, Paty, Rachel and more! And of course I do not forget about Dr. Koichi and Kazuko Nagata.

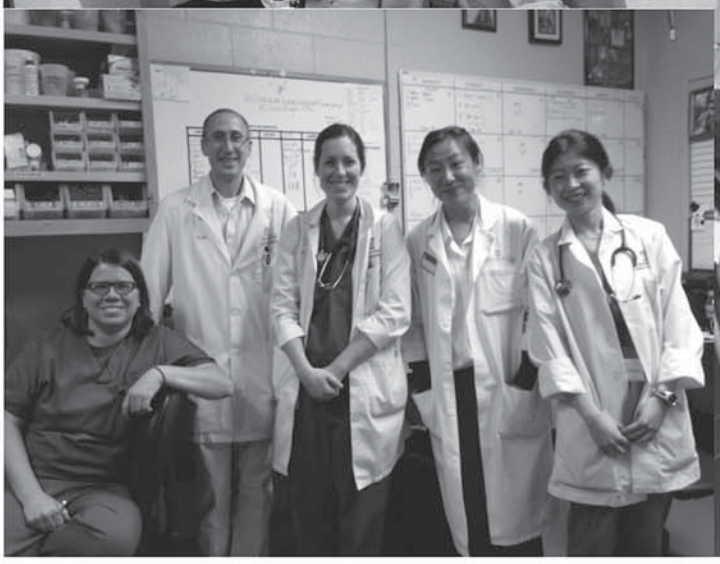
Time flies! But I hope seeing you again in not very far in the future.
All the best, and wishing see you again!!

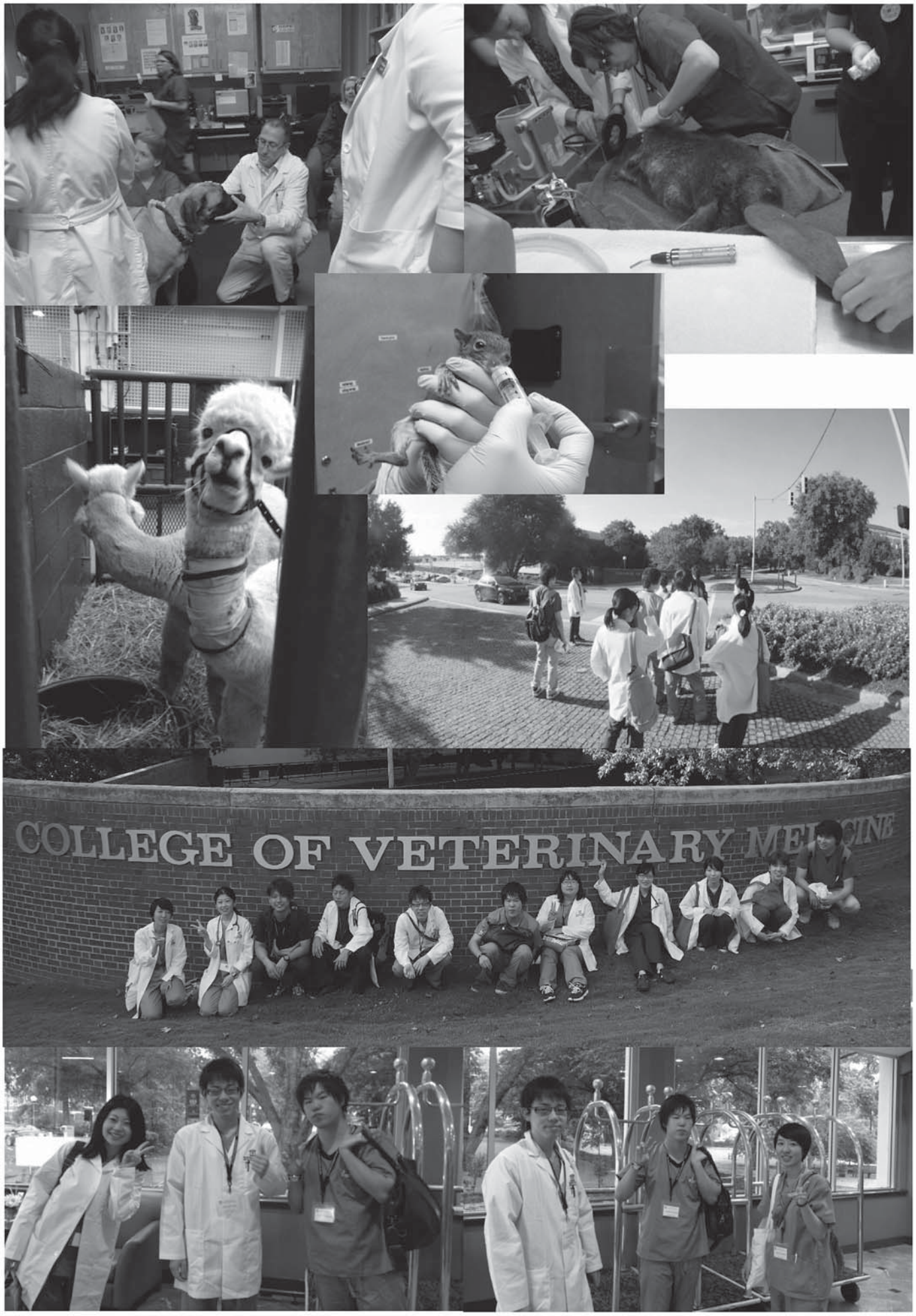
Masahiro Natsuhori, DVM PhD RSO



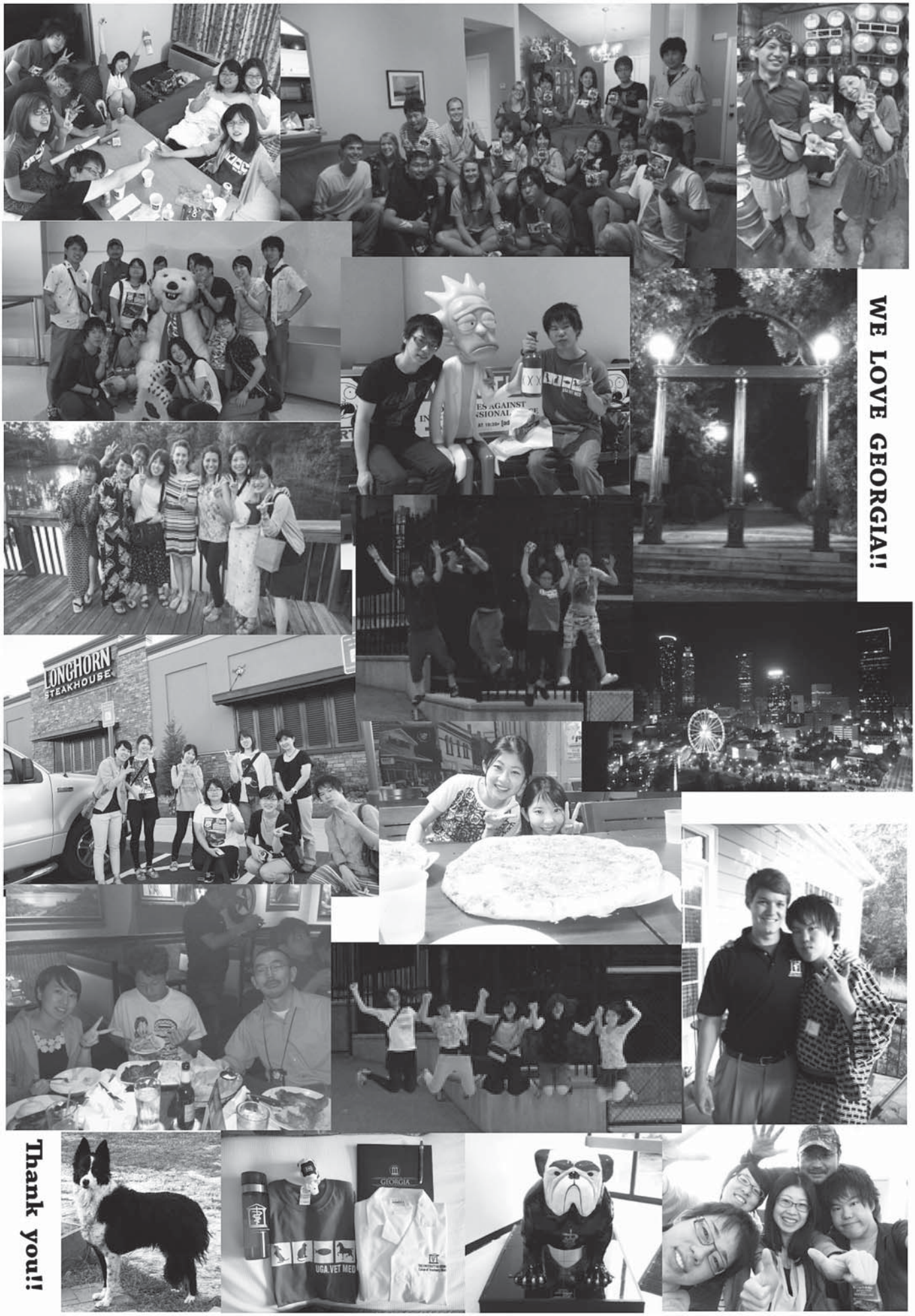
1785
The University of Georgia
College of Veterinary Medicine






COLLEGE OF VETERINARY MEDICINE

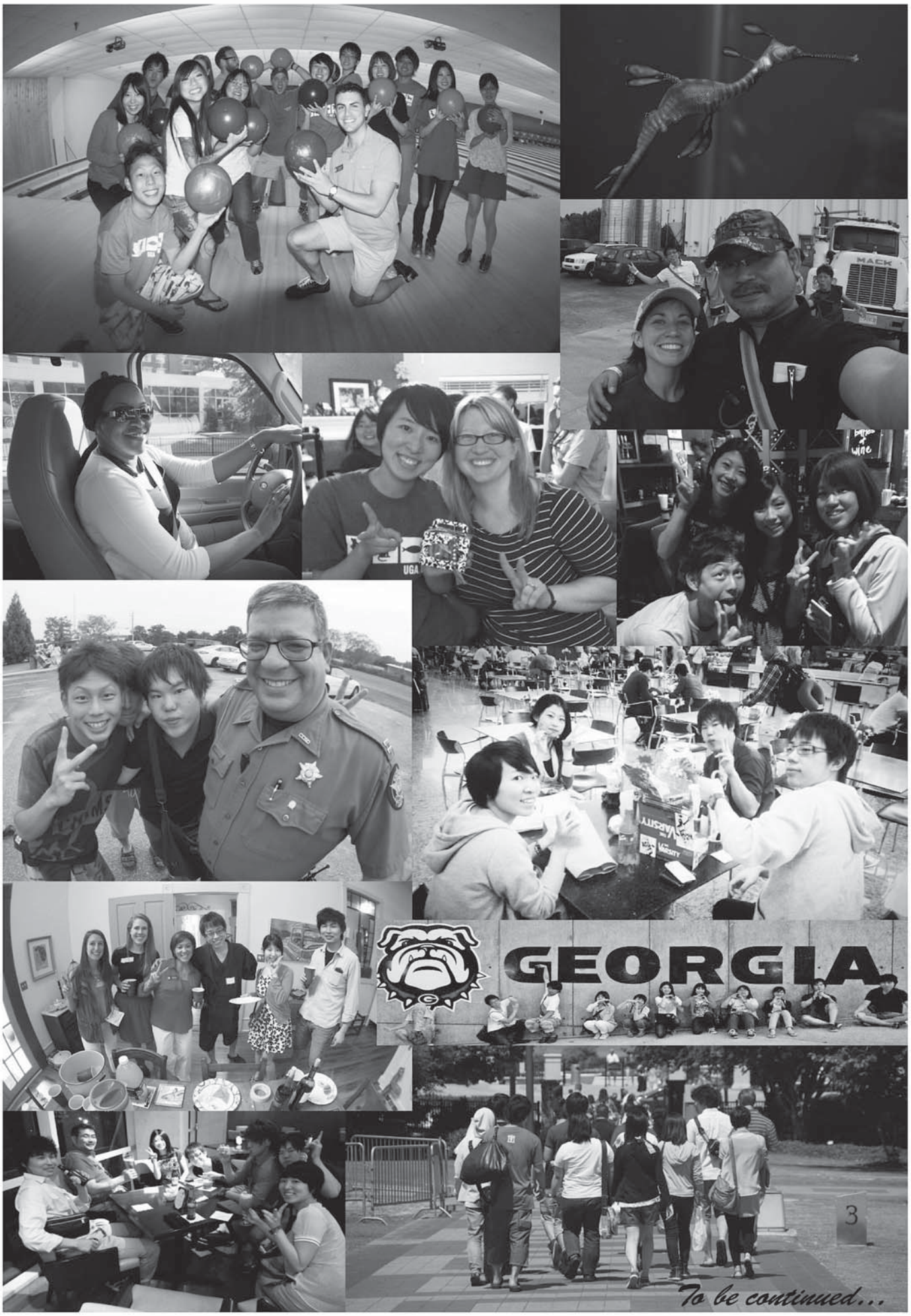
OTHERS!!



WE LOVE GEORGIA!!

Thank you!!

Great trip!!
THE UNIVERSITY OF GEORGIA
VINCE DOOLEY ATHLETIC COMPLEX


GEORGIA
To be continued...

The University of Tennessee
School of Veterinary Medicine
25 Aug. - 05 Sep. 2014

Junko SUMIMOTO, Rika TANAKA, Teruyo KAWASAKI, Tae TAKEDA,
Dr. Craudia A. Kirk (Front Row), Dr. Seishiro CHIKAZAWA (Back Row),
Shigekatsu TADA, Takuya GOTO

参加者一覧

同行教員：近澤　征史朗　Dr. Seishiro CHIKAZAWA

氏名	Name	所属研究室
川崎　輝世	Teruyo KAWASAKI	小動物第２外科学
後藤　拓弥	Takuya GOTO	獣医解剖学
住本　純子	Junko SUMIMOTO	獣医病理学
武田　妙	Tae TAKEDA	獣医生理学
多田　成克	Shigekatsu TADA	獣医毒性学
田中　梨香	Rika TANAKA	獣医放射線学

住本　純子

8月23日（土）
出発の日。空港でみんなと会って、出発前に最後の日本食を食べた。無事荷物も預けて飛行機に乗った。先生だけ離れた席で、学生は6人席を固めてくれた。寝ようと思ったが13時間ずっと寝ていることもできず、ぼーっとしたり、映画を4本見た。機内食はおいしくなかったけど、想像していたよりはマシで食べられた。アトランタに着いて入国審査。ビビりながら通過して時間つぶし。わたしはクレープを買って食べた。アメリカでの初めての買い物で、心臓破けるかと思った。集合していざ搭乗。空港内を電車で移動することには驚いた。ノックスビルへの飛行機では隣の席のビッグな男性が離陸までひたすら話しかけてくれたけど、話が途切れたうちに眠くて爆睡してしまった。一瞬でノックスビルに着いてカーク先生と会った。すごく優しそうな先生で安心した。旦那さんも荷物運びの手伝いに来てくれて、ありがたいと思った。ホテルに着いてチェックインして荷物を置いて、夜ごはんの買い物に、ウォルマートという巨大スーパーへ行った。うろうろして買い物して帰って、男子の部屋でご飯を食べた。先生がステーキを焼いてくれた。ピザとステーキとサラダとゆでたまごとチーズとパイナップル。みんなで食べながら雑談して、夜中まで話して寝た。

8月24日（日）
午後からナショナルパークに連れて行ってもらった。歴史あるいろんな建築物を見て歩いた。また、ここにはブラックベアーがいて、敷地内をドライブしながら見ることができるらしい。が、この日は暑かったからなのか一頭も見ることができなかった。残念だった…。その代わりにと言って、カーク先生がブラックベアーのポストカードをくれた。本当に優しい先生だと思った。帰り道に大学に連れて行ってもらい、構内の案内をしてもらった。あまりに広くて本当に驚いた。小動物も大動物も病院が大きくて、施設もしっかりしていて、器材も多く、規模の違いを目の当たりにした。明日からの実習がより楽しみになった。まだ時差に慣れていなくて、夕方ぐらいになると猛烈に眠くてつらかった。

8月25日（月）
初めてのローテーションはSmall animal Rehabilitationだった。8時半に到着したが、9時過ぎまで暇だった。この日が学生さんにとってもローテーション初日だったようで、9時ごろ来た学生さんと一緒にオリエンテーションのビデオを見た。正直何を言ってるのかさっぱり分からず、映像を見てなんとなくこんなこと言ってるんだろうなーと思うしかなかった。それが終わって、実際のリハビリを見せてもらった。入院している超肥満シェルティー“レーガン”のUWTMを見学して、操作方法も教えてもらった。次にきた“マギー”という子は股異形成とひざが悪くて、やはりこの子も太っていた。この時はさっき教えてもらった操作を実際にやらせてもらい、正面に座って見張りもさせてもらった。中にはふちの動かない床に脚をおいてサボる子もいるらしく、ちゃんと見ておかなければならないらしい。次は“デルタ”というダルメシアンで、この子はL1-L3の椎間板ヘルニアのため後肢が麻痺していた。車いすにのっていて、この時わたしは初めてイヌの車いすを見た。自分の英語力のなさに絶望した1日だった。

8月26日（火）
この日は予約がたくさん入っていた。朝リハビリの部屋に向かう途中で、患者のグレート

デンを連れて行っている先生と出会い、連れていくのを手伝いながら行った。この子は“セイディー”という子で、新規患者だった。FCE（線維軟骨塞栓症）の疑いで来院し、下半身不随で、ハーネスで下半身を引き上げてやっと歩ける感じだった。他の子についていたため、セイディーの検査はところどころしか見ることができなかったのが残念だった。

昨日もいたデルタ、レーガンは同じくUWTMを行なった。あと、17歳の“スヌーガルス”という肥満の子がきて、減量のためにUWTMをやっていた。こうしてみてみると、リハビリにくる患者さんは継続的に通っている子が多かった。また、半身不随の子を除くと、どの犬もかなりの肥満であることがわかった。しかもその程度が半端じゃなく、脂肪が邪魔で尻尾が上げられないくらいで、アメリカらしさを感じた。

午後からは“キーパー”という名前の大きなイヌが来て、その子にずっと付いていた。この子は右前肢の跛行が見られ、Force plate（FP）とよばれる検査をした。疑われる部位の麻酔前後でそれぞれ四肢の加重の程度を測定し、跛行の改善を調べるものだった。

この日はもっと英語を話さなければと思い、UWTMを見ながら先生ともお話してみた。テネシーはリハビリに強い理由について聞くことができた。リハビリでは1人しか学生さんがいなかったが、その学生さんが非常に親切で、いろいろ教えてくれたり一緒に外でご飯食べてくれたり…おかげで楽しく過ごすことができた。

8月27日（水）

今日からオルソに行った。妙ちゃんと一緒だった。オルソの部屋にはsoft tissueも一緒になっていて、この日はsoft tissueのオペを見せてもらった。

1件目は肝臓にマスのある子で、オペ前にMRIを撮った。左後葉に直径7cmのマスが見つかったが、血管から遠いため摘出可能で取りきれるのではないかと言っていた。そのまま麻酔下でオペにうつり、マスを摘出した。基本全てドクターとレジデントで行ない、最後の皮膚縫合のみ学生が行なっていた。2件目はブルドッグで、見に行ったときにはもう軟口蓋過長の切除と鼻孔を広げる手術を行なっていた。この子はこのあと緑内障に伴う眼球摘出と口腔内腫瘤の摘出を行なうらしい。14歳で呼吸もあまりよくないため長く麻酔するにはリスクが高い状態であり、これら手術に先立って呼吸を改善するオペを行なった。軟口蓋切除と鼻鏡切除が終わった後、そのまま口腔内腫瘤切除に向かった。犬歯の後ろで歯を覆うように小さなマスが存在し、そのマスを切除し、下にあった歯を抜いた。空いた穴は頬の粘膜フラップを作って塞いだ。さらに続いて眼球摘出を行なった。術野が非常に狭く、学生といたら何も見えなかったので、オペ室の外の小窓から手術の様子を見た。見ていたら、室内にいる学生が摘出した眼球の入ったボトルを近くまで持ってきて窓越しに見せてくれた。今日はとても楽しい充実した一日だったが、1日中立ちっぱなしだったのでとても疲れた。

8月28日（木）

オルソ2日目。今日はオルソのオペ日だったので、今日も一日中オペを見せてもらった。1件目はレッグペルテスのオペだった。オペ室はレントゲンがその場で撮れるようになっていて、この症例では何度も撮りながら位置確認しながら行なっていた。外から見ることしかできなかったので、狭い術野を見ることはできず、使う器具と手の動きと処置後のレントゲンから何をやっているのか考えるしかできなかった。2件目は前十字靭帯断裂の再

建手術で、TPLOを行なった。アメリカは太ったイヌが多くて、そのため前十字靭帯断裂する子がとても多く、1日のオペでTPLOを3件やることもあるそうだ。TPLOは脛骨粗面転移術の一種で、骨切りとプレートを用いて行なわれる。外からオペを見ていると、近くで一緒に見学していた学生が絵を描いて説明してくれたので、なにをやっているのかリアルタイムで理解することができた。3件目はTPLOをした後に感染を起こしたため、プレートを除去するオペだった。5年前期に整形を習ったばかりだったので記憶に新しく、器具やその使い方をより深く理解できたのが収穫だったと思う。オルソは最初組まれていなかったローテンションだったけど、先生にお願いして入れてもらってよかったと思った。お昼ご飯の時間を取れず、1日中立ちっぱなしだったのでさすがにこの日はとても疲れた。

8月29日（金）

今日から病理！北里では病理を勉強していたので、アメリカでの病理学にも興味があった。朝着くと病理は9時から始まると聞いたので、とりあえず近澤先生と一緒にレジデントの先生の勉強会に参加した。いよいよ病理。先生に連れて行ってもらい辿り着いた先で行なわれていたのはなんと寄生虫学…？一緒に馬の糞便中の寄生虫卵数を数え、学生たちの超絶速い英語でのディスカッションを聞き、終わったと思いきや、お昼休みだよと学生は去っていった。あとで分かったことだが、午前中は顕微鏡を使う他の科目の勉強をして、午後から病理をするみたいだ。この日は間違えて寄生虫に来たのかな…とかわけのわからないまま過ごして午後。先生も部屋も変わって、病理解剖の時間が来た！病理で合っていたと分かり、すごく安心した。まず解剖する症例を先生が説明し、その後学生が基本1人1件の解剖を担当し、全てを行なっていた。分からないことがあれば先生に聞いて解決し、時に手伝ってもらってといった感じで、とにかく学生主体で行われていた。責任もって解剖することで知識が豊富になると思うし、いいなと思った。ところどころ作業のお手伝いをさせてもらいながら見せてもらった。お腹が血液で満たされたウマ、DICをおこしたイヌや、動物園から送られてきた小鳥、寄生虫感染により著しい貧血と水腫を呈したヤギ、その他2頭のイヌを解剖した。解剖中に質問したらみんな快くたくさん教えてくれて、すごく楽しかった。解剖後には隣にある小さな小部屋で本日の症例についてのディスカッションが行なわれた。ここには他の科の先生や学生も来て、それぞれメインの所見を実際に見せて説明し、意見交換を行なった。いろんな分野からの視点で症例を見ることができて、この機会はすごくいいなと思った。

今日一番驚いたのは、解剖棟の大きさと整った設備だった。天井からクレーンが吊り下がっていて大動物も楽々運べるし、水道ホースも吊り下がっていて掃除も水洗もしやすく、クーラーが効いていて、冷凍庫も大きく、とにかく北里との違いに驚くばかりだった。

8月30日（土）

朝から動物園に連れて行ってもらった！到着してDr.シューマッハに案内してもらった。案内してもらいながら動物の説明もしてもらい、とても充実した動物園めぐりをさせてもらえた。お忙しいみたいで途中でシューマッハ先生は帰られた。そのあとメリーゴーランドやふれあい動物園を楽しんだ後、お土産を買った。夜はBooms Day。ダウンタウンで打ち上げ花火を見た。一気に休みなく派手に打ち上げ続け、一瞬で盛り上がって終わった。余韻もなく、アメリカらしいなーと感じた。

とても綺麗だった！

8月31日（日）
久しぶりに朝ゆっくり寝た！昼ご飯はインターンの小田先生と一緒にご飯を食べた。内科にいる日本人の先生で、アメリカでの生活や、アメリカの獣医大学の話など興味深い話をたくさん聞かせてもらった。夜はフットボール。ルールを多田君に教えてもらって予習して。会場についていざ席に着こうとしたらまさかの大雨…。びしょぬれになりながらカッパを探しに行くも売り切れでさらにぬれ。最終的にマーチングが始まるころには晴れるという！おかげでとても楽しめた。スタンドはオレンジ一色ですごかった。アメフトを生で見たのは初めてで、しかも本場でこんなに盛り上がって見れるなんて最高。テネシーの圧勝で、途中から勝利を確信したのか観客が減っていく様子が面白かった。

9月1日（月）
今日は日本でいう勤労感謝の日で、大学が休みだった。
朝からカーク先生と旦那さんとともにラフティングへ！けっこう怖いと聞いたけど楽しみだった。天気が心配だったけれど快晴で気持ちよかった。
ボートに乗っていざ川下り！ガイドさんがチャラくてやることが派手で、すごく楽しかった。たくさん水をかぶって、穏やかなところで泳いで、満喫した。楽しかった！
帰りは道に迷ったみたいで…疲れているのに運転してもらって、感謝の言葉しかない。

9月2日（火）
今日はもう1日病理のローテーション。9時からと聞いたので図書館にいたら学生が迎えに来てくれて、今日は実は8時15分からだったらしい。週が変わったので、午前の教科も変わっていた。今週は臨床病理、血液塗抹と血液検査についての講義だった。1週間の流れ、血液塗抹の意義やノウハウを説明された。次にディスカッション。顕微鏡でいろんな動物といろんな疾病の血液塗抹を見ながら先生の説明を受けた。正直先生の説明は速いし、何を見ているのかぐらいしか分からなかったため眠かった。周りを見ると半分ぐらいの学生が寝てた。今日のお昼は、学生が一緒にスタバに連れて行ってくれた。コーヒーを買って帰ってラウンジで一緒にご飯を食べたけど、誰一人話すことなくスマホやパソコンをさわっていて、ちょっと怖かった。午後はやはり病理解剖。けれど、週ごとに先生が変わるらしい。1件目は動脈管開存、心血管の奇形、尿膜管遺残を持つ子牛だった。2件目はなんと動物園から来たヘビだった。ヘビの解剖なんて初めてで、面白かったのでたくさん見た。他にも脳出血のラット、動物園から来たハリネズミと小鳥2羽、ウサギも同時に解剖されていた。この日も金曜と同じく、解剖後にディスカッションが行なわれた。この日で病理とはさよなら。もう少し見たかったけれど、金平糖をお土産に渡して帰った。

9月3日（水）
今日は楽しみにしていたExotics。てるちゃんと一緒だった。朝9時半からDr.シューマッハに動物園へ連れて行ってもらった。トラの口腔内の膿瘍の往診が目的だった。餌で釣って柵越しにトラを立たせて、口が開いた瞬間に下からのぞき見る、といった感じで検査した。今後はエサに抗生剤を混ぜて食べさせて消す方向で治療すると言っていた。柵越しにトラと対面したわけだが、このときトラはよだれを垂らしながらグルグル唸って、てるちゃんのみを見つめて完全にロックオンしていた。…そんなことにビビらず必死で写真を撮ろうとしているてるちゃんは大物だと思っ

た。その後は片足を悪くして引きずって歩く高齢のラットを安楽殺した。
午前で往診が終わって大学に戻ると、サーバルの子猫が5匹来ていた。初めて見たサーバルはすごくかわいくて、キュンとした。5匹のうち2匹に呼吸器感染症の疑いがあり、うち1匹は重症でICUに入った。後の検査で細菌感染であると判明した。
リンパ腫で化学療法に通っているフェレット、拾われたウサギ、親が車にひかれて死んだオポッサムの赤ちゃん2匹、ネコに食べられる瞬間を助けられたウサギ、壁にぶつかったのを拾われたタカなどが来た。また、車にひかれたウサギがやってきて、レントゲンを撮った。背骨が完全に折れてしかもずれて押されて互い違いのようになっており、助かる見込みがなかったためそのまま安楽殺された。
この日ウサギとオポッサムは資格を持った人に引き取られて、社会勉強のためリハビリに旅立った。他の動物との生活に慣れるまではその人の家で生活し、その後里親を探すらしい。野生動物にもこんな制度があるといいとすごく思った。

9月4日（木）
今日もExotics。この日は入院患畜もほとんどなく、朝とても暇だった。しばらくして歯の伸びすぎたモルモットが来た。麻酔をして歯を切って削り、奥歯も削って成形した。このような歯のトラブルで来る動物は多いらしい。今日一番驚いたのは、ペットのアライグマが来たことだ。アメリカでは届出をすればアライグマをペットとして飼えると聞いて、しかも本当に飼っている人がいて驚いた。この日は身体検査のため来院していた。この子が猛烈なおデブさんで…オーナーさんと話に行くのに同伴させてもらうと、オーナーさんはチョコ、チーズバーガー、キャンディー、クッキー…などなどを食べさせていたらしい。さすがにドクターにも怒られていたが、いろいろ驚きがありすぎた。けっこう凶暴で、ケージの中でもひたすら暴れていた。よく飼おうと思うよなーと正直思った。この日は麻酔をかけて狂犬病とジステンパーのワクチン（イヌ用）を打って、採血をして帰った。
インスリノーマのフェレット2匹、体重減少したハヤブサも来た。あと、車にひかれたシカが安楽殺するために運ばれて来た。このシカは両後肢で大腿骨の開放骨折があり、骨幹端が露出していて、見ているだけで痛そうでかわいそうだった。やっぱりこの日は暇で、4時には終わってしまった。仕方ないので図書館に行って、明日のプレゼンの準備をした。今日はホテルに帰ってご飯食べて、夜遅くまでプレゼンの準備をしていた。ロビーでやってたけど、飲み物もあるし夜食も夕食のときに取ってきてたし、快適だった。明け方まで頑張って寝た。

9月5日（金）
朝眠い中、最終日の今日もExoticsでお世話になった。この日はまずミサゴという猛禽のレントゲンから始まった。レントゲンで肘関節にフラクチャーが見られ、野生動物で回復は困難と判断され、安楽死となった。このミサゴを使って、レジデントが内視鏡の練習をしていた。この日内視鏡の予定が入っていたので、その前に内視鏡の扱いに慣れておくためにやっていたらしい。終わったら、内視鏡本番の昨日来たハヤブサの麻酔をした。生の動物での内視鏡を見るのは初めてで、それが猛禽だなんて貴重な体験だと思った。この子はエサと一緒に石を食べてしまって胃にたまり、食欲不振で体重が減少したとのことだった。レントゲンでみると、確かに胃に不透過性の高いごろごろした物体が多く見られた。内視鏡を入れてみると直径2～3cmくらい

の小石があって、1つずつ掴んでは取り出して、合計7個の石が出てきた。
ここで時間が来てしまったため、お礼を言って先生の部屋に戻ってプレゼンの準備をした。思っていたより多くの学生、先生方が来ていて、緊張しまくりだった。自分の番が来て、昨日の夜作った原稿を読んだ。…散々だった。こんなひどい英語を聞いても伝わらなかっただろうな…と思いつつも、聞いてくれた皆さんに感謝したいと思う。本当に吐きそうだった。最後に病院でお世話になった科を回ってメッセージをもらった。渡しそびれたお土産も渡してお別れして、時間になったので戻った。最後にカーク先生がみんなにそれぞれテネシーグッズをたくさんくれた。本当にうれしかった。テネシーショップにも連れて行ってくれた。
最後のディナーはレストランで。カーク先生と小田先生とともに肉を食べてビールを飲んだ。アメリカで今まで食べたご飯の中で一番おいしかったと思う。帰ってみんなでプールで泳いだ。最初で最後のプールで遊んで楽しかった。その後荷造りとカーク先生へのアルバム作りをした。みんな昨日寝てないし疲れて途中で寝てしまったけど、最終的に完成できたので一安心。

9月6日（土）
朝いつも通り7時半にロビーに。空港まで送ってもらい、素直に諦めて超過料金を支払って荷物を預けた。高かったが、荷造りした時点から重いと分かっていたのでいまさら詰め直す気にもならず、諦めた。何が重かったのか…わからない。手続きまで済ませてカーク先生とお別れ。2週間本当にお世話になり、感謝しかない。昨日夜頑張って作ったアルバムをみんなで渡した。喜んでくれるといいな…と思う。アトランタでご飯タイム。最後に食べてみたいと思っていたカリフォルニアロールを。なんだか寿司じゃないけどおいしかった。その後飛行機に乗っていざ成田へ。帰りは全員席ばらばら。通路側の人はひたすら寝てるし、窓側の人も席立たないし、結局14時間近く1度も席を立つことなく過ごした。さらに追い打ちをかけるように、機内食がまずい！途中で食べるのをあきらめてしまった。前日ほとんど寝てないこともあり、行きの飛行機より寝れた。映画も3本見た。成田でサンダルを履こうと思ったら足がむくみすぎてサンダルのストラップを留めることができなかったのには驚いた。そのまま空港で解散して、結局頑張って最終で十和田に帰った。

感想
初日はみんな何言ってるのかさっぱり聞きとることができず泣きそうなぐらい絶望してたけど、過ごしていくにつれてだんだん聞き取れるようになった。単語の羅列のようになるが、周りの優しさのおかげで会話してもらえて、少しずつ成長できたと思う。アメリカの獣医学生は自主性が高く、やらされてる感など全くなく、むしろ自分からやりたいことをやっているといった感じだった。知らないことを全力で知ろうとし、知ってることは惜しみなく出しつくし、お互いに高めあっていける環境に感動した。

後藤　拓弥

8/23(土)
慌ただしい出国準備が終わり、13:30に成田空港に集合。出発まで時間があったのでお世話になるKirk先生や各科の先生方へのお土産を空港内のショップで購入。ボールペンや金平糖など日本らしい物を中心に選択しました。喜んでいただけるといいのですが…その

後は出国前にみんなで日本食を食べようということで空港内のお店で和食を食べました。しばらくこの味ともお別れです。手荷物を預け、機内持ち込み品のチェックをして機内へ乗り込みいよいよ出国！近澤先生のみ座席が離れていて窮屈だったそうですが、学生は横1列に並んでいたので出入りが自由にできました。機内では12時間のフライト中、寝付けなかったので3本の映画を見ました。やはり12時間は長い…機内は異常に寒いので上着は必須です。経由地のアトランタで入国審査を受けましたが、靴やベルトを外されたり、両指の指紋や眼球の検査までされたことは衝撃でした。そしてシゲカツくんと兄弟だと思われるという（笑）アトランタからノクスビル空港までの機内で自分たちの席にファンキーなおじいちゃんが座っていて座席のダブルブッキングが発覚したのも今では笑い話です。乗務員の女性の「ワォ、ダブルブッキング！」というセリフは今でも鮮明に覚えています。ノクスビル空港でKirk先生と合流し、ホテルまで送迎してもらいました。話し方から気品が伝わってくる方だな、と感じました。夜はホテル近くのスーパーで購入したピザや肉を調理してみんなで食べ、2時には就寝しました。

昼食：成田空港で海鮮丼
夕食：機内食
朝食・昼食：機内食
夕食：ホテルでピザパーティー

8/24（日）

8時に起床し、ホテルの無料サービス（2週間を通して基本的にメニューは変わらず、スクランブルエッグやウインナー、ワッフルやパン、ヨーグルトなど）で朝食を済ませて周囲を散策することに。車はたくさん走っているのに、歩いている人が全然いないことや何もかもサイズがでかいことに驚きました！昼食で食べたNOODLEはシゲカツくんのは消しゴム味、僕のトマトバジルヌードルはミートソースをそのまま飲んでいるような味でした。13時からKirk先生と合流し、great smoky mountainという国立公園を散策。残念ながらブラックベアには会えなかったものの、見たこともない野鳥にたくさん出会えたので満足でした。20時にKirk先生とメキシカンファストフード店へ行き、トルティーヤのような物を食べました。味はおいしいのですが、mildでも辛かったです。しかし付属のポテトチップスはいらないような…その後はホテルに戻り、翌日の予習を軽くして0時には就寝しました。夜は21時まで外が明るいのでこの日は体が重かったです。

朝食：ホテルのバイキング
昼食：noodle shop
夕食：トルティーヤのようなファストフード

8/25（月）：EXOTIC

この日は初めての研修日！そしてテネシーに来た最大の目的であるEXOTIC科だったので気合十分でした。ちなみに朝は日本代表という気持ちを高めるためにサッカーのアンセムを聞いてから出発しました(笑)。ローテーションは1人ずつだったので周囲はみんなアメリカ人かつ言語はもちろんすべて英語。メンバーを自己紹介され、1日の流れの説明を受けたのですが、会話のスピードが速すぎてリスニングに苦戦。ほとんど理解できなかったので先生たちや学生が空いている時間にひたすら個別に質問してそれでもわからない単語などはスペルを書いてもらいました。この日はローラという学生と友達になり、薬の名前や患畜の状態を個別に教えてもらいました。しかしこのローラ、自信満々に教えてくれるものの、後で自分で調べると単語のスペルやら薬の名前が間違っていたり（笑）この日のwildlifeは樹から落ちて保護されたリス

の赤ちゃんやイヌやネコに噛まれたウサギの赤ちゃん（輸液やエンロフロキサシンといった抗菌薬の投与）、オーナーのいる患畜としてはクロアカが体外に出てしまっているトカゲ（獣医がクロアカを直接素手で押し込む処置）や寛骨大腿が脱臼してしまっているコンゴウインコ（CT 検査を実施）などが来院しました。入院患者は基本的に学生が担当しており、注射や薬の投与も学生が行っていたことは驚きました。他の科でもそうだったのですがメインの診察室に大きなホワイトボードがあり、そこにその日の患畜ごとの投与すべき薬や予定が記載されていて学生はそれを見ながら仕事をこなし、終わればチェックを入れるという流れでした。大学での 1 日の仕事が終わりホテルに戻って夕食後は全員でその日に担当したそれぞれの科の話をする勉強会を実施。複数の科について診察状況を聞けたので勉強になりました。
＊基本的に平日の実習期間中は朝、夜はホテルのバイキング、昼は大学内の売店で BLT サンドやチリドッグなどを食べました。

8/26（火）EXOTIC
研修 2 日目。朝は診療が始まるまでに学生が入院患畜の床替えや朝食を済ませ、その後にドクター全員が朝の巡回をして各患畜の状況を学生が説明していました。このドクターによるチェックは毎朝実施されており、何かあればその都度学生に指示を出していました。さて、この日の最大の目玉はなんといってもトラの診察でしょう！しかも動物園からではなく、サーカスから引退したトラなどの大型哺乳類を保護収容する施設（tiger heaven という）があり、そこから来たとか…大学病院に連れてきてしまうこと（輸送ストレスはないのか？？）もそもそもトラが患畜として運ばれてくることも衝撃でした。左後肢の足根関節部に腫れがあり、X 線検査や血液検査、関節液の細胞診で細菌感染の有無などを調べるための来院で、1 か月前に今回の部位を負傷し、患部をなめたり噛んだりすることで腫れてしまったということでした。イソフルランで維持麻酔したのですが、気管内チューブも太かったです！抗生物質を皮下＋筋注し、検査が終わると麻酔が完全に覚めるまで檻の中に入れて外から観察。麻酔で寝ているとはいえ、目前で見たあの迫力は忘れられません。最後は檻ごと車に乗せて帰宅。この他、左後臼歯が伸びたチンチラの歯を削る症例（イソフルランを使ってマスクで全身麻酔をかけていた）や同居のモモンガによって左頸部に咬傷を負ったモモンガ（メロキシカムという抗炎症薬とクラバモックスという抗生物質を投与）、翌日に卵巣子宮摘出を控えたプレーリードッグが来院しました。アメリカは来院する動物の種類が多いなと感じた 1 日でした。

8/27（水）EXOTIC
この日はエキゾ最終日。質問事項が残らないようにとわからなければすぐに聞くことに徹しました。ようやく英語だけの世界にも慣れてきた感覚。でもやはりリスニングがつらい…さて、この日は前日に来院したプレーリードッグの避妊去勢手術を見学。術者と助手、器具出しに加えて麻酔係が 1 人、その他見学が数人いて基本的にオペはドクターが担当するのですが、縫合は学生も担当していました。1 時間ほどでオペは終了。学生が積極的に参加していることが印象的でした。オペの最中に音楽を聞いたり、イルミネーションを点灯させる先生もいるそうです。この日に印象に残っている症例は腹部に負った怪我に大量の蛆がわいていてイソフルランガスとペントバルビタールを心臓に投与して安楽死処置されたリスの赤ちゃんでした。こんなに小さくても確かな命。その命の灯が消えていく様子には胸が痛みました。テネシー大学では終

生飼育はなく、安楽死かリハビリなどの後に野生に戻すという2つの選択肢があるそうです。診察の空き時間にはドクターが学生たちに正解すると得点がもらえるゲーム形式のクイズを実施しており、楽しく勉強できるように工夫していました。質問事項はすべて解決させ、エキゾ最終日終了。金平糖などお土産を渡して感謝の気持ちを伝えました。ちなみにこの日で終わりかと思いきやこの後の期間中も空き時間に毎日エキゾには通うことになるのですが…（笑）自分が最も興味がある科だったことや患畜も種類が多いこと、メンバーの雰囲気もよかったために何回でも来たいと思える場所でした。最終的には実習に来ている、というよりは一緒に仕事をしているという気持ちになりました（笑）。それほど夢中になり多くのことを学んだエキゾ科、本当に感謝です！！

8/28（木）

CP(community practice) という科の初日。名前だけでは何を実施するのかわからず、どんな科なのかと思いながら案内された先は10人が円形に座る小会議室のような部屋でした。すでに会議は始まっており、先生と思われる女性が物凄い早口で何やらお話をされておりました。ほとんど聞き取れなかったのですが、どうやらこれから学生がオーナーさんと直接受け答えをするのでそのための方法や注意すべきことを説明していたようです。その後は診察室（常にカントリーソングが流れている楽しげな場所でした）に移動し、チワワの狂犬病の注射の保定の担当、ボーダーコリーの肥満細胞腫のオペを見学しました。特に肥満細胞腫は学生自身がマージンを摘出しており、縫合まですべて担当していたのには驚きました。テネシー大学ではオーナーがいるペットでも比較的簡単なオペは最終学年の学生が担当するようです。もちろん近くにドクターはいるのですが。また、前述のオーナーさんと学生の往診の様子は録画されており、その動画は午後の授業で使われて往診をもっと良くするにはどうすればいいか、学生と先生でディスカッションをしていました。学生がオーナーさんと直接往診をしているのは日本では見たことがなかったので新鮮でした。昼休みの時間もご飯を食べながら先生が講義をしており、合間のクイズで正解した人にはなんと専門書が贈呈されていてこんなところもスケールが大きいな、感じました。そんな日程をこなしている最中でした。なにやら教室の外から僕を呼ぶ人がいるとのこと。誰だ？と思い外に出てみると何やら興奮した様子のシゲカツくんではないですか。「ごっちゃん！！エキゾにハクトウワシが来た！」「何ですとーー！！」野生動物、特に野鳥が大好きな僕のために彼は呼びに来てくれたようです。ちなみにハクトウワシとはアメリカの国鳥にもなっている大型の猛禽類で翼を広げると2mにも及びます。日本では野生下ではまず目にすることができません。というわけで即決でさっそくCPの先生に訳を話し、許可を得てエキゾ科へ直行。この後の授業は車でキャンパスを移動するから今日はCPには戻って来れないよ？と言われたのですが、猛禽の診察を見てみたいという欲求には勝てませんでした。そんなわけで再びエキゾ科へ行くことになりました。ハクトウワシはX線撮影の最中で経歴を聞くと3年前に上腕骨を骨折したところを猛禽類の保護収容施設に保護されて治療されていた個体で、今回の来院は野生に返すための最終検査ということでした。特に異常は見当たらず、ケージに収容されて施設に帰っていきました。その後の患畜はシゲカツくんのレポート参照で。途中でその日の科を変更するという僕のわがままを「見学したい場所に行けばいいのよ」、と快く受け入れてくれた先生方に感謝です。目標の

1つであった猛禽類を観察できてこの日は大満足でした。

8/29（金）
Small animal rehabilitation
この日はテネシー大学の特徴の1つであるリハビリテーション小動物編。この科にはケーシーという日本好きの学生がいて質問は何でも対応してくれました。
リハビリ対象の患畜としては前十字靭帯断裂のTPLOを実施した雑種やゴールデンレトリーバー、椎間板ヘルニアの術後のダックスフントやダルメシアン（車イスでした）などがいてそれぞれにアンダーウォータートレッドミルやプールでの水泳、電気刺激や患部の温熱療法などのプログラムをこなしていました。リハビリは症状によって1週間から2ヶ月くらいの期間実施するそうです。症例や術式など5年の整形学で学んだばかりの知識に多く重なったので理解が進みました。お昼はケーシーが近くのスーパーに連れて行ってくれてそこで売っていた寿司を食べました。カリフォルニアロールはおいしかったのですが、マグロとサーモンは味がなかったです(笑)。この科は他と違って時間がとてもゆっくり流れているような印象でした。

8/30（土）休日
この日は久しぶりの休日。普段エキゾ科で主にノクスビル動物園の往診を担当しているシューマッハ先生（ドイツ人で俳優のようにイケメン！）に動物園の裏側見学をしていただきました。
国立公園でみることができなかったブラックベア、さらにはゴリラやレッサーパンダを観察しました。ブラックベアは病気や使用される薬がイヌと同じこと、動物園間の動物の移動に飛行機を使うこともある、といったお話を個別に聞かせていただき、贅沢なツアーとなりました。日本の先生方や友人へのおみやげを大量に買い込み、大きな袋を抱えて動物園を出発しました。その後は翌日に観戦する大学内にあるアメフトのスタジアムを外から見学しました。10万人を収容できるスタジアムとのことでものすごい大きさでした。やはりアメリカはスケールがでかい！夜はBOOMS DAYということで花火大会を見学。日本とはまた違った形式の花火を見ることができて楽しかったです。しかしアメリカは連続で花火を上げるものなんですね。煙で最後はわからないという（笑)。

8/31（日）休日
この日はテネシーの大学病院で小動物の研修医として働いている小田彩子先生と昼食をご一緒しました。高校生の頃からアメリカに1人暮らしされているということで英語はペラペラ。それでも聞き取れるようになるまで3年はかかったとおっしゃっていました。日本とアメリカの獣医療の違い、チップの方法など久しぶりに日本語が通じたあの感覚は嬉しかったです。夜は前日のスタジアムでアメフト観戦。本当に多くの人が集まっていてみんな自分の街が好きなんだなと感じました。あの熱気は言葉では形容できないです。大興奮の試合は見事テネシー大学の勝利で終わり、みんな陽気に帰宅しました。夕食はマックでビッグマックを購入。この大きさはほぼ日本と同じでしたが1200キロカロリーある特大のハンバーガーが売っていてさすがアメリカだなと思いました。味も日本の味でこんなところで日本を感じるとは思わなかったです。

9/1（月）休日
この日はラフティング！天気が悪くなって欲しいという近澤先生の願望は届かず、見事に晴れでした（笑)。ガイドのお兄さんが注意事項を説明するものの、早口すぎてほとんど

わからず、これで大丈夫なのかという不安はありましたが実際に乗ってみると景色がロードオブザリングの世界でした。同行のガイドはちゃらい雰囲気だったのですが、あえて流れの急な場所を選択してくれていたので非常にスリリングなラフティングを楽しめました。ちなみにガイドも途中でひっくり返っていました（笑）。

9/2（火）、9/3（水）
Large animal rehabilitation
この 2 日間はリハビリテーション大動物編。対応してくれたのはスペインからの留学生のゴンザレスでちょいちょいラテン語が入るので会話を理解するのに苦労しました。小動物とは違い、アンダーウォータートレッドミルも大掛かりで馬の全身が収まるほどでした。来院する患畜はそんなに多くはないのですが、跛行の検査が多く、1 件 1 件に時間をかけて診断していました。具体的には超音波エコー、Lameness locator という跛行診断器（右前肢、頭部、腰部の 3 カ所にセンサーを設置して歩かせ、異常の場所を探る）を使用した検査を実施し、足根骨の骨関節炎など診断・治療していました。また、専門の蹄鉄師であるダッドリーさんがいて蹄鉄が古くなったり、爪が伸びてぼろぼろになった個々の馬に合ったオーダーメイドの蹄鉄を瞬時に作成していました。この人は本当に仕事が丁寧で早く、芸術性を感じるほどでプロフェッショナルだなと強く感じました。

9/4（木）、9/5（金）
Large animal surgery
この 2 日間は大動物外科。1 番大きなオペは右上顎の臼歯から生じた腫瘍が鼻腔を圧迫して呼吸困難になっているケースでした。
専用の大部屋でマットで馬を壁に押し付けた状態で麻酔投与。麻酔が効いて馬が倒れるとそのまま天井に設置してあるクレーンでストレッチャーに乗せ、CT 検査室へ移動。こんなに大掛かりな CT 検査は見たことがなかったので驚きでした。麻酔科、放射線科、外科といった複数の科の 10 人ぐらいのスタッフが役割分担してそれぞれが無駄なく動いていました。各科ごとの連携がとても密で電話すればすぐにその科に駆けつけるというこの体制は素晴らしいなと感じました。実際のオペでは上顎骨に 2 カ所の骨切りを施し、そこから大量の腫瘍を掻き出していました。翌日は術後の出血がなかなか止まらず、僕自身も患部の圧迫止血と定期的な心拍数の測定を担当しました。頸静脈からの輸液には止血防止するためのアミノカプロン酸を投与していました。ここでも学生が終始馬から離れることなく状態のチェックを担当しており、昼ごはんをゆっくり食べる時間もないくらいでした。ジェニファーという金髪美人の学生にいつもこんな感じで忙しいの？と聞くとポケットからカロリーメイトのような物を取り出して Eat when I can! と言っていたのが印象的でした。最終日は午後からそれまで準備してきた英語でのスライド発表。階段状の会議室のような部屋で教授陣の前での発表だったので非常に緊張しましたが他では体験できない貴重な経験でやってみてよかったと思っています。その後、時間があったのでお世話になった各科の学生や先生に挨拶にまわり、連絡先を交換したり一緒に写真を撮りました。特に毎日通っていたエキゾのメンバーとのお別れは寂しかったですね。最後に日本のボールペンをプレゼントしました。またいつの日か会いましょう！本当にお世話になりました！

9/6（土）出発日
8 時 30 分：カーク先生に空港まで送っていただき、いよいよお別れの時間です。本当に本当にお世話になりました！こんな時に英語

でどういったらいいのかわからず、Thank you!! しか出てこなかったのですがきっと僕たちの強い感謝の気持ちは伝わったはず。アメリカの母のような存在になったカーク先生、また会いましょう！飛行機が離陸し、だんだん小さくなる町並みを見ながらこの実習期間のいろいろなことが思い出されました。言語のスピードについていけなかったこと、物や人の大きさに圧倒されたこと、エキゾ科にトラやハクトウワシが来た時の衝撃、たくさんの友達や先生、そしてお世話になったカーク先生…本当に来てよかった！さらば、そしてありがとうテネシー、楽しかったぜ！！

【追記：後輩たちへ】
最後にこれから研修に行くであろう後輩たちに僕がこの研修で気付いたことなどを記載します。
・生活面
基本的に食事は朝、夕はホテルのバイキング食です。昼食は朝ごはんをそのまま BOX に詰めて持って行ってもいいですし、学内に売店もあります。衣類は 3 着ぐらい持っていけばホテル内にランドリーがあるので大丈夫です。また、すぐ近くに大型のスーパーがあり必要なものは何でも売っているのでここで買い足すことも可能です。レストランもホテル周囲にたくさんあるので時間ができたら散策してみるのもありだと思います。バスタオルなどもホテルにあり毎日換えてくれるので数枚あれば充分です。（ちなみにチップは毎日 1 ドル置いておきました）帰りのことも考えると荷物はできるだけ少ない方がいいと思います。お金は現金で 6 万円分くらい持っていったのですが、今回はホテル代など先生にまとめて払っていただいて後日集金だったので、ほぼお土産と昼食代で使いました。カードがうまく使えない店もあるので現金はいくらか持って行った方がいいと思います。また、水着があるとホテルのプールやラフティングに使えるので役立ちます。

・病院実習
基本的にテネシー大学は 1 人が 1 つの科を担当します。なので言語は全て英語です。病院での普段の診療を見学させていただくという感じなので自分で積極的に質問しないと何をやっているのかわからないまま進んでしまいます。英語が話せなくてもスペルを書いてもらうなどしてどんどん質問しましょう。聞けば丁寧に教えてくれるはずです。また、今年度は最終日に英語でのスライド発表がありました。印象に残った症例などメモやカルテをもらっておくと役に立つと思います。

・最後に
テネシー大学はリハビリテーション科やエキゾチック科が有名なのでこれらに興味のある人はぜひ参加してもらいたいです。どの科でも学生が受け身の勉強ではなく能動的に仕事をしていて刺激を受けると思います。また、行く前には英語の勉強はもちろんですが、5V 前期の臨床の勉強をしておくことを強くお勧めします。勉強したことをそのまま現場で見ることができるでしょう。この研修は観光ではなく、実習に来ているので自分たちは日本代表、というくらいの気持ちで仕事をお手伝いすればきっと得るものも多いのではないでしょうか。ぜひ多くのことを学んできてもらいたいです。

川崎　輝世

8 月 23 日 (土)
出発
いよいよ待ちに待ったテネシー大学へ出発の

日！りかと合流して七戸十和田から始発の新幹線に乗って東京に行き、成田エクスプレスで成田空港に行った。他のメンバーと合流し、お世話になる先生方へのお土産を買って、最後の日本食をみんなで食べて、飛行機に乗った。
飛行機は映画も観れて、機内食も美味しく、快適だった。
アトランタで乗り換えし、大きなトラブルもなくノックスビルにつき、カーク先生が旦那さんと迎えに来てくださった。
自分のつたない英語でも聞き取ってくれて、とても優しい先生だなと思った。
ホテルにつき、モール内にあるスーパーのウォルマートでみんなで買い物し、お店が閉まる時間だったので、近澤先生がステーキを焼いてくれて、ピザとサラダと卵を食べながら飲んで喋った。
思ったより言葉が通じて、道中出会った人たちはみんな親切にしてくれた！
その夜はお風呂に入ってすぐに寝た。

8 月 24 日（日）
休日
今日は午前中はゆっくり朝ごはんを食べて、必要なものをウォルマートに買いに行った。13:00 にカーク先生に迎えに来てもらい、NationalPark に行った。
クマは見れなかったが、鹿と鷲を見れて、昔の開拓民の暮らしを見て回った。
帰りにみんなでカーク先生お勧めのソフトクリームを食べた。
テネシーは馬がケンタッキー州に続き盛んで、カーク先生も 9 頭飼っていると言っていた。
その後テネシー大学の動物病院へ行き案内してもらった。
専門分野ごとに部屋が細かく分かれており、施設も規模が大きくとても綺麗だった。帰りに夜ご飯としてメキシカンのファストフード店に行った。日本にはない感じのお店だったので、楽しかったし、美味しかった。
ポロシャツを持って来てなかったのと、大動物はスクラブの上がいるということでウォルマートへスクラブやシャツを買いに行った。

8 月 25 日（月）
大動物リハビリテーション
テネシー大学に馬のリハビリ施設はどれも大規模で、入院室も全て室内でとても快適だった。
午前中は lameness exam 室で後ろ右足悪いと思われる馬の検査をした。
機械を足、腰、頭に付けて、大きい運動場で跛行を見て、加重の状態を見て、局所麻酔をした後にどう変わるかを調べたり、エコーやレントゲンを撮って調べたりした。
レントゲンを見ると、関節が潰れたようになっていた。オーナーさんと治療費と合わせて相談していた。
午後はレントゲン画像で左膝の背側に穴の空いた症例で、これが腫瘍なのかどうかを調べるために次の日 CT を撮ろうというところで終了した。
予定より早く終わったためお店に行ってテネシーグッズを見て帰ってごはんを食べて、みんなで報告会をした。

8 月 26 日（火）
小動物内科学 1 日目
この日から 2 日間小動物内科学で研修！ここには今年卒業してインターンとしてテネシーに来てる小田先生と言う方がいた。内科では朝からみんなで一つづつストレッチを出し合ってみんなでやる習慣があり、楽しめた。その後、主にその先生について症例を見て回った。この日見たのは、AM3:00 に腹痛と呼吸の乱れで来た犬（MIX?）と咳で来た

トイ・プードルだった。ここでは主に学生が診断、検査、治療の方針を立て、Dr が相談に乗るという感じだった。検査系もそれぞれの部屋に分かれており、病院内のいろんなところを歩き回るという感じだった。レントゲンや麻酔は、オーダーしたらそれぞれの科の人が来て勝手にやってくれるという感じだった。全体的に受けた印象としては常にディスカッションをしていて、学生同士、学生と先生、先生とオーナー間で話し合いながら治療方針を決めて行くという印象を受けた。

8 月 27 日 (水)
小動物内科学 2 日目
この日の朝もストレッチから始まりミーティングをした後、それぞれの患者にとりかかった。この日私が見たのは前日に見たトイ・プードルの気管洗浄と新しく来た、下痢と腹水の子（MIX?）だった。
先生と学生でディスカッションしながら考えられる疾患と検査方法をあげていき、検査結果と照合しながら絞り込んで行っていた。
テネシー大学の動物病院は 2 次、3 次診療なため、原因が特定出来てない子が多く、いろんな方向から原因を特定して行くということだった。
ここでは毎日 15:00~17:00 まで全員でそれぞれのもつ患者の症例を考えるディスカッションをしていて、その時に各症例についての考え方を先生が学生に教えていた。学生がわからないことがある時はすごく丁寧に詳しく説明していた。病院内を見ていて新しかったのは、噛んだりしない限り極力カラーを付けていなかったことと（有料らしい）、手首に電極をつけてパルス音を聞いてパルスを測っていて、血圧もパルス音を聞くことによって測っていた。さらに採血も気管内洗浄も学生が行なっており、先生は聴診するくらいだった。カルテやオーナーに渡すカルテの要約のようなものも学生が全て書いていて、学生は先生と相談しながら患者の治療を進めていた。
学生の中にとてもフレンドリーに話しかけてくれる人がいて、たまに雑談しながらとても充実した 2 日間を過ごせた。

8 月 28 日 (木)
小動物リハビリテーション 1 日目
この日から 2 日間小動物のリハビリテーションの研修だった。
ここには学生は 1 人、ドクター 2 人、レジデントが 2 人と少人数だった。初めに入院患者の症状やストレッチ方法の説明をしてもらい、underwater treadmill という水を張った水槽の中で足や腰に負担をかけずに、抵抗をつけて歩くことで効果を期待する機械を使ったリハビリや、バランスボール、障害物などを用いたリハビリを見学した。IVD で下半身不随になったダルメシアンが車イスを使って歩く練習をしたり、バランスボールみたいなもなのでバランス感覚をつけたり、パテラの内側膝蓋骨脱臼の整復手術のあとのリハビリとして来ていた子もいた。ここでも学生の人がとても親切にしてくれて、とても楽しく、充実した時間を過ごせた。

8 月 29 日 (金)
小動物リハビリテーション 2 日目
この日はごっちゃんと 2 人でリハビリテーションの日だった。前日からいたパテラの手術 (TTT) をしたジャックラッセルテリアのケアで 1 日 3 回アイシングをやらせてもらった。この日は外来で前十字靭帯断裂の整復で TPLO をした子が 2 匹と FLO をしたブルドッグが来た。また、IVD の手術をしたミニチュアダックスが 2 匹車イスの練習や水泳、UWTM(underwater treadmill) をするために来ていた。

リハビリは主に犬で、猫は極たまに来るぐらいだと言っていた。また Hyper Baric oxygen という高濃度酸素室では膿瘍を持ったヨークシャテリアが二日前から試験的に来ていて傷の治癒力をあげるリハビリをしていた。この日は動物を持たせてもらったり、リハビリをさせてもらえた。

8 月 30 日 (土)
ノックスビル動物園
Booms day!
この日は朝少し遅く起きて午前中はノックスビル動物園に行った。動物園内の動物病院や檻の裏側などを見せてもらいながら説明してもらった。日本ではなかなか見ない展示や象の隔離施設などを見てとてもいい経験になった。
その後ホテルに帰って来てゆっくりした後夜の 9:00 からの日本で言う花火大会の Booms day! に行った。
アメリカの花火は日本のものとはちょっと違い、花火の合間がなく色合いも明るめのキラキラしたもので、余韻があまりかなったが、すごく綺麗で、とても盛り上がった。

8 月 31 日 (日)
Football Games!!
この日はテネシーの小動物内科でインターンをしている小田先生とみんなで近くのステーキレストランでお昼を食べていろいろお話をして、夕方からはフットボールの試合を見に行った。スタジアムはテネシー大学のメインキャンパス内の巨大なスタジアムで開催され、町中のショップでテネシーグッズが販売されていた。テネシーカラーがオレンジで、何日も前から町中でオレンジを身につけた人がフットボールの試合を待ちわびていた。この日スタジアムに行くと、スタジアムの周りはオレンジの服やグッズを身につけた人で溢れかえっていて、見ていた自分もわくわくして来た。スタジアムに入ると観客席はほぼオレンジ一色だった。相手チームの青色も少しはあったがホームグランドでほとんどテネシーのサポーターで埋め尽くされていて、相手チームはかわいそうなくらいアウェイだった。テネシーチームへの歓声と相手チームへのブーイングがとてもすごくて、スポーツ観戦をしたことがなかった私にとって目新しく、エキサイトするものであった。
結局試合は 31:7 でテネシー側の圧勝だった。帰りはマックでドライブスルーをして帰ってからみんなで食べた。アメリカのマックは日本のマックとほぼ同じくらいで、違いがほとんどなかった。

9 月 1 日 (月)
ラフティング
この日はすごく晴れて絶好のラフティング日和であった。
車で 2 時間くらいかかるところにアウトドアセンターがあって、そこで一通りレクチャーを受け、ライフジャケットとヘルメットを持ってバスで川まで行った。川の流れは速く、ボートに足でふんばっていないと振り落とされそうになる中、とてもスリリングでエキタイティングな時間を過ごせた。途中川の流れが穏やかな所で泳いだ。夜は和食レストランに食べにいき、買い物をした。和食レストランでは、お寿司や焼き魚などがあったが、味付けや使ってる食材などは完璧にアメリカンで、日本食という感じはしなかったが、味噌汁は美味しかった。

9 月 2 日 (火)
エキゾチックアニマル 1 日目
この日からエキゾチックアニマルの研修。行ったら最初にオポッサムの赤ちゃんを 2 匹触らせてもらい、車にひかれて甲羅が割れて

整復したカメ、保護されたリスなどのいる入院室を見せてもらった。外来では口腔内の腫瘍による歯の不正咬合のモルモットや総排泄口の飛び出たのを整復したリザードの経過観察などが来た。また、熊の展示施設から口腔内の腫瘍がある30才のブラックベアが来て、CTをしてから切除手術をした。この熊の腫瘍は両肺に転移していたが、物が食べれないほど口腔内を埋め尽くしていたためQOLのために切除したものであった。エキゾの人たちもやさしく丁質問に答えてくれた。

9月3日(水)
エキゾチック2日目
この日はノックスビル動物園にトラの往診に連れて行ってもらった。そのトラはくちびるに膿瘍が出来ていて、抗生剤を経口投与して経過を見ると言うことになった。その後もう一度霊長類のコーナーを案内してもらった。動物園のアニマルホスピタルに帰り年老いて足も悪くなったブラウンラットの安楽殺をした。
午後、大学の動物病院に帰ってくるとサーバルキャットの赤ちゃんが5匹いて、3匹は健康だったので帰って行ったが、2匹は呼吸器系の病気が疑われた。他にもウサギの赤ちゃんが8匹いて、群れで行動できるようにするためや、餌を自分で取れるようにするためなど野生に返すリハビリをするため、資格を持った人に引き取られて行った。また、車にひかれたうさぎも来て、後ろ足が全く動いてなかったため下半身麻痺を疑い、脊髄の何処かが悪いのだろうとさレントゲンをとって見ると背骨が折れていてどうしようもなく、ペントバルビタールを直接心臓に打って、安楽殺をした。

9月4日(木)
整形外科1日目
この日は股関節形成不全のボクサーの人工関節が外れてしまい、それを付け直す手術であった。手術時間は六時間半かかり、滅菌のため1度オペ室に入ったら終わるまで出入りできないよと言われ、途中でトイレに行きたくなって我慢するのに大変だった。手術自体はあまり見えなかったが、手術後に質問したらやさしく答えてくれた。オペ室に入るためスクラブを貸してもらったり、ロッカールームに連れてってもらったりとアニマルテクニシャンの方にもすごくお世話になった。

9月5日(金)
整形外科2日目
この日は手術はなく、以前に手術した患者達の経過観察だった。TPLOの手術をしたラブラドールや、骨折でプレートを入れたコッカースパニエルなどが来た。午後は研修の2週間のうちにみた症例の一つを紹介するプレゼンテーション発表があり、小動物内科学でみた症例の一つを発表した。夕方はカーク先生と小田先生と川沿いのお店でステーキを食べた。
夜はみんなでプールに入った。夜は帰国の用意をして、カーク先生に渡すアルバム作りをした。

9月6日(土)～7日(日)
帰国
とうとう帰国の日が来てしまった。早朝出発して、ゲートを通る時にカーク先生とお別れのあいさつをして、アルバムを渡したらとても喜んでくれた。
アトランタ空港でみんなでご飯を食べて、最後の長旅となった。
帰りも飛行機内のモニターで映画が見れて快適だった。日本に着くと、みんなで感想を語

り合ったりする間も無く解散となってしまい、意外と、あっさりだなぁと思った。
東京駅でご飯を食べて、そのまますぐ新幹線で十和田に帰った。
研修を通して
この2週間で、私は、アメリカという国やテネシー大学のアニマルメディカルセンターについて知る機会を得られたことにとても感謝しました。
アメリカ有数の大規模な動物病院であることと、アメリカの人たちの人柄や、やはり日本よりも獣医学のポジションやレベルが高いので、スタッフの数やシステム、症例数からして日本で見てきたものとは段違いでした。アメリカでは、学生が医療行為をできるため、ほとんど学生がメインで診察、治療方針などを決めていて、獣医師がバックアップをするという感じでした。私たちとはほとんど変わらない年齢の学生達なのにすごいなと思いました。テネシーには自然も多くて、アメリカらしい広大な土地も見ることができて、とても貴重な経験でした。先生や学生方がとても親切にしてくださって、充実した2週間の研修となりました。

武田　妙

8月23日

色々と心配だった私は、集合時間の3時間ほど前に成田空港へ到着し一番乗りしてしまいました。少しして近澤先生が到着し一緒に空港内で、テネシーでお世話になる方々へのお土産探しをしました。お土産は多めに買っていくのが良いと思います。個人的に小さい菓子なども買っておけばと後に思いました。全員空港に揃い、換金、チェックイン、食事を済ませた私たちは無事に成田を出発しました。12時間程の空の旅を満喫しアトランタに着きました。いよいよ税関を通ります。私は何者かと聞かれ、指紋と顔写真をとられました。少しだけ怖かったです。乗り継ぎの飛行機まで時間があったので軽く食事をしました。私のアメリカでの初めての買い物はクレープとスムージーでした。緊張しながらとりあえずメニューが見えないと言ってみたら、どんな果物が好きかと聞かれました。それからなんやかんやで会話が弾んだような気がします。欲しいものを手に入れたので買い物は成功です。次の飛行機に乗るときに小さなトラブルが発生しました。私の席にすでに人がいたのです。どうやら席がダブルブッキングされたようで私だけ置いてきぼりにされてしまうのではとドキドキしていました。一番奥に空きがあったので私も無事にみんなと飛行機に乗れました。ようやく目的地のノックスビルに着いた頃には夜の7時過ぎでした。しかしこの時期のアメリカは日が沈むのが遅く8時を過ぎても外は夕方の様な明るさでした。空港では、テネシーで私たちが最もお世話になるカーク先生が出迎えてくれました。優しそうな方でした。その日はホテルの近くのスーパーでピザや野菜を買い、皆でホテルの部屋で食べました。長い1日でした。

8月24日

お昼頃まで近くを散策したりし、午後は野生のクマを探しに国立公園のスモーキーマウンテンへ行きました。道路にシカがいたり、開拓者の家が残っていたり、何よりも遠くまで見える山々や広大な自然がとても綺麗で見ていて飽きませんでした。ただ、クマには会えませんでした。帰りにカーク先生がテネシー大学に寄ってくれ、私たちが次の日に行く予定の病院の各科を見せて回ってくれた。見たことの無い設備に興奮し、次の日からの実習が待ち遠しくなりました。

8月25日

実習初日、私は整形外科に行きました。アメリカの学生はこの日から学校が始まるようで、オリエンテーションを受けている最中でした。包帯の場所や、何をすればいいか分からなくなったときにどうするか、カルテの書き方などを説明していました。オリエンテーションが終わると早速患畜が入ってきました。先生が病態を説明して学生に指示を出しました。左足の骨折の治療をした子の包帯交換です。私も学生に加わり患畜の包帯を換えました。この日は1日学生のサラさんにくっついて行動することにしました。サラさんはこの日担当する患畜を迎えに行き、実際にオーナーと話し、先生と相談をして患畜に処置をし、カルテも書いていました。私は非常に驚きました。学生がもう患者をもつなんて責任重大だと思ったからです。でもこれはとても勉強になるし、絶対に身につくなと思いました。この日は手根骨を骨折した小型犬へのショックウェーブ治療、前十字靭帯を断裂している子の診断、などを見学したりやらせてもらったりしました。

6時になりその日の実習は終わりました。

8月26日

今日は前十字靭帯を断裂した子（マキシン）の膝関節内の内視鏡とTPLOを見学しました。プレートを使った手術を見たことが無かった私は、実際に間近で見て質問ができたのが嬉しかったです。内視鏡を使ったのは断裂した前十字靭帯と線維化した半月板を取り除くためだそうです。次に脛骨を切ってプレートで固定していました。後十字靭帯のみで足を曲げ、体重を支えることが出来るような角度に脛骨を固定していました。この日はもう一件、前十字靭帯の部分断裂の治療と膝蓋骨の整復術を見ました。こちらはプレートではなくワイヤーを使って治療していました。どちらも手術は先生と研修医の方がほぼ施して学生は閉鎖の縫合のみ行っていました。この日は手術を見学し、気づけば6時でした。

8月27日

この日は軟部外科に行き、肝臓の腫瘍切除、軟口蓋過長、鼻穴の拡張、口腔内腫瘍、眼球摘出術を見学しました。スタンダードプードルのゾーイは左の肝臓に7センチの腫瘍がありました。MRIを見せてもらったところ、腹側の左の肝臓の腫瘍により右側の腹腔が押しやられていて血管などが押し上げられて様に見えました。実際に見たら腫瘍は本当に大きく見え、丸々としていました。腫瘍は電気メスでとっていました。他の肝葉からはバイオプシーをしていました。続いて見たのはブルドッグの子の過長した軟口蓋の切除と、同じ子で鼻穴の拡張、口腔内腫瘍の切除、眼球摘出です。ブルドックは短頭種であるため軟口蓋過長はよく見られます。鼻穴の拡張もするのは、この次に行う手術での麻酔管理をする際、軟口蓋の切除のみでは十分な気道が確保できない子だからと言っていた気がします。口腔内の腫瘍は歯を覆っており、両方摘出していました。バイオプシーもして、ぽっかりと空いた空間は内頬の粘膜面に切れ込みを入れそこから伸ばすようにして覆っていました。眼球摘出術もじっくり見せてもらい、目の周りの筋肉、眼球の構造を私は必死に思い出そうとしたのですが私の記憶力はとても貧弱だったんだと思い知らされました。ホテルに帰ってからよく復習しました。

8月28日

今日からは内科です。内科ではアナという学生とインターンに来ていた小田先生が私の面倒を見てくれました。この日は耳の炎症、顔面麻痺を以前から患っているメインクーン

と、今まで貧血、腎臓病、胃炎、膵炎、血小板減少症、高血圧の治療をしてきたアメリカンショートヘアーのローリーの治療を見ました。どちらも経過観察で来院してきました。メインクーンの子は体重減少、縮瞳、心雑音が見られました。考えられるのは、甲状腺機能亢進症、心臓病、胃腸疾患、十分なカロリーを摂取できていないことです。オーナーには血液検査、エコー検査、ビタミン剤の投与という治療を提示したが、予算的に今回エコー検査は無しになりました。ローリーは血液のCBC検査と血圧測定をしました。

8月29日

今日は糖尿病と膵炎を患っているトイプードルのブロッサムが下痢の症状で来院してきました。ブロッサムはテネシーカラーのオレンジのワンピースのような服を着ていて爪には真っ赤なマニキュアが塗られていました。下痢の原因はハンバーガーとチーズ、ベーコンを食べたことです。食事は鶏肉などの低脂肪食を与えること、きちんと飲水させることを指示し、整腸剤と鎮痛剤を処方しました。午後は研修医の方が糖尿病について、学生と対話形式の講義をしました。インスリンの負荷試験や膵炎と糖尿病の関連など習ったことが沢山でてきて面白かったです。その後はその日あった症例のミーティングがあり、一つ一つの単語を聞き取るのに必死でした。

8月30日

今日は朝からノックスビル動物園へ行き、やっとクマに会えました。岩山で気持ちよさそうに日向ぼっこしていました。体長が1メートルほどのコモドトカゲ（メス）も見ました。オスのコモドトカゲは年下で体長がまだ30センチほどしかありませんでした。案内をしてくれたシューマッハ先生によるとこのオスもゆくゆくは体長10メートルを超える大人コモドトカゲになり、野生だったらシカなんかも食べてしまうんだとか。この他にも赤い鳥など色々珍しいものが見られました。さて、夜はテネシー大学の川沿いの花火大会へ出かけました。一言でいうと、ノンストップな花火でした。思いの他綺麗で見とれました。

8月31日

今日は小田先生をお招きして、アメリカになぜ来たのか、アメリカの大学について、結婚するならアメリカ人と日本人どちらが好いかなど楽しい話をしながらお昼ご飯を食べました。小田先生はきりっとしていて何だかかっこいい方でした。夕方はいよいよアメフト観戦です。スタジアムは巨大で、オレンジ色だらけで、チアリーダーはとってもかわいくて、試合は大盛り上がりでした。点数が入るたびにフィールドに走って出てくるワンちゃんがかわいかったです。

9月1日

テネシーと言ったらラフティングです。川の急流を間近で見たり、川に飛び込んだり、流された人を助けたりして驚くことばかりでした。一番驚いたのは乗り合いになった家族連れの中学生らしき女の子に私の年齢を教えた時の顔です。忘れられません。

9月2日

今日からは小動物のリハビリです。整形外科後の回復や、外科手術をせずに病態を改善させることなどを目的として患畜は来院してきました。患畜を水中で歩かせたり、バランスボールに乗せたり、患部をアイシングしたり患畜と触れ合うことが多くて楽しかったです。この科では学生のジェイクさんと再び一緒でした。実はこのジェイクさんという方は整形外科で知り合った学生さんです。当直明

けでとても眠そうでした。私は話の種に困り、あさってまでにプレゼンを用意しなくてはならないのだとなぜか私の当座の悩みを打ち明けました。そしたら先日私が手術を見学した子が明日リハビリに来るという有力な情報を手に入れました。ジェイクさんは面白いだけじゃありませんでした。

9月3日

今日は多田君も小動物のリハビリに来ました。今日は多田君がいたおかげでジェイクさんとの会話も弾みました。ジェイクさんが患畜にストレッチをさせていた時のことです。私と多田君は保定をしていました。ストレッチが少し痛かったのか患畜は私にきゃんと吠えました。それを見たジェイクさんは私に向かって“Mean girl!”と言ってきました。もちろん私は否定しました。“I'm very kind.”

9月4日

今日は主に一次診療やオーナーさんの対応、あるテーマでの話し合いなどに重点をおいたコミュニティプラクティスという科に行きました。今日の話し合いのテーマはペットの食事管理についてでした。一人の学生が進行役で、オーナーによるペットの食事管理の現状を話したり、他の学生の意見を聞いたりしていました。10時頃になり次は病院へ行き一次診療の様な業務に移りました。この日はジェニファーという学生について回り腎臓病を患った高齢の猫を診た。この子は食欲不振が続いており、がりがりに痩せてしまっていたため食道婁チューブを設置することになった。レントゲン室で胃の噴門部を確認しながらその場で設置しました。麻酔から覚醒するまで目が離せないので、猫と一緒にお昼にしました。午後は食道婁チューブに流す流動食を作りました。ホテルに帰ってもこの日は早く眠ることは出来ません。なぜなら明日は待ちに待ったプレゼンの日だからです。私は2週間の思いを詰め込んで、今までになく気合を入れてパワーポイントを作りました。気づけば朝でした。

9月5日

午前中は昨日と同じコミュニティプラクティスに参加しました。この日はたくさんの寄生虫の虫卵や、病態の写真を見て寄生虫の名前を当てるクイズの様なテストの様なことをしました。この後は昨日診た猫をオーナーに返してお昼にしました。この日は朝から気が気じゃありませんでした。いよいよプレゼンだ、と思いUSBを開いたらそこにはなぜかパワーポイントのショートカットがありました。ふむふむ、なるほど。私は誤って渾身の出来だったプレゼンを消してしまったようです。日頃からパワーポイントをよく使っていればこんな間違いはしないのだろうと後悔した私でした。仕方がないのでこの日のプレゼンは口頭でのみ行うことにしました。パワーポイントが無い私は見に来てくださった学生や先生の顔を見ながらプレゼンを発表しました。何とか身振り手振りをしながら私の番は終わりました。口頭だと観衆の顔が見られるので意外と良かったのかもと少し思いました。夜はカーク先生とインターンの小田先生とアメリカでのアメリカンな最後の晩餐を頂きました。

9月6日

朝7時半にホテルを出発しノックスビルの空港へ着きました。ここでカーク先生とはお別れです。テネシー組のみんなで作ったアルバムを渡して、最後に握手をして別れました。カーク先生には大変お世話になり、ラフティング等も一緒にした仲だったので別れるのが本当に悲しかったです。ノックスビル空港で飛行機を待っている時偶然隣に座ってい

た女の方に話しかけられました。私は何だか嬉しくて、頑張ってたくさん話そうとしました。そろそろ英語を使う機会が減っていくと思うと、悲しくなりました。気づいたらアトランタに着き、アイスを食べ、機内で観られる限りの映画を観て、気づいたら成田にいました。早く納豆と海苔とご飯が食べたいなと思いながら新幹線に乗っていました。しかしこの時から私の頭の中には一抹の不安がありました。アパートの鍵はどこにしまったのだろう。七戸十和田の駅でスーツケースを開けて探しても見つからず私は少しブルーでした。しかし、川崎さんのアパートで再び探した結果無事鍵が見つかりました。最後の最後までみんなに心配をかけた私のアメリカ研修はこの時やっと幕を閉じた気がします。たくさん英語を使えて、貴重な経験もたくさん出来て忘れられない2週間となりました。

田中　梨香

Radiology (8/25-27)

X線撮影：撮影前にdexdomitorなどの鎮静剤で鎮静し、用手保定ではなくロープやサンドバッグなどを使用する化学保定で撮影を行う。鎮静剤の投与時には保定も行ったが、投与もさせてもらえた。

撮影にノギスは使用せず、目視で体の厚みに合わせて4段階に分かれた管電圧と管電流時間を選択していた。

下痢のMIX犬と削痩のS・プードル、右脛骨近位骨折の術後経過観察のブルドッグ、肥満細胞腫と尿石のあるボクサー、発作のMIX猫、慢性下痢のダルメシアン、レッグペルセスのラブラドール、TPLOの術後評価のラブラドール、術後の細菌感染の疑いのあるボクサーなどに加え仔アルパカの前肢跛行、左後肢に創傷のあるトラ、銃創のあるラブラドール、総排泄口の閉塞の疑いのあるリザードなど、北里ではなかなか見ることのできない症例をたくさん見ることができた。

透視では気管虚脱疑いのプードル、慢性嘔吐のラブラドール、TPLOを行った黒ラブラドールの術後評価、気管虚脱疑いのポメラニアンを見ることができた。慢性嘔吐のラブラドールはドッグフードに造影剤を混ぜて食べさせ、食べ物の流れを透視で観察していた。噴門付近が狭窄しており、なかなか食べ物が胃に入っていかなかった。

超音波検査：基本的に使用しているプローブや臓器の検査順番は北里と変わらないが、腹部の検査ではリニア型のプローブも使用していた。削痩していたプードルは脾臓が大きくなり、右の副腎にシストがあり、腹痛・下痢が主訴だったMIX犬では結腸が炎症を起こしていた。

ケースリーディング：撮影などに入る前の8－10時は学生によるケースリーディングが行われる。教授から予めそれぞれ違う症例のフィルムを渡されており、フィルムを見て所見を述べたあと教授の質問に対して答えていた。股異形成の仔チワワ、肘突起癒合不全のラブラドール、レッグペルセスのヨーキーなどが紹介されていた。

CTスキャン：馬と熊の撮影を見ることができた。馬にはトリプルドリップで麻酔を行っており、手根骨の評価を行っていた。熊の方は口腔に腫瘍疑いがあったため、頭部を撮影し、腫瘍の転移評価を行うため、胸部、腹部も撮影を行っていた。

Large Animal Rehabilitation (8/28.29,9/2)

ここでの診察は全て馬だった。アメリカでは馬をペットとして飼っている家庭が多いため、需要もそれだけ多いのだろうと感じた。リハビリに使用する装置や跛行の状態を精査するための装置など設備が豊富にあり、ス

ケールの大きさを実感した。
Theraplate という治療ではプレートの上に馬が乗り、そのプレートが振動することで血流を促進し、傷の治りを早くすることを目的として 1 日に 2 回朝夕に乗せていた。
Underwater Treadmill は馬を水の中に半分ほど浸からせて、トレッドミルの上を歩かせることであまり負担をかけずに歩行させ、手術後のリハビリやショーに出るためのシェイプアップを目的として使用していた。
それ以外にも体の各所に痛みを持つ馬にそれぞれの臓器に効くツボのような場所に専用の針を刺す針治療をみることができた。
跛行の精査には Lemeness Locator という装置で馬の頭頂部と腰部、右後肢に動きを探知する機械を取り付け、並足、駆足をさせて専用の機械でどういった跛行を行っているのかを調べていた。その他、この大学には専属の蹄鉄工さんがいて、蹄鉄の交換や蹄病の術後に専用の蹄鉄を履かせたりしていた。蹄叉腐爛に罹った馬には蹄と蹄鉄の間に馬蹄用充填材とゴム製パッドを挟んでおり、充填材にはウレタン樹脂に硫酸銅五水和物が入っていて、水分を吸収し、蹄を快適な環境に保つ工夫がなされていた。
診療日ではない日 (8/29) は入院している馬のリハビリのみであり、いろんな症例をみることができないため、教授が他の科を案内してくれた。この日は大動物外科がナビキュラー病の手術を行う日でその手術を見学した。クロルヘキシジンなどで滅菌作業を行った後は円鋸で蹄間と蹄底を切り、切った部分を鉗子で取り、ナビキュラー骨まで ultrasonic を使用して洗浄を行い、その後閉創を行った。

Oncology(9/3-5)
この科はその名のとおり腫瘍に罹った患畜が来るところである。治療する患畜は前日に決まっており、全身の触診や聴診に加え、患畜によって尿検や生検、X 線撮影や CT スキャンを行う。
治療は化学療法と放射線療法に分かれており、大半が化学療法による治療であった。
化学療法を受けた症例は甲状腺肉腫、リンパ腫、口腔内骨肉腫、肥満細胞腫、レッグペルセス、乳腺腫瘍、移行上皮癌などがあった。
治療にはビンクリスチン、シクロフォスファミド、ドキソルビシン、カルボプラチンなどを使用していた。
放射線治療を受けた症例は肥満細胞腫、扁平上皮癌などがあった。分割照射は 4 回や 16 回などと治療によって回数が異なるが、16 回の場合は毎日低線量を照射していた。麻酔は行わず鎮静のみ行ったあと、目的の部位に照射していた。

Oral Presentation　(9/5)
ローテーション最終日の午後は 1 人 10 分口頭発表の機会が設けられた。
私は腫瘍科のローテーションの時に出会った口腔内骨肉腫のゴールデンレトリバー、モリーの症例を発表した。
彼女の生年月日や犬種、TPR などの基本情報、病歴、検査結果、診断、治療法などをパワーポイントによって紹介し、考察を述べ、UT（テネシー大学）の方々へ感謝の気持ちを伝え、自分の発表時間は終わった。
彼女の治療のメニューには Oncolytic Viruses という腫瘍溶解性のウイルスを使用したものが含まれており、この治療法は正式に治療法として確立されていない研究段階の治療であり、興味深かった。
腫瘍科に置いてあったテキストや図書館にある本で調べ物をして、カルテを見せてもらって情報をまとめ、当日の発表ではモリーの腫瘍の写真や CT 画像を使用して説明することで自分の口頭説明では補いきれない部分をカバーしたつもりだったが、本番では原稿を覚

えきれず、カンペをなんどもチラ見してしまい、なんとも聞き苦しい発表になっていたのではないかと思われる。ただ、ベストは尽くしたつもりなので後悔はしていない。(笑)

その他…
土日、祝日は動物園の見学、BoomsDay と呼ばれるテネシーの夏祭り、UT のアメフト観戦 、ラフティングをして休日を思い切り楽しんだ。詳細はきっと他の人が書いてくれていると思うので割愛しようと思う。
放射線科にお邪魔していた 8/25-27 には UT の最終学年である 4 年生の数人がローテーションで回っており、気さくに話しかけてくれて仲良くさせてもらった。
彼らが Foods Day というポトラック（食べ物の持ち寄り）に誘ってくれたので私は日本料理であるつくねを持っていくことにした。早速スーパーにいって材料を探し回った。欲しかった材料を全て揃えることはできなかったがなんとかつくねらしきものを作ることができたのでそれを大学に持っていった。みんなにこの料理は何かと聞かれ、説明に困ったので Japanese Hamburg と言っておいた。(笑)
お世辞だと思うがみんなおいしいと言ってくれたので嬉しかった。アメフト観戦も一緒に行こうと誘ってくれたが、色んな人に迷惑がかかりそうなのでやめておいた。しかし彼ら UT の学生と外で遊ぶ機会なんて滅多にないので少し後悔している。なので将来アメリカに行く機会を作り、彼らに会いに行こうと思う。英語と貯蓄のスキルを高めて。

多田　成克

8 月 23 日　土曜日
成田空港を出て 12 時間ほどでアトランタ空港、その後 1 時間ほどでノックスビル空港に着いた。空港内は寒いが外は日本と同じように暑いと感じた。ノックスビル空港でカーク先生が迎えてくれた。優しく話しやすい印象を感じた。その後、ホテルまで車で送ってもらった。夕食はウォルマートに肉やピザ、お酒を買ってホテルの部屋で料理して食べ、深夜までお酒を飲んだ。

8 月 24 日　日曜日
午前中はロビーで朝食をとり、近澤先生、後藤とホテル付近の店に買い物をしに行った。昼食はそのメンバーでヌードルショップに入った。消しゴムのような麺がでてきた。美味しくないと感じ、ホテルに帰った。その後 1 人でプール入った。午後はカーク先生とグレートスモーキー山脈国立公園へ行った。この公園は世界遺産であり、クロクマの集団やサンショウウオがいることで有名だが見ることができなかったが、鹿やコウモリに出会った。また先住民のかつての住処などがあった。個人的には白神山地より森は深くないと思ったが規模が大きくアメリカらしかった。その後テネシー大学をまわって場所の予習をしてホテルに帰ってプールに入って寝た。

8 月 25 日　月曜日
今日はローテーションの 1 日目、ラージアニマルリハビリテーションの日である。右後肢が原因で跛行している馬が来た。lameness locater という装置を頭頂部、腰部、右前肢に付けた。これにより教授のタブレットに脚の左右の動かし方をグラフ化と数値化したものが送られ、見られるようになる。この馬では右後肢の動きが強かった。その後、馬をマッサージし、さまざまな方法で歩かせたが改善が見られず、ブピバカインにより飛節付近の局所麻酔し歩かせた。そうすると改善した。レントゲンを撮ると、やはり飛節付近に関節

鼠が見られ、それが原因で跛行をしていた。今日は1日目で初めて英語に囲まれ時間を過ごした。はっきり話さないと無視されるし積極性がないと何も教えてくれず、その逆で何かしら尋ねると学生もドクター達も親身に指導してくれることがわかった。

8月26日 火曜日

ローテーション2日目、今日もラージアニマルリハビリテーションの日である。左膝が腫れている馬が来院した。身体検査の後、CTをすることになり、麻酔をした。この時、使用した麻酔は日本の馬の麻酔でも使用するTripleDrip法であった（日本がアメリカの方法を取り入れたのだと思う）。これはキシラジン、ケタミン、グアイフェネシン混合液を用いた方法である。その後、専用の部屋に入れ、暗くして起き上がるまで待った。その後体温が下がったので馬専用の大きなヒーターで体温をあげて馬の部屋に戻した。CTの結果で橈骨遠位端の骨片骨折がみられた。重いソリをひかされていたためらしかった。他にアンダウォータートレッドミルをやっている馬を見た。その馬は肥満気味で脚にかかる負荷を減らして運動させるのが目的だった。テネシーの人たちは愛玩用に馬を飼っていて馬の医療が身近であり、ラージアニマルはほとんどが馬の診療であった。

8月27日 水曜日

今日はローテーション3日目、コミュニティプラクティスであった。コミュニティプラクティスでは基本的にクライアントと学生の問診をビデオに撮って、それを学生達で見て意見を言い合うということをしている。しかし水曜日はそれがなく午前は避妊去勢をして、午後は別の作業をしている。したがって今日の午前は避妊手術を見せてもらった。今回手術を行ったのはシェルターの犬である。テネシー大学には寄付金によって成り立っている大きなシェルターがあり、そこに犬、猫などが飼われている。手術はまず、ヒドロモルフォンという日本では未承認薬の麻薬性鎮痛剤を筋注。その後、挿管をし、プロポフォール、ケタミンを注射、イソフルランで維持しながら卵巣摘出をしていた。避妊作業は1匹に対して、1人か2人の学生がすべて行っていて、ところどころに先生の指導が入る程度であった。午後は犬、猫などの糞便検査をし、寄生虫を当てるというものをやった。自分の見た糞便にはイソスポラフェリスがいた。これは日本の実習と似ていると思った。

8月28日 木曜日

ローテーション4日目、今日からはエキゾチックアニマル。エキゾチックアニマルはオーナーのペットとしてくるものと野生動物としてくるものに分けられる。まず鹿がきた。道路で弱っているところを連れられてきた。心臓にペントバルビタールを注射して安楽死をさせた。午前はほかにプレーリードッグ、モルモット、オウム、インコ、ウサギ、リスがきた。午後はハクトウワシがきた。ハクトウワシはアメリカの国鳥で猛禽である。3年前の骨折の経過観察できていた。骨折はプレートもワイヤーもなしで自然治癒を行ったものだった。目と爪を隠し、イソフルランを投与してレントゲンをとった。治癒経過が良いのでリリースするとのことであった。テネシー大学ではエキゾの治療は寄付(donation)からお金がでている。野性動物などを大学病院に迷わずに連れてくることができるのは良いことだと思った。

8月29日 金曜日

ローテーション5日目、今日もエキゾ。まず拒食症のチンチラがきた。口の中をスコープでみると、臼歯の噛み合わせが悪く、不正

咬合によって食べなくなったのだと判断し、歯を削った。そのほかにも今日はウサギ5件、歯を削った。歯以外ではリスの赤ちゃんがきていた。犬に噛まれていたので牙穴を縫合した。大学周辺にはリスが住んでいる木があり、探すとすぐリスをみることができる。しかし犬や猫はリスが好きらしく、エキゾでは犬猫に捕まえられ傷つけられて大学病院にくるものが多かった。

8月30日　土曜日
午前はノックスビル動物園に行った。学生たちで連れて行ってくれとお願いし、シューマッハ先生が動物園内を案内してくれた。ヤドクガエル、コモドオオトカゲ、ガラガラヘビ、リクガメなど両性爬虫類が充実していて、緑も多く楽しい動物園であった。日本よりも混んでおらず快適だった。午後はブームスデイに行った。これのメインは花火である。アメリカの花火は日本のように小休止がなく、始まってから終わるまで連続で打ち上がった。後半の激しい連続した花火は日本では見られない風情のない圧巻のものだった。

8月31日　日曜日
アメリカンフットボールとは楕円形のボールを用いて1試合60分の得点を競い合うゲームである。試合は4回の攻撃で10ヤード進むというのを繰り返し、相手の陣地に攻め込んでいくというものであり、そこでオフェンスとディフェンスのいろいろな駆け引きがある。その中で見られるパワーのぶつかりあいや、ランプレー、オフェンスの花形であるクォーターバックのロングパスなどが魅力の1つだと思う。アメフトは日本では想像できないほどアメリカで盛んに行われているスポーツである。大学同士の試合というだけで10万人ほどの観客が集まる。北里大学のスポーツでそれだけ人を集める試合はない。日本のアイドルグループ嵐の国立競技場での収容人数が約7万人であり、それよりもはるかに多い。個人的にはサッカーのほうが好きだがアメフトにはアメフトの良さがあった。アメリカ人は相手をなぎ倒したり、外に表現するというようなスピリットのこもったプレーが好きで、日本の剣道、柔道のようにガッツポーズをしてはいけない精神とは違うと感じた。アメリカは大学内で生徒は先生の質問などにどんどん答えていき、いつも自信に満ちているように見える。外に表現していく積極性はアメリカ人の良さなのだとこの試合で感じた。またスタジアムで10万人の客と一緒になって応援する経験は日本では得られないと思った。ぜひアメリカを訪れた際はアメフトの試合をみてほしい。

9月1日　月曜日
ラフティングをした。6人乗りボートにガイドを1人乗せて、楽しい川下りである。自分は最前列に座らせてもらった。非常にエキサイティングであった。

9月2日　火曜日
ローテーション6日目、オポッサムが入院していた。母親に噛まれたらしく縫合してあった。また交通事故で甲羅骨折、左前肢欠損のリクガメもいた。甲羅骨折の治療を終え、入院していた。骨折した甲羅をワイヤーのようなものでつなぎ甲羅を粘土のようなもので固定していた。午後はブラックベアーの口腔内マスの切除を見せてもらった。動物園からきたブラックベアーで食欲不振があった。口から非常に大きい腫瘍が取れた。転移を見るために胸腔のCTをとると両胸に転移があった。麻酔が覚めてから動物園にベアーを返していたが先生達は高齢で腫瘍があるのということでブラックベアーを今後どうするか話し合っていた。

9月3日 水曜日　9月4日 木曜日
ローテーション7、8日目。スモールアニマルリハビリテーションである。テネシー大学はリハビリに力を入れていると聞いていたので楽しみにしていた。ここでは学生が1人しかおらず自然と仲良くなった。テネシー出身でなまった聞きとりにくい英語をしゃべるMr.Jakeである。Jakeの英語はわかりにくいので何度も聞き返しながらいろいろな設備を見せてもらった。トレッドミル、アンダーウォータートレッドミル(UWTM)、プール、バランスボール、バランスボード、ハードル、ショックウェーブなど。リハビリではかなり多くの症例がUWTMを利用していた。膝や腰が悪い肥満の犬たちはUWTMで四肢の荷重による負荷を減らして運動させることができるからである。後肢がまったく動かない犬はウィールをつけて移動が可能なようにしていた。

9月5日 金曜日
ローテーション9日目最終日。スモールアニマルリハビリテーション3日目。今日もヘミラミやTPLOの術後の犬がきてリハビリをした。足の内反した犬のショックウェーブもやらせてもらった。
午後は症例発表をした。これはあらかじめやると近澤先生に言われていたもので、このローテーションでみた症例を先生や生徒の前で発表するものでパワーポイントを作製し、自分はエキゾでみたハクトウワシの症例についての発表をした。

アメリカでは投薬や採血などの医療行為を学生が行い、実際に診察し、診断や治療方針の決定などを行う。また各科が日本の病院よりも細かく分業されている。また学生の意識の高さに驚かされた。短い期間であったがとても刺激を受け、多くのものを吸収し成長することができたと思う。引率の近澤先生、アメリカでお世話してくださったカーク先生にはとても感謝しています。

米国三大学夏期研修に同行して

2014年度テネシー大学同行教員
小動物第2内科学研究室
近澤　征史朗

今回の研修を無事に終えることができたことに対し、国際交流委員会ならびにテネシー大学関係者、研修に参加した学生の皆様に対して心より御礼申し上げます。また、今回の海外研修は実りの多い素晴らしいものになったことを同行教員としてここに報告いたします。

以下は本研修の報告に添えて私が同行教員の任を遂行する過程で感じたことを日記形式で書き連ねておきます。この記録が今後の研修に少しでもお役にたてれば幸いです。

渡航前
いよいよ米国研修が始まる。同行教員の要請は一昨年度から学部国際交流委員会から何度か声をかけていただき、今回ようやくお受けすることになった。正直言うと学会および卒論前の慌ただしい時期に2週間の不在を作ることはあまり歓迎するものではなかったが、お受けする以上は責任を果たすことを誓った。そんな中で一抹の不安があった。私自身、日本から一度も外に出たこともなく、英会話もできず、そんな者が外国で学生の安全を守る責任が果たせるのか？という点であった。そんなプレッシャーを感じつつ、旅支度を進めた。自宅では長い海外生活の経験がある妻から日本とは異なる海外での身の危険を耳にタコができるほど聞かされ、脅され

るような気持ちで出発の日を迎えた。渡航前は3度の狂犬病ワクチン接種、パスポートの用意、電子渡航（ESTA）申請、保険の申請、旅券の確認など様々な準備があり、国際交流委員の先生方には多大な労力でサポートしていただいた。

テネシー大学の研修学生はTeruyo（2外科）、Takuya（解剖）、Junko（病理）、Tae（生理）、Shigekatsu（薬理）、Rika（放射線）の6名。個性的な面々が揃い、お互いに楽しく充実した2週間になることを期待した。

8月22日（出発前日）

いざ成田へ

十和田を立ち、成田で前泊。この日は新校舎の竣工式があったので少しばかり出席させていただいた。新校舎建設までの計画や施工の道程および建設に携わった人達の苦労話などハートフルな話を聞くことができ、感慨深い気持ちで出発…のはずであったが、直前になって入院患者の対応や実験の問題などが重なってかなり慌ただしくなり、予定をずいぶん押しての出発となった。前泊地の成田へは深夜に到着した。

問題①　国際便の座席予約

出発便はデルタ航空であったが、デルタは24時間前からウェブでチェックインと座席指定が可能とのことをJTBから聞かされていた。しかし、24時間前に手続きをしようとしても必要情報が登録されただけでチェックインも座席指定もできなかった。フライト当日に窓口で確認したところ、原因はよく分からないとの回答で日本の航空会社との対応の差を感じた。結果、学生はある程度固まった席であったが、私だけ4人掛けの中席と非常に窮屈な席での往路となった。

8月23日（出発）

お土産

空港集合は13:30。その前に私はTaeと合流してテネシー大学でお世話になる現地の方々への手土産を購入した。海の向こうの人々に何が喜ばれるのかよく分からなかったので、事前情報と自分の感覚を信じて以下の物を購入した。

蒔絵柄のボールペン、金平糖、和紙の折り紙、お菓子、一般的な文具

結果的に、ホストのKirk先生にはボールペンと折り紙で折った7羽の鶴、金平糖を渡し、とても喜ばれた。鶴は彼女のオフィスに飾られていた。その他は各々がお世話になった方や仲良くなった学生に渡し、それなりの数と量は必要であった。文具はグループ全員分を揃えるのは難しいのであまり適さない。

機内

全員が定刻前に集合し、約12時間のフライトに挑んだ。前述の通り座席は私だけが遠く離れた。私は性格的に環境変化への対応力が弱く、長時間の窮屈なフライトなどリラックスできるはずはなかった。加えて座席は主翼の上であったためエンジン音が大きく、案の定仮眠もできず12時間のフライトをひたすら耐えることになった。この日は私の人生で最も映画を多く見た（5本連続上映）日になるだろう。一方、そんな教員を尻目に学生は皆が機内で熟睡したと聞き、若さなのか性格なのか、うらやましい限りであった。

アトランタ空港〜ノックスビル

アトランタ国際空港へは現地時間8月23日15:20頃、ほぼ定刻に到着した。私は機内の窮屈さに体力を使い果たしたはずであったが、海外に来た興奮からか、見えぬ敵から学生を安全に移動させなければならないという初心者ならではの警戒心からなのか、全く疲

労感なくアメリカ国内に入った。入国審査をスムーズに通過し、4時間の乗り継ぎ時間で余裕をもって国内便に搭乗した。ノックスビル空港への便でTaeの座席にWブッキングが生じたこと以外は特に大きな問題なく現地入りした。現地時間は20:00であった。

現地の緯度は北緯約35度で日本の滋賀県大津市と同じらしい。サマータイムのためか20：00にしては空が随分と明るかった。昼間に日本を出発し、長く飛行機に揺られて着いたらまだ明るい、という「時差」を初めて体験した私は文明の利器に感動を覚えながらの現地入りであった。因みに時差は飛行機が発明されてから初めて人間が感じた驚愕の体験であったのだろう、時差ボケのことを英語で「jet lag」と呼ぶのはそのためだとか。

空港にはテネシー大学のDr. Craudia Kirkが出迎えてくれた。恰幅の良いその御夫人は気さくに我々を迎え入れてくれ、研修期間中大いにお世話になった。Kirk先生は我々をホテルに送り届け、今後の滞在予定などを細かく計画・説明してくれた。ホテル生活とその周辺の様子については学生の報告に譲る。翌日は旅の疲れを配慮していただき、13：00からKirk先生の案内でテネシー州の国立公園を見学することになった。

8月24日（休日）

不眠

前日の夜から私は時差ボケの影響であろう、部屋は非常に快適であったが案の定ほとんど寝られなかった。前日から考えると30時間ほど寝ずに過ごしたことになる。ようやく深夜2時頃に眠りについたが、予想通りの適応の悪さで5時に目が覚め、全く寝付けなかった。しかし不思議と目立った疲れはなく、後が怖い気がした。ホテルには備え付けのフィットネスルームが完備されており、朝から少しルームランナーでランニングなどをやってみた。とても静かで、過ごしやすい宿舎である。

結果的に私は時差ボケへの対応に約1週間要したことから、不安のある人は早めにメラトニン（ホテル近くのWalmartにて購入可能）などで生活リズムを調整した方が良いと思われる。

Great Smoky Mountains 国立公園

午後はKirk先生に宿舎から1時間ほどの場所にある国立公園を案内していただいた。そこはアメリカ国内でも有数の自然豊かな公園だ。落葉樹を中心とした古い原生林が残り、秋には八甲田のような山一面の紅葉が見られるそうだ。公園内は一方通行になっており、車で全周1時間程度のコースを回った。途中にはこの地を100年以上前に開拓した人々の家や教会などが史跡として点在し、当時の厳しい生活環境を知ることができる。アメリカの開拓精神の象徴とも言える貴重な史跡であろう。途中の山中では自然のアメリカクロクマの群れが見られるとのことであった。クロクマはツキノワグマとヒグマの中間の大きさで、丸い耳、全身の黒い毛、茶色の鼻が特徴だ。しかし、非常に運が悪くこの日は特に暑く、クロクマを見ることはできなかった。クマは見られない方が珍しいとのことでKirk先生も恐縮していたが、個人的にはとても満足な一日であった。

8月25日（研修初日）

昨夜は早く就寝したが深夜2時頃に目が覚め、そこから眠れる気配もなくデスクワークを始めた。研修日誌の作成、卒論の添削、帰国後の学会用スライド作成など個人的な仕事はとても多かったので、研修期間中に暇を感じることはなかった。朝7:30にKirk先生がホテルまで迎えに来てくれた。大学までの道程は約30分、ハイウェイを通って大学へ

向かう。大学の附属動物病院に到着した学生達は、各々の研修予定の科に配属された。学生、インターン、レジデント、教員で構成される多くの診療科はそれぞれ豊富な人材と設備を要し、充実の体制が構築されているように感じられた。獣医師という職業における日米の社会的地位と文化と歴史の差を垣間見た気がした。

獣医学教育

私はKirk先生の計らいで1年生が初めて行う実習を見学させてもらった。実習内容はシェルターから来た子犬・子猫の一般検査と各種ワクチン接種であった。欧米の獣医学教育が実践的に発達していることはよく聞いていたことだったが、実際に見るのはもちろん初めての経験であった。総じて見てみると、当然のごとく1年生の動きや反応は日本の獣医学生と大きな差はないと感じたが、病院で診療に携わるようになる4年生の態度や振る舞いは本物の獣医師と言われても違和感がない程であり、その根底にある米国の教育システムについて興味が沸いた。以下は私個人的な感想として。

アメリカでは学生がよくディスカッションをしている場面を目にする。他との議論によって自分のレベルを確認する機会が米国ではとても多いのではないか。一年生の実習にはインターンや熟練のテクニシャン、4年生が学生2～3人に対して一人配置され、身体検査の方法や意味について盛んに議論が交わされていた。それに応える上級生にも相応のスキルと準備が必要であり、実習に参加することによって更に知識が固まっていく、という好循環ができているように思われた。また、実習自体のシステムにも驚いた。実習に使用される犬は近くのシェルターで保護された幼犬を用いており、その犬に対して実践的な身体検査、糞便検査、ワクチン接種を行う。学生にとっては自分たちが行った検査結果がシェルター犬の運命を左右するプレッシャーも重なり、実習のモチベーションの向上につながっているように感じられた。つまり、シェルターと大学教育の相互利益の中で実習が成り立っており、基礎的な臨床スキルがそのような恵まれた環境の中で構築されるため、非常に効率の良い実習になっていると思われた。

臨床ローテーション

この時期はテネシー大の新4年生が初めて本格的な臨床実習を行う新学期の時期と重なる。各診療科を数名の学生が振り分けられ、1～2週間毎に科を移動しながら実習を行い、研修学生もこのローテーション学生と一緒に希望の科に配置された。英語のみの環境に放り込まれる形なので、研修学生がその雰囲気に圧倒されているのではないかと思ったが、情熱溢れる態度で研修に積極的に参加している様子が見て取れたので、取り越し苦労であったと安心した。研修学生はその後、私よりずっと早く英語のリスニング能力が上がっていったため、追い込まれた環境は人が何かを得るのに重要なのだということを改めて教えられた。

問題②　大学での服装、必要だったもの

ドレスコードが事前に指定されていないテネシー大では私も含め服装の詳細は分からなかった。結果的に学生は外科と大動物ではスクラブ（上下）が必要で、その他は白衣で問題なかった。インナーはYシャツか襟付きシャツ、下はカジュアルでないパンツスタイル、靴は足先が出ていないもの（華美でないスニーカーで可）が指定された。もし持っていなければ快く貸与してくれたが、やはり持参していった方が無難と思われた。その他、聴診器は内科や大動物で使用する可能性が高

いため持って行った方が良いだろう。

8 月 26 日（研修 2 日目）

前日は夕方に強い睡魔が襲ってきたので、時差ボケの修正にメラトニンを服用した。前日に 1 錠（10mg）服用したが、効きすぎたせいか翌朝寝過ごして学生に起こされるという失態を犯してしまい、朝食抜きで大学に行く羽目になった。すごい効果だ。メラトニンの服用は人によると思うが私の場合は 5 ~ 7.5 mg/ 日が適量と思われた。

Oncology

この日は午前中に Oncology の診療風景を見学させていただいた。この診療科は教員 3 名、レジデント 2 名、インターン 2 名、テクニシャン 5 ～ 6 名、ローテーション学生 2 ～ 3 名の大所帯である。主に化学療法と放射線療法を担当しているとのことであった。診療前に毎週行っているという論文の査読会にも参加させていただいた。何を言っているのかはほとんど分からなかったが、複数の関係する獣医師が集まっての意見交換は全体のレベルアップや意思統一に大変効果的であろうと感じられた。せっかくなので質問もし、返答は何となく伝わったが疑問は多く残ってしまった。これが言語の壁というものだろう。

診療は担当の学生と獣医師が予め決められていて、その症例に対してのアプローチを学生が主に考えながら進めていくスタイルだった。獣医師および教員は学生とのディスカッションを通してサポートすることに徹底していた。私が見た学生は臨床ローテーション 2 日目であり、学生達からは不安そうな表情が少しばかり見られていたが、非常に積極的に獣医師とディスカッションを行っている姿が印象的であった。学生に聞いたみたところ、毎日がとても忙しく大変とのことであった。

図書館

日本での多くの個人的な仕事が蓄積していたため、大学での時間の多くは図書館でデスクワークに当てた。図書館では飲食や雑談が可能なエントランススペースと、奥にある私語厳禁の図書スペースに区切られており、多くの学生がパソコン片手にレポート作成や勉強に励んでいた。とても大きな施設だったがこの場所は獣医学部と農学部専用の図書館というから驚いた。

8 月 27 日～ 8 月 29 日（研修 3 ～ 5 日目）

私はこの頃から生活リズムが少しずつ整ってきたように感じ、日中の眠気が減り、思考が回るようになってきた。私はこの日から学内での多くの時間を図書館でのデスクワークに当て、時々授業や学生の研修風景を覗きながら学内を過ごした。昼食は病院の上階にファストフードを売っている購買部があり、そこでホットドッグなど買って済ませた。食事は正直に言うと全ての味が濃く大味、単調であり、1 週間かからず飽きていた。人間にとって「食」とは成長期に本能へ刷り込まれる重要な発達過程の一部らしく、私が日本食で育った日本人であることをここで改めて実感した。総じて、学内での生活は快適で仕事もそれなりに捗った。

Dr. Fry との昼食

27 日の昼は臨床病理学研究室の Dr. Michel. M. Fry との昼食を Kirk 先生が手配してくれた。Fry 先生は 4 年ほど前に本学へお招きした経緯があり、加えて私の研究で頻繁に引用する論文の責任著者である先生だ。Fry 先生は過去の来日時のことについて何度も御礼を述べられていた。2 人で市内のステーキハウスに行って驚くほどの大きなステーキを食べ、私は満腹だった。その間、Fry 先生とは終始お互いの研究について語り

合い、テネシー大学との共同研究の模索までしていただいた。とても貴重な経験であり、感謝の意に耐えない。彼の英語は分からない部分もあったが、意思表示をすると丁寧に筆談を交えながらこちらに考えを伝えてくれた。

レジデントミーティング

毎週金曜日の朝はレジデントを中心とした研究発表会が行われていた。30 人くらいの狭い部屋に幅広い分野から教員を含む約 40 人が集まり、和やかな雰囲気で始まった。テーマは「ハーブの獣医療への応用の可能性」、「*Tricomonas・foetus* 感染とその病態生理の解明」であった。驚いたのはこの内容に関して直接関係しないであろう分野の先生も多く聴講していたことと、実際の発表からは（内容はスライドのみからの推測であるが）発表者の自由な発想からのテーマ設定および参加者含め情報に貪欲な姿勢が感じられたことである。この国の人たちは全員で効率的に情報を共有し、活用することが国民性として長けているのだろう。だとすればアップルやマイクロソフトやグーグルなどがアメリカ企業なのも頷けた。また、社会生活の効率化は昼食に食べたホットドッグの姿からもリアルに連想され、生活の多くにその国民性が如実に現れているような気がした。日本人が持つ「情緒」や「物の哀れ」などの気質はここではフィットしない異質なものであろうと思われ、まさに「異文化」を肌で感じた貴重な体験であった。

8 月 30 日～ 9 月 1 日（連休）

9 月の第一月曜日はアメリカの Labor Day という日本の勤労感謝の日のような祝日で、夏の終わりの 3 連休で多くの家族連れがキャンプや小旅行を楽しむ期間とのこと。この 3 日間は Kirk 先生が多くのイベントを企画してくれ、学生達も楽しそうであった。それらの詳細は学生の報告に譲る。

Dr. Ayako Oda

8 月 31 日（日）はテネシー大学でインターンをされている日本人獣医師、小田彩子先生にこちらから無理を言ってホテルまで来ていただき、皆で昼食会とした。小田先生は高校生からアメリカで過ごし、去年ノースカロライナ州の獣医大学を卒業され、テネシー大学に 1 年間のインターンシップに参加されている。小田先生はアメリカで獣医師をやっていく苦労や日米の生活や考え方の違いなどについて、3 時間近くもこちらからの質問に丁寧に答えてくれ、私と学生達はとても有意義な時間を過ごすことができた。彼女はいつか日本に帰って仕事がしたいとのことであったので、この出会いが学生達にとって良き縁になることを願った。

9 月 2 日～ 9 月 5 日（研修 6 ～ 9 日目）

研修も 2 週目に入り、いよいよ終わりが近づいてきた。ありがたいことに、ここまで事故もなく体調不良者も出ず、順調に研修を行ってきた。Kirk 先生をはじめテネシー大学の関係者のおかげである。2 週目になると少し学生達に研修の慣れと疲れが同時に出てきているように見えた。加えて 2 週目は最終日に研修内容のプレゼンテーションが予定されていたため、学生達は宿舎でその準備に多くの時間を費やしていた。ハードな研修スケジュールの中でのプレゼンテーションの準備は大変なものであろうと思われたが、各人精力的に情報収集やスライド・文章作成に励んでいた。

研修最終日プレゼンテーション

研修の最後の金曜日は午後から Kirk 先生が症例発表会を企画してくれた。任意という

ことであったが、研修学生全員が発表を行った。Kirk 先生は学生に対して何度もナーバスにならなくていいと声をかけてくださり、パワーポイントを使用する学生のためにパソコンまで貸与してくれた。聴衆はいくつかの科の教員やレジデントの先生達で総勢 10 名ほどであった。アメリカでは日本のように「大そうなものではありませんが、よろしくお願いします」、「こちらこそ真摯に受け止めます」という互恵の精神はない。むしろ、私の発表どうだ !! くらいの気持ちで堂々と発表する方が向こうのスタイルに合っていると感じた。学生達はそれぞれ気になった症例をまとめ、感謝の言葉を添えて発表した。学生の多くは人前で話すことに慣れていないため、途中で顔が下を向いてしまう場面もあったが、聴衆はとても温かく見守ってくれた。私自身も先方に今までの感謝の意を示すため、「Cultural difference between Japan and the US」という題で 8 分ほどの短い発表と謝辞を送った。内容が伝わったかは怪しいところだが、とても良い経験になった。

問題③：英会話

当初の予想通り英会話には非常に苦労した。Kirk 先生は我々のことを理解し、とてもゆっくりと単語も選んで話してくれたが、それでもよく理解できなかった。聞こえた単語を拾って想像で文意を理解するため、意思疎通が十分に取れていない場面も多かったと思う。Kirk 先生でその状態なので、他者との会話など全く理解不能だった。仕方ないと割り切って生活していたが、時間が経ってくると少しずつ聞こえる言葉が増え、会話が楽しくなってくるから不思議なものだ。現地の人たちは話すことが好きな人が多いので、積極的に会話してみるのも良い。一方、研究に関する話合いは専門用語と筆談に助けられ、何とか会話が成立した（と思う）。一方、学生達は英語漬けの研修であるためか、日に日にリスニング能力が上がっているように見え、吸収力の高さを感じた。

英会話で慣れは重要な要素であり、言語はやはり実際に使わなければその感覚は分からないと実感した。そこで、全く英語が話せない、でもこの研修への参加を考えているという学生には、日常会話でゆっくり話してくれたら半分くらい理解できるかも？くらいの英会話レベルで研修は問題ないので、あとは現地で何とかなるくらいの気持ちで是非チャレンジして欲しい。

9 月 6 日～ 7 日（帰路）

2 週間過ごした宿舎に別れを告げ、Kirk 先生と御主人にノックスビル空港まで送迎していただいた。私は日本に幼い息子と身重の妻を残して来たため、早く帰らねばならないという気持ちが強かったが、学生達は非常に充実した日々だったのだろう、とても名残惜しそうな表情を浮かべていた。Kirk 先生はテネシー大学で学生の生活指導、受け持ちの患者対応、対外的な仕事や学内の戦略会議、授業など多くの仕事を抱えておられる様子で、そんな超多忙の中で休みなく毎日我々のお世話をしてくれたことに改めて感謝したい。先生はいつも私と学生達を気遣ってくれていた。Kirk 先生だけでなく、テネシーでは多くの人が私たちを快く迎え、また、助けてくれた。本当にありがたいことであった。

最後に

今回の米国三大学夏期研修を通して、私は学生時代に海外で研修、国際交流を行う意味について考えてみました。その昔、この米国三大学夏期研修に対してある学生が冷やかに「ただの観光」と揶揄していたことを思い出しました。その学生は研修に参加したわけではなかったので真意はよく分かりませんが、

ただの観光で研修を終わらせるかどうかは学生本人の意識と認識次第であることに疑いの余地はありません。研修を終えて私はこの経験が獣医師を目指す若者にとって非常に価値が高いものであると信じます。実際の研修では知識が追い付かないことや言葉の問題などのため、多くの壁が存在することは事実でしょう。しかし、異国の地で人の優しさに触れ、異なる価値観の中に身を浸して感じ、考えた経験は若い感性を大いに刺激したと思います。

そして私が感じた他の一般的な研修との一番大きな差は、北里大学が今まで三大学との交流を継続してきた歴史がそこには確実に存在し、相手側の高いホスピタリティの意識が研修を終始サポートしてくれる点ではないかと考えます。慣れない環境で短期間に多くの価値ある結果を求めた場合、他者の協力を欠くことはできません。期間中に私がお会いしたある先生の部屋には数年前の夏期研修で北里の学生達と撮った写真が大事そうに飾られていました。過去に築いた友好関係の絆が今回の夏期研修を後押ししてくれたのだと思います。相手のことを知ろうとする、相手に自分のことを知ってもらう、この相互の歩み寄りによって信頼関係並びに友好関係は築かれていくのでしょう。それが例え小さな一歩であったとしても継続することで大きな力に変わり、また後に続くのだということを改めて考えさせられた今回の研修同行でありました。

ここに、今回の素晴らしい研修同行の機会を与えてくださり、サポートしていただいた獣医学部国際交流委員の皆様ならびに不在中の業務を代行していただいた諸先生方、動物病院関係者の皆様に対し心より御礼申し上げます。また、今回の素晴らしい研修同行の機会を共にした学生諸君に深謝いたします。

親愛なるテネシー大学の皆様へ

私達はあなた方のおかげで貴重な時間を過ごすことができました。スムーズなコミュニケーションができない私たちに対し、あなた方は親切に色々なことを教えてくれました。その恩は一生忘れることはないでしょう。日本の古い言葉に「恩義」という言葉があります。それは武士道に由来する言葉であり、与えられた恩に対して報いることを示します。私達はあなた方から受けた恩義を、これからの人生の中で他者に、社会に、世界に返していくでしょう。素晴らしい2週間をありがとうございました。加えて、この研修が両大学のみならず日米友好の架け橋になることを望みます。

Thanks to many people in UT, especially Dr.Kirk, I had a very good time. I went abroad for the first time, and I was not good at speaking English. So I was very anxious whether get along. But everyone in university was kindness to me, so it ended in imaginary fears. They listened my poor English, and they tried to understand of my thinking. I really appreciate thoughtful hospitality. This experience is treasure of my life.
When I go abroad next time, I want to speak English more and I want to talk with a lot of people who meet. I want to go Tennessee again! I learn Veterinary medicine more and I become a good veterinarian.
Thank you for everything.

Junko Sumimoto

Dear Dr Kirk

I am very happy to visit UT and meet you. This is my first stay abroad, so everything is new for me. I learned many things from students and doctors of UT.
Especially, Exotic department is very cool! I was very surprised to see that students of UT work positively. I want to meet you again ,so I will be back to UT someday. Thank you for your all kindness! I will never forget this practice and study hard in Japan more!

Yours sincerely

Takuya Goto

Dear Dr.Kirk
In these two weeks, I had a really substantial experience. I saw high motivation of students and effectiveness of the system ,and really realized difference of Japan and an American. In these two weeks, we supported by various people of the medical center of the Tennessee University.
Dr. Kirk took care for us while she is busy . We could thoroughly enjoy nature of Tennessee.It was very very good. With what I obtained in these two weeks , I want to connect it in the future.
Thank you very much.

Teruyo Kawasaki

To people who I met at Tennessee

The first day I visited the hospital of Tennessee University, I was so nervous and worried about everything. But Mrs. Kirk Smiled at me and said “It’s ok. Don’t worry.” Somehow I was relieved. The students and all the people in the hospital were also very kind to us. They allowed us to ask any questions and explained it until we understand it and let us do many things. Some students were very friendly to us and told us some jokes too. We appreciate every experience we had at the hospital. And we had a very good time having conversations with a lot of people. Every single day we were with Mrs. Kirk. She took us to the school, the football game, rafting, booms day… etc. I think she was thinking for us all the time. Thank you

very very much Mrs. Kirk. I'm glad that it was Mrs. Kirk that took care of us. I want to meet the people who I met at Tennessee again someday. Thank you for everything.

Tae Takeda

Dear Dr.Kirk & all of UTCVM,

Thank you for two weeks. I had a great time in this program. During two weeks, I could feel differences in veterinary medicine of USA and JAPAN.
I really enjoyed my stay in Knoxville because of you.
Thank you so much for teaching us Veterinary medicine & English. I never forget everything that I experienced at Knoxville. Your hospitality will always remain my memory.
I appreciate your kindness.
Thank you so much for everything.
I hope I have the good fortune of seeing you again.

With best regards,

Rika Tanaka

Dr. Kirk
Thank you for your kindness. I was surprised by high consciousness of the student. The life in Tennessee brought me much growth during a short time.

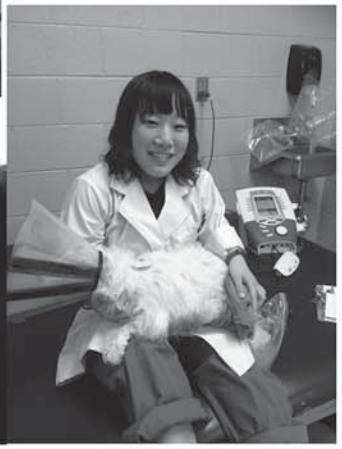
Shigekatsu Tada

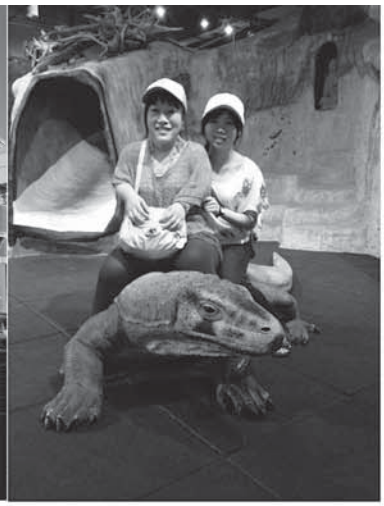
Dear Members of the University of Tennessee,

We have spent a precious and wonderful time here with your generous support. You have kindly taught us a lot even though we could not communicate smoothly. We will never forget your kindness and help. There is an old Japanese word "ONGHI". It means the obligation of gratitude to be repaid. We will treasure the ONGHI we have received from the members of this community in Tennessee, and will return it to other people, societies and the world throughout our lives. Thank you so much for the marvelous 2 weeks. In addition, I hope this training program acts as a bridge of friendship not only between both universities but between Japan and the United States.

Thank you.

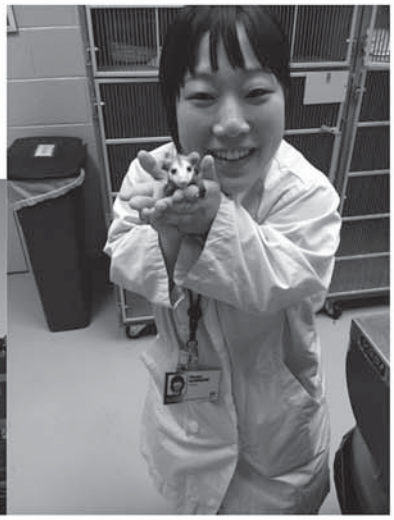
Seishiro Chikazawa





THE UNIVERSITY of TENNESSEE
VETERINARY MEDICAL CENTER

verizon



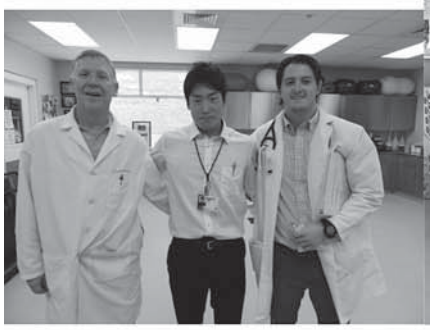
TENNESSEE

×

KITASATO

BOOMSDAY

A cultural difference
between the US and Japan
- My experience in Tennessee -



Wildlife
Client

北里大学 獣医学部 獣医学科
米国三大学夏期研修 2014

インディアナ州立 パデュー大学 獣医学部（6名）

Purdue University, School of Veterinary Medicine

West Lafayette, Indiana,　http://www.vet.purdue.edu

出国：8/2 （土）　成田 16:55 発　UA 882

帰国：8/17（日）　成田 16:00 着　UA 881

ジョージア州立 ジョージア大学 獣医学部（5名）

The University of Georgia, College of Veterinary Medicine

Athens, Georgia,　http://www.vet.uga.edu

出国：8/16（土）　成田 15:55 発　DL 296

帰国：8/31（日）　成田 16:30 着　DL 295

テネシー州立 テネシー大学 獣医学部（7名）

The University of Tennessee, College of Veterinary Medicine

Knoxville, Tennessee,　http://www.vet.utk.edu

出国：8/23（土）　成田 15:55 発　DL 296

帰国：9/7 （日）　成田 16:50 着　DL 295

学籍番号：＿＿＿＿＿＿＿＿　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Passport No.＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Schedule 1　Purdue University

http://www.vet.purdue.edu

研修先の担当の先生：Dr. J. Catharine Scott-Moncrieff
Purdue University School of Veterinary Medicine,
West Lafayette, IN 47907-1240, USA
Tel：+1-765-494-1107　　Fax：+1-765-496-1108

研修期間の宿泊先：Purdue Village
50 Nimitz Drive West Lafayette, IN 47907, USA
Tel：+1- 765-494-2090　　Fax：+1- 765-496-6828

出国：8/2 （土）　成田 16:55 発　UA882　帰国：8/17（日）　成田 16:00 着　UA881

参加者名簿（5名）

学生番号	氏　名	Name	所属研究室
VM211501	奥富 沙織	Saori OKUTOMI	小動物第１外科学
VM110010	井本 圭亮	Keisuke IMOTO	獣医薬理学
VM110028	加藤 寛也	Hiroya KATO	獣医病理学
VM110080	立花 由莉加	Yurika TATIBANA	獣医病理学
VM110087	豊原 光佑	Kosuke TOYOHARA	獣医放射線学

同行教員：岩井　聡美　Satomi IWAI

Flight information

Date	Flight	Flight No
8/2 （土）	成田 16:55 → シカゴ 14:25 シカゴ 16:45 → インディアナポリス 18:43	UA 882 UA 3462
8/16 （土）	インディアナポリス 09:56 →　シカゴ 10:01 シカゴ 13:20 → 成田 16:00 <8/17（日）着>	UA 5267 UA 881

出国時の集合日時と場所：8/2（土）14:00

成田空港第１ターミナル／南ウイング 4F ユナイテッド航空チェックインカウンターB 付近
http://www.narita-airport.jp/jp/guide/t_info/c_list_t1_south.html
（Tel：03-3817-4411／0570-064-777　http://www.united.com/web/ja-JP/Default.aspx）

※受託手荷物　往路および復路共に：重量 **23kg（50 ポンド）/個**を超えないこと。それぞれの手荷物の３辺(縦・横・高さ)の和が 158cm（62 インチ）を超えないこと。

Schedule 2　The University of Georgia

http://www.vet.uga.edu

研修先の担当の先生：Dr. Scott Brown (Associate Dean for Academic Affairs)
The University of Georgia College of Veterinary Medicine, Athens, GA 30602, USA
Tel：+1-706-542-5728　Fax：+1-706-542-1004　E-mail: sbrown01@uga.edu
Ms. Lakecia Pettway; Coordinator of Diversity and International Affairs lpettway@uga.edu

研修期間の宿泊先：
8/16: Omni Hotel at CNN Center,
100 CNN Center, Atlanta Georgia 30303 USA Phone: (404) 659-0000, Fax: (404) 525-5050
http://www.omnihotels.com/FindAHotel/AtlantaCNNCenter.aspx
8/17-29: The University of Georgia Center for Continuing Education (Georgia Center)
1197 South Lumpkin St, Athens, GA 30602-3603, Tel：(706)-542-2654　Fax: (706)-542-2635
http://www.georgiacenter.uga.edu/uga-hotel
最終日 8/29（金）-8/30(土)：Quality Hotel Conference Center
1551 Phoenix Boulevard, Atlanta GA30349, phone: 1-770-996-4321 Fax: (770) 991-5795
http://www.qualityinn.com/hotel-college_park-georgia-GA677

出国：8/16（土）成田 15:55 発　DL 296　　帰国：8/31（日）成田 16:30 着　DL 295

参加者名簿（4名）

学生番号	氏　名	Name	所属研究室
VM110012	鵜海 敦士	Atsushi Ukai	獣医解剖学
VM110015	梅山 直樹	Naoki UMEYAMA	小動物第二外科学
VM110060	志和　希	Nozomi SHIWA	獣医病理学
VM110083	土屋　可奈	Kana TSUCHIYA	獣医微生物学

同行教員：　夏堀　雅宏　Masahiro NATSUHORI

（同時参加：鹿児島大学：学生 6 名および同行教員：徳永暁先生 1 名）

Flight information

Date	Flight	Flight No
8/16(土)	成田 15:55 → アトランタ 15:26	DL 296
8/30(土)	アトランタ 13:47 → 成田 16:30 ＜8/31(日）着＞	DL 295

出国時の集合日時と場所：8/16（土）13:30

成田空港第 1 ターミナル／北ウイング 4F デルタ航空チェックインカウンターC 付近
http://www.narita-airport.jp/jp/guide/t_info/c_list_t1_north.html
（Tel：0570-07-7733/0476-31-8000）

※受託手荷物　往路および復路共に：重量 **23kg（50 ポンド）/個**を超えないこと。それぞれの手荷物の 3 辺(縦・横・高さ)の和が 158cm（62 インチ）を超えないこと。

Schedule 3　The University of Tennessee

http://www.vet.utk.edu

研修先の担当の先生：Claudia A. Kirk, DVM, Ph.D.
Department Head Small Animal Clinical Sciences, University of Tennessee
College of Veterinary Medicine, PO Box 1071, Knoxville, TN 37901-1071, USA
Tel：+1-865-974-8387　　Fax：+1-865-974-5554　E-mail: ckirk4@utk.edu

研修期間の宿泊先：Homewood Suites at Turkey Creek
Address: 10935 Turkey Drive, Knoxville, TN 37922
Telephone: 1-865-777-0375

出国：8/23（土）成田 15:55 発　DL 296　　帰国：9/7（日）成田 16:50 着　DL 295

参加者名簿（6名）

学生番号	氏　名	Name	所属研究室
VM110036	川崎 輝世	Teruyo KAWASAKI	小動物第二外科学
VM110052	後藤 拓弥	Takuya GOTO	獣医解剖学
VM110065	住本 純子	Junko SUMIMOTO	獣医病理学
VM110077	武田 妙	Tae TAKEDA	獣医生理学
VM110079	多田 成克	Shigekatsu TADA	獣医毒性学
VM110082	田中 梨香	Rika TANAKA	獣医放射線学

同行教員：　近澤　征史朗　Seishiro CHIKAZAWA

Flight information

Date	Flight	Flight No
8/23（土）	成田 15:55 → アトランタ 15:26 アトランタ 19:05 → ノックスビル 20:04	DL 296 DL 5478
9/6（土）	ノックスビル 09:35 → アトランタ 10:32 アトランタ 13:46 → 成田 16:50 <9/7（日）着>	DL 3303 DL 295

出国時の集合日時と場所：8/23（土）13:30

成田空港第 1 ターミナル／北ウイング 4F デルタ航空チェックインカウンターC 付近
http://www.narita-airport.jp/jp/guide/t_info/c_list_t1_north.html
（Tel：0570-07-7733/0476-31-8000）

※受託手荷物　往路および復路共に：重量 **23kg（50 ポンド）/個**を超えないこと。それぞれの手荷物の 3 辺(縦・横・高さ)の和が 158cm（62 インチ）を超えないこと。

注意事項

1）　成田空港まで

成田空港ホームページ　　http://www.narita-airport.jp/jp/

JR、京成電鉄およびリムジンバスが成田空港に乗り入れています。
何れも本数が限られていますので、余裕をもって乗車しましょう。
目安の所要時間
JR：総武線と成田線の快速で東京駅から 80 分
　成田エクスプレス（座席指定が必要）も各地（東京、横浜等）からあります。
京成電鉄：京成上野駅からスカイライナー（座席指定が必要）で約 60 分。
　特急約 75 分、料金 1000 円は最も経済的。その他の快速や急行などでは、
　乗り換えがあり、時間がかなりかかります。

第２ターミナル利用	→	空港第２ビル駅下車
第１ターミナル利用	→	成田空港駅（終点）下車

リムジンバス：各地（東京、大宮等）からありますが、道路事情で所要時間が大きく左右されますので利用は控えた方がよいでしょう。

2）　飛行機へのチェックイン（搭乗 24 時間前より Web チェックイン可能）
成田空港の各航空会社のカウンターで行います。
旅行代理店から渡された搭乗券（boarding pass）とパスポートを航空会社のカウンターに提示して、チェックインします。このとき、大きなスーツケースを預けます。これはアメリカ入国まで戻ってきません。貴重品や成田空港内、機内で必要なものは別に 1 個の手荷物にして持っていきましょう。これから海外旅行を繰り返す可能性のある人は、マイレージサービスなどの手続きをするのも良いでしょう。

3）　荷物チェックリスト
手荷物
パスポート（紛失・盗難に備えてコピーと写真２枚も準備しておくと安心です）
航空券
現金／トラベラーズチェック
海外旅行傷害保険証および関連資料（米国での医療費は大変高額です）
ノートパソコン、デジカメなど（あるいはカメラとフィルム）
筆記用具
スリッパ（機内と宿舎内で便利）
クレジットカード（パスワードがあれば覚えておく）
その他（安眠枕、耳栓、アイマスク、ガム、ウェットティッシュ、コンタクトなど）

一泊分の衣服（スーツケースが一緒に到着しなかった場合に重宝）

スーツケースなど
常備薬（解熱薬、虫ささされ、防虫スプレー、胃腸薬等）
洗面用具（ボディーソープ、シャンプー・リンス、ひげ剃り、ブラシ、洗顔石鹸、
歯磨きセット、タオル、ハンカチ、ティッシュペーパー、爪切り）
洗濯用具（洗剤、洗濯バサミ、洗濯ロープなど）
デイパックなど（ちょっと出かける際に便利）
衣類（圧縮袋を使うと便利）
ビニール袋（いろいろ便利）
ガムテープ（スーツケース修理など、いざというときに重宝）
目覚まし時計（遅刻しないように）
＊眼鏡を使用している人は、予備の眼鏡を持って行くのが望ましい

注意！！
- アメリカへ行く際、スーツケースに鍵をかけると、中身のチェックのために鍵を壊されます。無用なトラブルを避けるには、鍵をかけないか、あるいはTSAロックと呼ばれる鍵の付いたスーツケースやバンドを使用した方がよいでしょう。
- テロ関連で機内持ち込みが制限されているもの（飲料水や化粧品、コンタクトレンズ洗浄液など）は、手荷物ではなくスーツケースに入れましょう。詳しくはホームページ等で確認ください。http://travel.univcoop.or.jp/shuppatsu/tokou_06.html
- 無料で預けられる荷物のサイズを航空会社ホームページで確認しましょう。
- 盗難や破損を防ぐため、カメラ・ビデオ・ノートパソコンは預けてしまうスーツケースに入れないで、機内に手荷物で持ち込みましょう。
- 渡航前に歯の治療を済ませておきましょう。米国での歯科治療費は保険でカバーできません。

4）報告書
学外実習のレポート以外に、研修の報告書を作成してもらいます。原稿用紙5枚程度の体験記をまとめ、コンピューターで作成した文章のデータをフロッピーやCDで提出してもらいます。実習中に日々の研修活動やレクリエーションについて、こまめに記録をしておきましょう。お世話になった現地の先生方へも報告書を送るので、英語でまとめの文章を必ず書いてください。**（報告書提出締切9月26（金）、同行教員まで）**

5）海外旅行保険
アメリカでは病気や怪我の治療には、保険がないため大変高額な医療費を要求されます。そこで、皆さんには予め海外旅行用の損害保険に加入してもらいました。保険証書といっしょに、推奨の医療機関や日本語の通じる医者などのリストが渡されたはずですので、この資料を各自が忘れずに携帯してください。

6）　国内連絡先

北里大学獣医学部
青森県十和田市東 23 番町 35-1　獣医生化学研究室
0176-23-4371 (内線 410)
担当者：折野　宏一　准教授、 e-mail：orino@vmas.kitasato-u.ac.jp

Kitasato University,
School of Veterinary Medicine,
Higashi 23-35-1, Towada, Aomori 034-8628, JAPAN
Tel：+81-176-23-4371 (ext. 410)　　Fax：+81-176-23-8703
Assoc. Prof. Koichi ORINO,　e-mail：orino@vmas.kitasato-u.ac.jp

7）　その他

パスポートと出国・入国手続き

- 出国カードは早めに書いておきましょう。出国審査官の前では混雑のため書けません。
- 機内で渡されるアメリカ入国審査用の用紙にはすぐに記入しましょう。
  その際にはパスポートの置忘れに注意！貴重品はいつも同じ場所にしまいましょう。
- アメリカ入国の際、審査官が乗って来た航空機の便名、訪問理由、訪問先、滞在期間などを聞きます。予め英語で答えられるようにしておきましょう。
- アメリカ入国審査官が出国時に必要なカードをパスポートにホッチキスで止めてくれます。これがないと帰国できなくなるので、紛失注意。
- テロ対策で指紋を取られることがあります。その際、少しでも犯罪者のものと似ていると、取り調べが行われます。何を調べられても良いように、荷物や持ち物はきちんと整理して入れておきましょう。
- アメリカから植物や果物は持ち込めません。また、牛肉製品（ジャーキーなど）は成田空港で没収される可能性が高いので注意してください。
  関連情報 http://www.narita-airport.jp/jp/travel/kinsi/index.html

お金など

- クレジットカードは自分の信用証明にも役立ちます。JCB と American Express よりは VISA と MasterCard の方が対応する店舗が多く、使いやすいかもしれません。ただし、いずれにしても、最近は使用する際に 4 桁のパスワードを求められる場合が多いので、各自確認しておきましょう。
- 最初に入る国の現金 100 ドル程度を小銭 1-5 ドル札と 20 ドル札に分けて持っておけば何かと小用の買い物に便利です（土日は銀行が休みだったり、朝早く、また夜遅くに飛行機が着いて両替できないことがあります)。100 ドル札（特に未使用札）の使用は嫌がられることもあります。
- 免税店は最後に搭乗する空港でだけ利用できます。チェックイン後、搭乗までが買い物時間。

- チップについては、レストランでは15%、タクシーでは10%、ホテルではピローチップを毎朝1ドルぐらい、重いバッグを持ってもらっても1ドルで十分です。
- 帰国後、ドル札は日本円に換金できますが、コインは換金できません。帰国直前までに（空港等で）コインを最優先で使い切るようにすればムダがありません。
- 大学内でも不用意に財布を置かないように！カバンと一緒でも置き忘れると盗難に遭う可能性は高いので、注意しましょう。

その他

- アメリカはサマータイム中のため、実際の時差より1時間早いことに注意しましょう。
- 室内は禁煙が原則です。ホテルの部屋でも禁煙の所も多いので、喫煙可能な場所を確かめましょう。
- 飛行機のリコンファーム（予約再確認）は不要です。
- 電気製品は電圧の違いで使えないことがあります。
- 水着を持って行っておくと、キャンパスにあるプールに入れるかも。
- 電話：海外から日本へ通話するには、オペレーターを通すよりもクレジットカードがあれば安くて簡単です。かけ方は概ね次のとおり：受話器を取り、カードを通して、0081（日本の国番号）を押し、その後にかけたい相手先の電話番号から最初の0をとったものを押します。また、いざというときのために、出国前に自分の携帯電話をアメリカでも使用できる物に交換できるサービスを利用するのも良いでしょう。もちろん料金は割高です。

Purdue University Small Animal Hospital Dress Code Guidelines

Ⅰ. Purpose

To establish dress code standards which promote professionalism and that ensure the health and safety of the small animal hospital staff and patients.

Ⅱ. Attire:

A. All attire should be clean and neat.

B. Protective lab coats/uniforms shall be clean and worn at all times when working with animals. A clean coat/uniform should be donned if the original becomes soiled.

C. Hospital nametags/identification badges shall be worn in plain sight at all times by faculty and staff members who are on the hospital premises. There shall be no defacement of the nametags (i.e. stickers, tape, pens etc.)

D. Footwear must be worn at all times in the hospital and must be clean, conservative, protective and appropriate for the work environment. Thongs, opened-toed sandals, athletic shoes and stiletto-type heels are discouraged but acceptability is ultimately left to the discretion of the supervising clinician or section head. (See Section V)

E. Men must wear clean and neat slacks, dress shirts and socks. Ties are encouraged on receiving days. The supervising clinician shall decide whether wearing a tie is required or not. Jeans and shorts are not acceptable.

F. Women must wear clean and neat slacks, blouses, skirts or dresses. No jeans, shorts, low cut blouses or excessively short skirt lengths are permitted. Garments made of transparent material are not acceptable.

G. All pants and or dresses should be of reasonable length and should not drag on the floor.

H. Midriffs shall not show whether due to low riding pants or short shirts/ blouses.

I. NO head covers (i.e. hats or scarves) shall be worn indoors when receiving patients. (See section V)

Ⅲ. Personal appearance:

A. Hair (including beards and mustaches) shall be kept neat (trimmed and groomed), clean, and combed with no extreme styles, colors, or hair ornaments attached.

B. Fingernails shall be clean, manicured and of appropriate length. (For example surgery rotations require short nails that will not penetrate surgical gloves.)

C. All make-up shall be worn in moderation.

D. Moderately styled jewelry may be worn. Extraneous jewelry such as long dangling earrings can be dangerous and is discouraged.

E. Refrain from wearing excessively strong scented perfumes, colognes and aftershaves. Many clients and staff are sensitive to them.

F. Tattoos should be covered during receiving times. No tattoos that convey extremist views should be visible at this workplace. Such displays diminish work unit cohesion, create an atmosphere of intimidation and hostility and interfere with productivity and morale.

Ⅳ. Non-adherence:

A. The supervising clinician or section supervisor ultimately determines if the dress is satisfactory. If dress is determined to be unacceptable, students or staff shall be asked to meet the set guidelines before being allowed to participate in clinic activities.

B. Absence due to non-conformance MUST BE made up.

C. Further disciplinary actions may be taken if patterns of non-compliance to these standards are observed.

V . Exceptions:

A. Exceptions to these standards may be allowed if cultural, religious or medical reasons can be established.

B. Exceptions to the guidelines may be made when activities requiring a different type of dress are necessary.

SVM Administrative Document #47
Date Approved by EXCOM: 5/1/08

Policy on Clinic and Laboratory Attire in Public Areas

The following policy was drafted by the Infectious Disease Committee and the Executive Committee of the Dean and approved by the Executive Committee. The goal is to prevent possible contamination of public areas in the SVM.

1. Hand washing is required before leaving a clinic or laboratory area.

2. Boots/shoes and outerwear soiled with animal excrement, bedding, or other similar material must not be worn outside of the clinic or laboratory area. Such items must be removed prior to leaving the clinic or laboratory area.

3. Only clean outerwear should be worn outside of clinic or laboratory areas.

   No materials that are used with animals such as gloves, masks, surgery hats, surgery booties, etc. are allowed in dining or public areas. These items should be left in the clinic or laboratory areas.

平成26年度　北里大学 獣医学部 獣医学科